司法大臣官房
記錄課

司法省文庫
第6932號

治罪法草案註釋第二篇

○目次

第二篇　犯罪ノ搜索、起訴及ヒ豫審　自第百六條至第三百條　一〇〇

第一章　犯罪ノ搜索　自第百六條至第百二十一條　二

第一款　告訴及ヒ告發　自第百七條至第百十三條　三

第二款　現行犯罪　自第百十四條至第百二十一條　七

第二章　犯罪ノ起訴　自第百二十二條至第百二十八條　五六

第一款　檢察官ノ起訴　自第百二十二條至第百二十四條　五八

第二款　民事原告人ノ起訴　自第百二十五條至第百二十八條　六〇

第三章　豫審　自第百二十九條至第二百五十七條　八五

前置條例　自第百二十九條至第百三十二條　八五

第一款　命令　自第百三十三條至第百五十五條　一〇〇

第二款　密室監禁　自第百五十六條　至第百五十九條　一六三
第三款　證據　自第百六十條　至第二百十七條　一七六
通則
第一節　訊問及ヒ對質　自第百六十條　至第百六十二條　一七六
第二節　檢證、家宅搜索及ヒ證據物件ノ差押　自第百六十三條　至第百七十二條　二一〇
第三節　證人訊問　自第百七十三條　至第百八十四條　二一四
第四節　鑑定　自第百八十五條　至第二百八條　二二〇
第四款　現行犯罪ノ豫審　自第二百九條　至第二百十七條　二三四
第五款　假釋　自第二百十八條　至第二百二十九條　三二四
第六款　豫審ノ終結　自第二百三十條　至第二百三十七條　三四五
第四章　豫審ノ所爲ニ對スル上訴ノ手續　自第二百三十八條　至第二百五十八條　三六四
目次終　自第二百五十八條　至第三百條　四〇八

治罪法草案註釋第二篇

傑、博散德 著
小山田銓太郎 譯

XB620
B 10
2 b

第二篇　犯罪ノ搜索、起訴及ヒ豫審（ルッセルシュ、ブールシュイット、アンストリュクシヨン）

要旨

第百八十六號　本篇三箇ノ目的○三章ニ分ツ事

〔第百八十六號〕本篇ハ檢察官及ヒ豫審判事カ各自ニ屬セル二箇ノ職務ヲ記ス此職務ハ相待テ固定シ調査スル者ナレトモ以テ牴觸スヽ、ブチルチヒヤン、スーコントロラン）可カラス又混淆ス可カラス

抑ミ犯罪ノ搜索殊ニ訴訟ノ端緒（デビュ）ハ檢察官ノ職ニ屬シ豫審判事ハ後チ之ヲ審理ス可キノ理アラハ受テ之ヲ精細ニ討究完全ナラシムル者トス

起訴ハ社會ノ名義ヲ以テスル時ハ檢察官ニ屬シ損害ノ賠償ノ爲メニハ民事原告人タル被告人ニ屬スル者ナリ

豫審ハ獨リ豫審判事ノ職權(ヲヒース)ニ屬スト雖モ其主トスル所捜索ヲ遂ケンカ爲メニハ非ス檢證(コンスタタシヨン)、證據ノ査定及ヒ法律上被告人ニ對シテ行フヿヲ許ス所ノ相當ノ處置(ムジユール)ヲ施サンカ爲メナリ

本篇ヲ三章ニ分チタル事ハ以上説ク所ヲ見レハ自(オ)カラ指示セラレタル者トス

第一章　犯罪ノ捜索

檢察官ノ二箇ノ職務

第百六條　政府ノ目代(コンミセール、ヂユ、ジーベルヌマン)ハ後ニ豫定シタル所ニ從ヒ告訴、告發又ハ現行ノ所爲(アクト)或ハ總テ其他ノ方法ニ因リ犯罪ヲ認知シ又ハ犯罪ノ嫌疑(スープソン)ヲ爲シタル時ハ其證據徵候(アンヂース)及ヒ其正犯(テートール)又ハ從犯(コンプリース)ヲ捜索シ而シテ第百二十二條以下ニ記スル如キ起訴ノ手續ヲ爲ス可シ(治第九十二條○草第三

十四條、第百二十二條以下○佛治第八條、第十條、第二十二條)

第一款　告訴及ヒ告發(デノンシアシヨン)

被害人ノ告訴

第百七條　何人ニ限ラス重罪又ハ輕罪ニ因リ害セラレタリト主張スル者ハ犯罪ノ地若クハ被告人所在シ得可キ地ノ豫審判事、輕罪裁判所附政府ノ目代若クハ凡テノ司法警察官吏ニ告訴スルヲ得可シ

續キ

若シ告訴ヲ豫審判事ニ爲シタル時ハ豫審判事ハ第百三十條ヨリ第百三十二條マテニ記スル所ニ從ヒ處分ス可シ

續キ

若シ告訴ヲ政府ノ目代ニ爲シタル時ハ政府ノ目代其事件禁錮若クハ一層重劇(グラーブ)ナル刑ヲ引起(アントレイヲイー)スル者ト見ヘ且ツ至急ヲ要スル時ハ最初ノ檢證(パレイー)及ヒ被告人、證人訊問(アンプロガトリール)ノ手續ヲ爲スヿヲ得、然ル後ヲ其書類ヲ管轄(ブルミユール)豫審判事ニ送致ス可シ若シ自己ノ意見又ハ請求書(レキシヨン)アル時ハ之ヲ其書類(プエース)ニ添ヘテ送ル可シ

犯罪ノ捜索　告訴及ヒ告發

續キ

司法警察官モ亦至急ヲ要スル場合ニ於テハ前述ノ訊問及ヒ檢證ヲ爲スヿヲ得但シ其書類ハ之ヲ所轄スル政府ノ目代ニ送致ス可シ

續キ

違警罪ニ就テノ告訴ハ其犯罪ノ地ノ違警罪裁判所ノ判事若シハ該裁判所附ノ政府ノ目代ニ之ヲ爲スヿヲ得又其他凡テ司法警察官ニモ亦之ヲ爲スヿヲ得而シテ司法警察官ハ其告訴狀ヲ違警罪裁判所ノ判事ニ送致ス可シ(治、第九十三條○草、第二條、第三條、第十八條、第十九條○佛治、第六十三條以下、第二百七十五條)

第百八條　告訴人ハ成ル可ク凡テノ事實參考及ヒ證憑ヲ其告訴狀ニ添ユ可シ

(ランセーギュマン)

讓リ

又告訴人ハ後ノ第二章第二款ニ記スル如ク管轄判事ノ前ニ民事原告人ト爲ルヿヲ得(治、第九十四條○草、第二條、第百二十五條以下○佛治、第六十六條、第六十七條)

法式

第百九條　告訴ハ告訴人ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲ス可シ又告訴ハ口頭ヲ以テ公ケノ官吏ニ爲スヿヲ得公ケノ官吏ハ其書面ヲ作リ之ヲ告訴人ニ讀聞カセ告訴人ト共ニ之ニ署名捺印ス可シ

(アクト)

告訴人署名捺印スルヿ能ハサル場合ニ於テハ其旨ヲ附記ス可シ

右二箇ノ場合ニ於テハ告訴人ニ其申立テノ認證書(デクララシヨン)(セルチフヒカート)ヲ云フ領證ヲ渡ス可シ(治、第九十五條○草、第二十七條、第二十八條○佛治、第三十一條、第六十五條)

官吏ニ依レル告發

第百十條　總テ公ケノ官吏其職務執行上、重罪、輕罪ヲ認知シ又ハ其嫌疑ヲ懷ケル時ハ直ニ其職務ヲ行フ地ノ政府ノ目代ニ之ヲ告發ス可シ」

(インメジアットマン)

告發ハ官吏ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヲ要ス而シテ其官吏ヨリ供シ得ル丈ケノ事實參考及ヒ證憑ヲ添ユルヲ要ス

違警罪ニ關シテハ其告發ハ違警罪裁判所附政府ノ目代ニ之ヲ爲ス可

シ(治、第九十六條○草、第二十條○佛治、第二十九條、第三百五十八條)

常人ニ依レル告發

第百十一條　凡ソ常人及ヒ職務執行外ノ官吏犯罪ヲ認知シ又ハ其嫌疑ヲ懷ケル時ハ第百八條及ヒ第百九條ニ定メアル規則ニ循ヒ犯罪ノ地若クハ犯罪人所在ノ地ノ司法權(ヂュディシエール)ニ告發スルヿヲ得

告發ヲ受ケタル官吏ハ第百七條ニ記スル所ニ從ヒ處分ヲ爲ス可シ(治、第九十七條○草、第十八條、第十九條○佛治、第四十八條以下、第三百五十九條)

名代人

第百十二條　告訴人及ヒ常人タル告發人ハ部理代人(フチンデ、ド、プーボアール、スペシアール)ヲ以テ代理(パルチキユリエー、デンシアトール)セシムルヿヲ得可シ

委任狀ハ告訴狀又ハ告發狀ニ之ヲ附添ス可シ

幼者、治產ノ禁ヲ受ケタル者又ハ結婚セル婦ノ告訴ハ父、後見人若クハ夫ニ依テ之ヲ爲シ有効トス(ラーブルマン)(治、第九十八條○草、零○佛治、第三十一條)

願下

取引

修正

第百十三條　法式ニ循ヒ告訴人ハ常ニ其告訴ヲ願下ケ告發人ハ其告發ヲ引取リ(或ハ取消シトモ譯ス此字ハ專ラ告發ニ附シテ用ユ)及ヒ告訴人、告發人共ニ其申立ヲ修正又ハ變更(モヂヒユー)スルヿヲ得但シ被告人ヨリ損害賠償ヲ求ムルハ此限ニ在ラス

告訴人、告發人願下ケ又ハ引取ノ理由ヲ申立ルヿヲ得可シ然レトモ必シモ之ヲ要スルニ非ス(治、第九十九條○草、第六條○佛治、第六十六條、第六十七條、第三百五十九條)

第二款　現行犯罪(アンフラグランシヨン、フラグラント)

現行犯罪

第百十四條　現行犯罪トハ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル時ニ發覺シタル罪ヲ謂フ(治、第百條○草、零○佛治、第四十一條第一項)

現行犯罪ニ准セラルヽ場合

第百十五條　左ノ場合ハ重罪又ハ輕罪ノ現行犯ニ准ス

第一　一人又ハ數人助ケヲ呼ヒツヽ一個ノ人ヲ追躡スル場合

第二　一個ノ人重罪又ハ輕罪ノ正犯又ハ從犯ト思料セラル可キ性質ノ武器、器械其他ノ物件ヲ携帶スル場合

第三　非現行ト雖モ家長其家宅内ニ於テ犯サレタル重罪、輕罪ヲ檢證スル爲メ又ハ罪犯ナリト思料セラレタル者ヲ捕獲スル爲メ裁判官ノ臨檢(アッシスタンス)ヲ請求シタル場合(治、第百一條○草、零○佛治、第四十一條第二項、第四十六條)

犯罪人ノ取押ヘ

第百十六條　凡テ公力者又ハ凡テ公力者ヲ指揮(デスポゼー)シ若シクハ公力ヲ請求スルノ權利ヲ有スル官吏其職務執行中重罪又ハ禁錮或ハ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ現行犯アルヿヲ知リタル時ハ逮捕令狀(マンダ、ダレスタシヨン)又ハ逮捕ノ命令(ヲルドル)ヲ待タスシテ其人ヲ取押又ハ之カ取押ヲ爲サシム可シ

現行ノ重罪又ハ輕罪ニ準シタル場合ニ於テ其逮捕ハ景狀ニ從テ處分セラル可シ(治、第百二條○草、零○佛治、第十六條第四項、第五項、第四十條以下)

續キ

第百十七條　捕獲シタル被告人ハ直ニ豫審判事若シクハ政府ノ目代又ハ司法警察官吏中ノ一人ニ之ヲ引致ス可シ

續キ

該裁判官ハ逮捕ノ調書及ヒ之ニ附屬ス可キ書面又ハ口頭ヲ以テスル告發ノ調書ヲ作ル可シ(治、第百三條)

續キ

第百十八條　司法警察官吏親ラ逮捕ヲ爲シタル時ハ後チノ第三章第四款ニ記スル如ク直ニ躬ラ被告人ノ訊問及ヒ急速檢證ノ處分ヲ爲ス可シ(治、第百四條○草、零○佛治、第四十九條、第五十條)

續キ

第百十九條　其他ノ官吏及ヒ常人ト雖モ現行ノ重罪、輕罪ノ場合及ヒ第百十五條ノ第一項、第二項ニ豫定セル場合ニ於テハ逮捕ノ權利ヲ有ス(治、第百五條○草、零○佛治、第百六條)

續キ

第百二十條　前條ノ場合ニ於テ若シ逮捕ヲ爲セル本人躬ラ被告人ヲ

第百十七條ニ指示セル裁判官ノ一人ニ引致スルヿヲ得サル時ハ其逮捕ノ原由ト摸樣トヲ告ケ且ツ自身ノ氏名、職業、身分及ヒ住所ヲ陳述シ之ヲ公力者ニ引渡(デポーズラ)ス可シ

且ツ逮捕者ハ最モ短キ期限内ニ第百九條ニ掲ケタル法式ニ循ヒ該裁判官ノ一人ニ其告發ヲ爲ス可シ

續キ

被告人又ハ公力者ハ逮捕者ニ對シ共ニ裁判官ノ面前ニ至ランヿノ請求ヲ爲スヿヲ得此場合ニ於テハ逮捕者ハ正當ノ差支アルノ外此請求ニ從フヲ要ス(デプエレイー)(治、第百六條)

續キ

第百二十一條　現行犯罪ノ檢證及ヒ豫審ニ關スル特別規則ハ第二百十八條以下ニ於テ之ヲ定ム(治、零〇草、零〇千八百六十三年五月二十日ノ法律)

要旨

第一款

第百六條

第百八十七號　檢察官及ヒ其輔佐官ノ搜索(チーキミリエール)

第百八十八號　佛蘭西法典中檢察官及ヒ其輔佐官ノ權限、釋義ノ瑕瑾

第百七條

第百八十九號　何人ニ告訴ヲ爲ス可キ乎、豫審判事、政府ノ目代

第百九十號　犯罪地外ニ管轄ノ擴張

第百八條

第百九十一號　告訴人、民事原告人、讓リ

第百九條

第百九十二號　告訴ノ法式

第百十條

第百九十三號　官吏義務上ノ告發（チブリガトリール）

第百十一條

第百九十四號　常人隨意ノ告發（フアキユルダチーブ）

第百十二條

第百九十五號　常人ノ名代人ニ依レル告訴及ヒ告發

第百十三條

第百九十六號　告訴ノ願下、告發ノ引取、告訴及ヒ告發ノ變更又ハ修正

第二款

第百十四條

第百九十七號　現行犯罪、佛蘭西法典ノ不當ノ釋義（モーベーズ）

第百十五條

第百九十八號　准現行犯罪三箇ノ場合

第百十六條

第百九十九號　眞現行犯罪、令狀ナキ逮捕

第二百號　准現行犯三箇ノ場合、逮捕前ノ簡略ノ調査（ソンメール）（エキザマン）

第百十七條及ヒ第百十八條

第二百一號及ヒ第二百二號　逮捕ノ續キ

第百十九條

第二百三號　常人逮捕ノ權利及ヒ公力者ノ外官吏逮捕ノ權利、第三ノ場合ノ例外

第百二十條

第二百四號　常人逮捕ノ續キ

第百二十一條

第二百五號　第三章第四款ニ讓ル事

第百六條

〔第百八十七號〕抑〻犯罪ノ最初ノ搜索ハ檢察官ニ屬スト雖モコハ其管轄區域內ニ於テ犯罪アルヤ否ヲ訐發センカ爲メ時日ニ閑暇ナク場所ニ空處ナク終始隱密探偵(アンベスチガシヨン)ヲ爲スノ本務若クハ權利アリトノ謂ヒニハ非ス○檢察官ハ犯罪ノ事實ヲ認知シ又ハ其嫌疑ヲ懷ケル場合ニ於テノミ之ヲ爲ス者ナリト理上常ニ之ヲ思考セサル可カラス○斯ノ事タル甚タ不充分ナルカ如シト雖モ是レ則チ通常檢察官搜索ヲ爲スノ起點及ヒ基礎(ポワン、ド、デパール)トナル所ノ者ナリ

法律ノ初步ノ事實參考ハ被害人ノ告訴ニ因ルモ公私何レノ人タル

ヲ問ハス事實ヲ認知セル人ノ告發ニ因ルモ又或ハ其他ノ方法ニ因ルモ必ス政府ノ目代ニ達スルヿヲ規セリ所謂ル其他ノ方法トハ公ケノ風評(ブルイー)又ハ急速ノ場合ニ於テ政府目代ノ輔佐タル司法警察官吏(ヂーキシリエール)親カラ告訴、告發ヲ受ケ若クハ現行犯罪ノ證人タルヲ以テ初步ノ檢證ヲ爲ス等ヲ謂フ

斯ク第一ノ基礎既ニ定マルニ依リ政府ノ目代他日訊問セラル可キ證人ヲ知ランカ爲メ並ニ豫審判事公判判事ノ審理ス可キ證據及ヒ自己ノ鑑定ス可キ證據ヲ發見センカ爲メ場合ノ輕重ニ隨ヒ多少隱密ノ法(シカタ)ヲ用ヒ或ハ親カラ審問ヲ爲シ或ハ其輔佐官ヲシテ之ヲ爲サシムルヿ有リ

是等ノ證據ハ犯罪ノ事實及ヒ其模樣ニ關シ併セテ其本人タル者ノ身體ニ及フヿヲ得

右ニ述フル所ハ即チ本條ノ單純ナル最初ノ趣旨、(即チ大本)ニシテ其主タル目的ハ以下ノ二款ヲ喚起セントスルニ在リ其二款中一ハ告訴、告發ニ關シ一ハ現行犯ニ關セリ

(第百八十八號) 日本草案ニ於テハ佛蘭西法典ノ如ク檢察官及ヒ司法警察官ハ犯罪ヲ搜索スルノ外「證據ヲ聚集シ及ヒ犯人ヲ法廳ニ引渡ス可シ」トノ語ヲ用ヒス(佛治、第八條、第十條及ヒ第二十二條ヲ比較セヨ)

檢察官及ヒ其輔佐官ハ現行犯ノ例外ノ場合及ヒ急速ヲ要スルノ外、被告人又ハ證人ヲ訊問ス可カラス又假令ヒ之ヲ訊問スルモ其訊問ヲ證スル調書ヲ作ル可カラサル「ヲ以テ原則トス又家宅臨檢、家宅搜索、物件差押ヘ並ニ之ニ就テ爲ス所ノ檢證ノ手續等ハ總テ檢察官ノ預ル所ニ非ス故ニ檢察官ハ「證據ヲ聚集ス」ト謂フヲ得ス蓋シ該官吏ハ事實參考トナル可キ者ヲ集取スルニ過キス其事實參考トナル可キ者ハ即チ檢察官ヲシテ豫審判事又ハ直ニ裁判所ニ訴フ可キ者タル「ヲ知ラシメ若クハ諸般ノ起訴ヲ爲ス可カラサル「ヲ覺知セシムル者ナリ(看第百二十二條)

證據ノ正シク生スルハ獨リ豫審判事ノ面前又ハ裁判所ノ法廷ノミ」斯ノ如クシテ始テ正シト謂フ可キノミ何トナレハ檢察官ハ刑事訴訟ノ原告人ノ職務ヲ行ハサル可カラサル者ナレハ自カラ己レノ陳述スル證據ノ預備ヲ爲シ又ハ之ヲ創制スルヲ得サルナリ

檢察官ハ固ヨリ忠信敦篤ノ人タル可シト雖モ社會ヲ愛スル心ノ過度ニシテ以テ事實ヲ擴大ト爲シ或ハ强テ證據ヲ求メ或ハ證據ノ性質ヲ變シタリシヤ否ヤノ疑ヲ招ク等ノ「有ル可カラス

又檢察官及ヒ其輔佐官ハ犯罪ノ被告人(嫌疑アル)ヲ「法廳ニ引渡ス」「

ヲ得ル者ニ非ス蓋シ被告人捕獲ノ權ハ獨リ判事又ハ裁判所ニ屬スルニ由レリ但シ現行犯ニ附テノ例外ノ場合及ヒ急速ヲ要スル場合ニ至テハ茲ニ含蓄スルヿナシ即チ此限ニ在ラサルナリ

佛蘭西法律ハ檢察官ノ職務ヲ解釋スルニ正確ヲ失スル者ナシトセス然レ𪜈其職務ノ敷衍（デプロッブマン）ニ至テハ茲ニ說述スル所ノ原則ニ適合スル者ト謂フ可シ

第一款　犯罪ノ搜索

第百七條

〔第百八十九號〕告訴、告發ノ區別ハ既ニ前條ニ指示セル所ノ如シ而シテ其區別ハ本條及ヒ第百十條、第百十一條ノ調和ニ因リ更ニ一層ノ顯明ヲ加フル者ナリ

告訴ハ被害人之ヲ爲シ告發ハ凡テ其他ノ者之ヲ爲ス

本條ハ先ツ犯罪ノ重罪又ハ輕罪ナルヿヲ想像シ第五項ニ至テ其違警罪ニ關スルヿヲ想像セリ○初メノ二箇ノ場合即チ重罪、輕罪ニ於テハ告訴ハ之ヲ輕罪裁判所ノ官吏ニ爲ス者トス而シテ其法文ニ汎ク官吏ヲ指示セル者ハ告訴人共告訴ヲ爲スニ當リ官吏ノ管轄ニ就テ間違（スートロンペー）ヲ爲スヿ無カランカ爲メナリ

最モ適正ニシテ且ツ最モ迅速ナル手順ハ豫審判事ニ告訴ヲ爲スニ在リ何トナレハ告訴人ハ後ニ見ル所ノ如ク民事原告人ト爲リ判事ニ愬ヘ而シテ猶豫無ク審問アランヿヲ求ムルヲ得可ケレハナリ然レ𪜈人民ニ於テハ概シテ政府目代ヲ知ル者蓋シ多キニ居ラン○政府目代ノ職務タル其性質最モ多端（ブリユー、ヴリエー）且ツ最モ活潑（ブリユー、アクチーフ）ナルヲ以テ該官吏ハ常ニ人民ト交接スル者ナリ

日本ニ於テモ亦佛國ニ於ケルト等シク告訴人ヲシテ每ニ政府ノ目

代又ハ其輔佐官(警部、戸長、治安判事)ノ如キ最モ近接シタル者ニ其告訴ヲ爲スヲ得セシム可シ○是等ノ官吏告訴ヲ受ケハ之ヲ規則ノ通リ送付ス可シ其之ヲ送付スルニ就テハ或ハ訴訟事件ノ本案ニ附キ或ハ告訴人ノ申立ル趣意(コンシデラシヨン)又ハ被告人ノ名譽ニ附テ自己ノ意見ヲ附記スル者トス

〔第百九十號〕豫審及ヒ公判ニ附テノ管轄ハ原則上犯罪ノ場所ニ依テ定メラルヽ「既ニ第四十一條ニ見ユ

玆ニ法律ハ告訴ニ附キ又尠シク其管轄ヲ擴張セリ即チ其告訴ハ被告人所在(エートル、トルーベー)シ得可キ地ノ法官ニ之ヲ爲スヲ得ル「是ナリ(看附言)○斯ク所在シ得可キ地云々ト汎ク定メタル所以ノ者ハ告訴人ニ於テ罪ヲ犯セル地ヨリ以外ノ地ニ於ケルニ非サレハ其犯罪ヲ知ルニ由シ無ク又其犯人ヲ知ルニ由シ無キ「有ル可ク之ヲ告訴スルノ以前

其犯罪事實ノ愈〻充分ナル「ヲ定メン「ヲ欲シ又ハ其犯人ノ何人タルヤヲ確定セント欲シ或ハ又犯人ノ動作ニ着目スルカ爲メ自カラ其所在ニ追隨シ若クハ人ヲシテ追隨(デマルシユ)セシメ漸クニシテ充分ナル確證ヲ得タルノ頃ヒニハ犯人既ニ犯罪ノ地ニ居ラサル「有ルカ故ナリ

〔附言〕犯人ノ發見ヲ爲シ得可キ「ヲ言フ即チ其將來ノ事ニ關スル者ナリ(第四十一條註解、第八十四號ノ附言ヲ比較セヨ)(エリンチユアリティ)

告訴人ヲシテ犯人現在ノ地ヨリ遠キ處ノ裁判所ニ出訴セシメサルヲ得サル「ハ是レ屢〻告訴ノ結果ヲシテ困難ニ至ラシムル者ナリ然レトモ犯人所在ノ地ノ官吏ハ急速ヲ要スル處分ノミヲ爲シ其成規ノ豫審ハ犯罪ノ地ノ裁判所ニ非サレハ之ヲ行フ「ヲ得ス若シ此場合ニ於テ告訴ヲ犯人所在ノ地ノ豫審判事ニ爲シタル時ハ

第百三十二條ニ述フル如ク之ヲ處分ス可シ○若シ政府ノ目代其告訴ヲ受ケタル時ハ簡略ノ訊問ト至急ヲ要セハ至急ノ檢證トヲ爲セル後ヲ告訴狀及ヒ其作爲セル書類ヲ右ノ豫審判事ニ送付ス可シ○若シ司法警察官告訴ヲ受ケタル時ハ自己ニ關係アル政府ノ目代ニ其告訴狀ヲ送付ス可シ

政府ノ目代及ヒ其輔佐官ヨリ直ニ犯罪ノ地ノ豫審判事ニ告訴狀ヲ送ルハ最モ簡短ニシテ且ツ最モ捷徑ナル者ノ如シ然レトモ司法警察官吏ハ其直管ノ上官ニノミ之ヲ交付スルヲ以テ最モ適當ト爲スナリ○政府ノ目代自カラニ就テハ自己ノ屬スル裁判所ノ豫審判事ニ之ヲ送付スルヲ以テ最良ノ事ト謂フ可シ何トナレハ至急ヲ要スル捕獲ノ「有ルモ政府目代ハ自カラ之ヲ行フヲ得ス小事ト雖モ必ス其捕獲ノ允許ヲ得タル法官ニ其處分ヲ求メサルヲ得ス而シテ斯ノ

如キ請求犯罪ノ地ノ裁判所ノ豫審判事ニ之ヲ爲スヿヲ得サレハナリ

假令ヒ法律ニハ之ヲ規定セサルモ政府目代ノ輔佐官ハ常ニ自己ノ受ケタル告訴ヲ其上官ニ送付ス可キヿハ自カラ然ラサルヲ得サル者ナリ何トナレハ輔佐官ハ告訴ノ不條理又ハ詐リタルヿノ明白ナルニ非サルヨリハ原則上告訴ノ基礎ノ善惡ヲ判決スル者ニ非ス又政府ノ目代ハ告訴ノ基礎確立セル者ト信スルニ非サルヨリハ豫審判事ニ之ヲ送付ス可キ者ニ非サレハナリ○政府目代ヲシテ固ク此送付ヲ爲サシムルヲ要セハ告訴狀ニ屬スルニ直ニ判事ニ愬フ可キ民事原告人ノ設立ヲ以テセサル可カラス

違警罪ニ關シテハ普通法ノ外別ニ變則ナキ者トス○故ニ告訴ヲ受ル爲メノ管轄ハ之ヲ擴ムルヿナシ即チ其告訴ハ犯罪ノ地ノ治安判

事及ヒ該判事ノ傍ラニ在ッテ職務ヲ行フ所ノ司法警察官吏ニ屬スル者ナリ

第百八條

（第百九十一號）被害人ハ自己ノ犠牲（ビクチーム）トナリタル事實ヲ法廳ニ申告スルヲ以テ未タ充分ナリトセス然ラサレハ搜索ハ甚タ困難ニ涉リ且ツ屢〻其無益（アンプリユクチユチース）トナルヿ有ル可ケレハナリ

故ニ被害人ハ自己ノ告訴狀ニ添フルニ諸〻ノ事實參考トナル可キ者及ヒアラユル證憑ヲ以テス可シ

被害人ハ犯人ノ誰タルヲ確知セサル時ハ其嫌疑ヲ懷ク所ノ人ヲ指示スルヿヲ得可シ○盗罪又ハ詐欺取財（デトールマン）ニ關スル時ハ被害人ハ其物件ノ性質及ヒ其價額ヲ示ス可シ其他何レノ場合ニ於ケルモ犯罪ノ日時、場所（ムン、リウー）及ヒ其犯罪ノ爲メニ用ヒタル總テノ方法ヲ指示ス可シ

他又被害人若シ其說明ヲ爲サントリシ時ハ新ニ辯明ヲ爲サシムルカ爲メ之ヲ呼出スヿ有ル可シ即チ後ニ見ユル所ノ如ク被害人ハ本條ニ依テ享クル所ノ民事原告人トナルノ權利ヲ用ヒサル時ハ證人トシテ訊問セラルヽヿ有ル可シ

被害人若シ損害賠償ノ爲メ原告人トナル時即チ己レノ爲メニ犯罪ヨリ生スル私訴ヲ行フ時ハ則チ民事原告人ト爲ルナリ

此訴權ニ附テハ既ニ其原則ヲ總則中ニ置キタル者ニシテ（第二條以下）（ヂスポジシヨン、ゼネラール）其執行ニ關シテハ次章第二款ニ於テ細密ニ之ヲ提出セル所ノ者ナリ

告訴ハ本ト公訴モ私訴モ振起スルヿ無キヲ知ル可シ即チ告訴ハ裁判ニ付スル者ニ非ス唯〻搜索ノ爲メノ基礎（バーズ）トナルノミ

然レトモ既ニ總則（第三條）ニ見ユルカ如ク時トシテハ告訴ハ公訴ヲシ

テ有効タラシムルニ必要ナル一箇ノ條件トナルナリ此條件ハ假令ヒ被害人カ民事原告人トナラサルモ犯罪ノ事實ヲタダニ申告セハ則チ成就シタル者トス

第百九條

〔第百九十二號〕告訴ニ用ユル書面ノ法式ハ最モ簡易ナル者トス

告訴人告訴ヲ爲スニ如斯々々ナル法式ニ由ル可シ抔、法律ノ之ヲ指示セサル所ナリ○故ニ告訴狀ハ或ハ之ヲ郵送ニ付シ或ハ使者ヲ以テ之ヲ送致スルヿヲ得但シ斯ク間接ニ送致スルヿハ或ハ詐欺奸僞（フロード、マンンジュ）ニ出ルノ恐レ有ル者ニシテ殊更告訴人ノ氏名ノ知レサル時及ヒ直接ノ送付ニ妨ケ有リシ理由ノ申述ナキ時ノ如キハ尤モ右ノ恐レ有ルナリ

是ヲ以テ告訴人全ク差支ナキ時ハ自カラ其告訴狀ヲ持參スルヲ以テ尤モ良法トス○官吏其告訴狀ヲ受ケ直ニ之ヲ通讀シ而シテ多少ノ辯明ヲ望ム可キ廉アラハ則チ之ヲ求メ以テ之ヲ告訴狀ニ附記ス可シ

若シ告訴人口頭ヲ以テ告訴ヲ爲ス時ハ官吏之ヲ屬文（レヂーシュ）シ之ヲ告訴人ニ讀聞カセ以テ署名捺印セシム○官吏モ亦自カラ之ニ署名捺印ス

蓋シ其屬文者ナルヲ以テナリ

告訴狀ハ取リモ直サス公正ノ書面ナリ故ニ其申告セル事實ノ眞正（ベリテー）ダルヿヲ證セサルモ猶ホ能ク告訴アリタル事ヲ證スル者ナリ

若シ告訴人手署スルヿヲ知ラサルカ又ハ之ヲ爲スヿヲ得サル時ハ其旨ヲ記載ス可シ然レトモ告訴人ハ常ニ自己ノ印ヲ捺スヿヲ得可ケレハ則チ其印ヲ捺シタル者ハ是レ其告訴人タリト云フヿヲモ記入ス可シ（第二十七條）

右ノ法式ハ告訴人官吏ノ方ニ至ルヲ得サル場合ニ於テ官吏其告訴人ノ願ニ依リ其者ノ方ニ就テ告訴ヲ受ケタル時モ亦之ヲ遵守(チブセルベー)ス可シ○此レハ是レ告訴人ヲシテ起居シ能ハサラシムル所ノ毆打創傷(クーゲルブレツシュー)ヨリ生スル重罪又ハ輕罪ニ之レ有ルナリ

法律ハ斯ノ如キ特別ノ場合ヲ記載セス然レトモ公ケノ官吏ハ告訴人ノ所在ニ就テ告訴ヲ受クルヲ得可キヤ疑ヲ容レス但シ其義務アルヿナシ○凡テ犯罪ノ搜索ニ關シテハ其負任アル官吏ハ至大ナル權利ヲ有スル者ナリ

告訴人ニ證書ヲ渡スノ目的ハ其申立ヲ爲シタル證據ヲ與フルカ爲メナリ是ヲ以テ其告訴ヲ受ケタル官吏ハ其事件ヲ繼續セサル可カラサルナリ

第百十條

〔第百九十三號〕此條ハ告發ニ關スル者トス告發ノ告訴ト異ナル所以ノ者ハ唯〻被害人ノ之ヲ行ハサルヿ是ナリ

法律ハ逐次ニ公ケノ官吏ヨリ爲セル告發及ヒ常人ヨリ爲セル告發ヲ想像セリ

官員又ハ公ケノ官吏ノ告發ヲ爲スハ固ヨリ本務ナリ然レトモ「其職務執行中(フチンクシヨン子ール、ヂヒシエー、ピユブリツク)」犯罪アルヿヲ知ルト云フノ要件ニ從フ者トス故ニ職務外ニ於テハ通常人民ト異ナル所ノ義務ヲ有スル者ニ非ス○若シ事實カ重罪又ハ輕罪ヲ組成スル者ナル時ハ告發ハ之ヲ輕罪裁判所附政府ノ目代ニ爲スヲ要ス(ドワー)而シテ豫審判事ニハ決シテ之ヲ爲スヿヲ得ス

○此官員(即チ政府ノ目代ヲ指ス)ハ起訴ヲ爲スノ負任(シヤルシユ)アルヲ以テ其事件ノ受理ス可キヤ否ヤヲ觀察ス可シ

犯罪ノ告發ハ犯罪ノ地ノ政府目代ニ之ヲ爲スニ非ス告發人其職務

ヲ行フ地ノ政府目代ニ之ヲ爲ス可キヿヲ注目ス可シ○此方法タル責罰(レプレション)ヲ施スニ至ルニ最モ直接ナラスト雖モ亦最モ論理ニ適ヒ又屢〻此方法ノ他ニ良法ナク且ツ最モ迅速(ラピード)ナル恐クハ之ニ過クル者アラシ

政府ノ目代ハ先ツ其同地ニ在ル自餘ノ官吏ト自然平生相關係スル(ナチユレールヘチルヂヲール)者ナリ、次ニ告發人ハ精密ニ犯罪ノ地ヲ知ラサルヿ有ル可シ、終ニ若シ其犯罪、犯罪ノ地ヨリ以外ノ地ニ於テ發覺シタル時ハ後日必ス同所ニ於テ有益(ユチール)ナル事實參考物ヲ收得スルノ場合アル可シ、且ツ官吏ハ雙方ノ間ニ於テ更ニ交通(コミユニケーション)スルヲ要ス可シ故ニ斯ク官吏ノ其職務ヲ行フ地ノ政府目代ニ告發スルハ時日ヲ儉約(コバルヂ)スルノ益アリトス」官吏其告發ヲ爲スニハ書面ヲ以テ之ヲ爲シ且ツ之ニ署名捺印ス可シ敢テ自カラ動クニ及ハス(スーデブラツセー)

違警罪ノ告發ハ治安裁判所政府ノ目代ニ之ヲ爲ス可シ

第百十一條

〔第百九十四號〕常人ノ告發ト官吏其職務ヲ行フニ方テ爲ス所ノ告發トノ主タル區別ハ常人ニ在テハ本務(○○)ニ非スシテ却テ權能(○○)能シ得(ファキユルテイー)可キノ義ナリト爲スニ在リ但シ第百二十條ニ揭クル特別ノ場合ハ此限ニ在ラス

此區別ヲ證明スルハ敢テ難キニ非ス

夫レ官吏其職務ヲ行フニ方リ犯罪發覺ノ機會ニ遭遇セハ則チ公務ヲ補助スルヲ要ス若シ之ヲ爲サヽレハ則チ職務上ノ本務ヲ欠ク者ニシテ且ツ其場合ノ輕重ニ循ヒ或ハ戒罰(レプリマンド)ヲ受ケ或ハ職務ノ停止(シユスパンション)又ハ廢止(レボカシヨン)ヲ受ク可キ者ナリ加之官吏ハ其身分ニ於テモ告發ス可キ事件犯罪タルノ性質ヲ帶フルヿヲ知ラサルカ如キヿナク頗ル事理ヲ

解シ得ル者ト看做サル、ナリ

之ニ反シテ常人ハ社會ニ對シテハ德義上ノ本分有ル可キモ此本分タル法律上ノ義務ト同一ノ制裁アルヿナシ即チ常人ハ必シモ能ク事實ノ犯罪タル性質ヲ精確ニ識別スル者ニ非ス故ニ其犯罪タルヿヲ知ラサリシ旨ヲ陳述シ又ハ此犯罪ノ事タルヤ否ヤ不決ナリシヿヲ述フルヲ得可シ且ツ又常人ハ啻ニ私怨(エーヌ)ヲ招キ報復(ヴァンジャンス)ヲ蒙ランヿヲ恐ルヽ而已ナラス殊ニ錯誤ノ責任アルヲ恐ルヽヿ有ル可シ是等ノ事ハ概シテ官吏タル可キ者ハ恐レサル所ナリ(第十八條、第十九條及ヒ第二十條參觀)

他又常人ノ付與シ得可キ有益ナル事實參考物ハ泯滅スルヿ有ラサル可シ何トナレハ其告發ニ係ラスシテ犯罪事實ノ知ラルヽ時ハ其常人常ニ證人トシテ呼出サレ且ツ此場合ニ於テハ凡テ自己ノ知

ル所ノ者ハ決シテ之カ申述ヲ拒ムヿヲ得サレハナリ(第二百一條)

常人ノ告發ハ犯罪ノ場所ト被告人所在ノ地ト何レニモ自己ノ便宜ニ從ヒ之ヲ爲ス可シ

常人タル告發人ハ告訴人ト同一ノ法式ヲ遵奉ス可シ

官吏其職務執行外(アンドヒール)ニ於テ犯罪ヲ認知シタル時ハ法律上之ヲ常人ト同視スルハ當然ノ事ナリ、蓋シ前ニ述ヘタル常人ニ告發スルノ本分ナシトスルノ理由ハ官吏ニ對シテ同一ノ力ヲ以テ適用スルヿナシト雖モ官吏其職務執行外ニ在テハ官吏ニ非スト云フハ是レ規則上ノ事ニシテ且ツ古ヘヨリノ傳來ナリ

第百十二條

〔第百九十五號〕 本條ニ於テモ亦告發人タル官吏ト其常人トノ間ニ更ニ又區別アルヲ說ク即チ常人ハ其部理代人ニ告發ノヿヲ任スル

ヿヲ得是亦被害人トシテ告訴スル者ニ同シキノミ

官吏ハ之ト異ナレリ即チ親ラ告發ヲ爲スヲ要ス何トナレハ其告發ハ職務上ノ本務ノ一部分タルヲ以テナリ即チ此本務ハ名代人ヲ以テ執行スルヲ得サル者ナリ

他又官吏ノ爲メニハ告發ノ要件ヲ成就スルニ容易ナリ即チ其告發ハ常ニ書面ヲ以テ之ヲ爲セリ

常人ノ委任狀(プロキユラシヨン)ハ名代人ノ干與ヲ證明スルカ爲メ告訴狀又ハ告發狀ニ之ヲ添ヘサル可カラス

躬自カラ己レノ權利ヲ執行スルノ能力無キ者ハ通常法律上ノ名代人アリ○本條ノ塲合ニ於テハ概シテ名代人ノ身分ヲ證スルカ爲メ公正ノ書類ヲ告訴狀ニ添ユルヿヲ必要トセス唯〻父、後見人又ハ夫ヨリ代人タル身分ニテ告訴スルヿヲ明言スルヲ以テ足レリトス

然レトモ若シ其申立ル所ノ事實重大ニシテ而シテ其名代人ノ身分ニ疑ヒ有ル時ハ告訴ヲ受理スル官吏其善良心ニ出ルヿノ證明ヲ求ムルヿヲ得可シ

法律ハ此末ノ設例(イポテーズ)ニ於テ告發ノ事ヲ述ヘス而シテ唯〻告訴ノ事ヲ說述セリ蓋シ名代人タル者幼者又ハ婦ノ被害ノ外他ノ犯罪ヲ認知シ而シテ其幼者又ハ婦ノ名ヲ以テ告發ヲ爲スヿハ殆ント稀ナリ而モ猶ホ理ニ於テ當然ナラス故ニ名代人ハ寧ロ自己固有ノ名ヲ以テ告發ヲ爲ス可キナリ

第百十三條

〔第百九十六號〕 告訴人又ハ告發人其申立ル所ノ事ノ全部又ハ一部ニ誤リ有ルヿヲ認ムルハ往々ニシテ之レ有ルヿナリ故ニ斯ノ如キ人ハ公益ノ爲メ被告人ノ爲メ又ハ自己ノ利益ノ爲メ其申告ヲ引取(レトラクター)

リ又ハ之ヲ修正スルハ要用ノ事トス何トナレハ錯誤ノ尤モ甚シキ場合ニ於テハ其責ヲ受クル事アル可ケレハナリ(第十八條)○若シ其引取又ハ修正ノ遲延シ爲メニ被告人ヲシテ既ニ不正當ニ困苦ヲ受ケシメタル「有リタル時ハ告訴人又ハ告發人ハ凡テ其責ヲ免カルル」ヲ得ス

「スー、デジステー」(顧下ル事)及ヒ「スー、レトラクテー」(引取ル事)ナル(佛蘭西ノ)ノ語ハ同一ノ意味ヲ有スル者ニシテ即チ申告ノ完全ノ引戻シノ義ナリ但シ慣習上「デジストマン」(顧下)ハ權利ノ抛棄ヲ云フ故ニ一箇ノ權利タル告訴ニ非サレハ之ヲ適用セス然ラハ「レトラクシヨン」(引取)ハ一箇ノ權利タルヨリ寧ロ社會ノ本分タル所ノ告發ニ用フル者トス

「モヂヒエー」(變更)及ヒ「レクチヒエー」(修正)ナル佛語ハ舊キ申告ノ一部ヲ存在セシメ而シテ其一部ノ變替ヲ爲スト云フ意味ニ於テハ何レモ相類似スル者ナリ右兩語ハ告訴ト告發トニ就テ等シク之ヲ用フルヲ得但シ「モヂヒエー」(變更)ト「レクチヒエー」(修正)トノ本然ノ差別ハ則チ變更ハ或ハ增加シ或ハ減少スル等一部分ノ變替スルヲ云フ修正ハ特ニ錯誤ヲ改ムルヲ云フノミ

自己ノ申告ヲ顧下ケ又ハ引取リ若クハ變更修正スル者ハ其理由ヲ指示シ又ハ其錯誤タルヲ說明スルヲ要セスト雖モ負又ハ不正ノ嫌疑ヲ豫防スルカ爲メ之ヲ申述スルヲ以テ良シトス

更ニ申告ヲナス爲メニ履行ス可キ法式ハ最初ノ申告ヲ爲スニ附キ用ヒタル者ト全ク等シキ者トス而シテ第百九條ニ循ヒ證書ヲ求ムルハ甚タ有益ノ事ナリ

第二款　現行犯罪

第百十四條

〔第百九十七號〕前款ニ於テハ檢察官確定人ノ申告ニ由リ犯罪アルヿヲ知リ得タルヿヲ想像セリ

今ヤ檢察官及ヒ其輔佐官タル者偶然犯所ニ在リ若クハ犯罪ノ證人タル者ヨリ急飛ヲ以テ告知又ハ招呼ヲ受ケタルニ因リ自カラ其犯罪ノ顯ハル、場合ヲ想像ス可シ○是等ノ證人ハ犯罪ノ眞ノ告發ヲ爲シタル者ニ非スシテ唯〻猶豫ナク檢證スルノ方法ヲ官ニ供シタル者ナリ

此場合ハ佛蘭西ニ於テハ轉用(ヒギュレイー)ノ語ヲ用ヒ即チ「アンフラグランシヨン、フラグランント」(現行犯罪)ト云フ(「フラグランント」ハ「ブリユランント」即チ燃ユルノ義ニシテ物ノ劇シキヨリ轉用セリ)日本語ニテハ之ヲ現行犯罪即チ「現ナル犯罪」ト稱ス

佛蘭西法典中「フラグランン、デリー」(現行犯)ナル語ハ時トシテハ廣キ意味ニ用ヒ即チ現行ノ重罪(クリーム)現行ノ輕罪(デリー)及ヒ現行ノ違警罪ヲモ含蓄スル所ノ「アンフラグランシヨン、フラグランント」(現行犯罪)ノ事ニ用ヒ又時トシテハ本義ニ依リ其意味狹ク現行ノ輕罪ノミニ用ヒテ重罪モ違警罪モ含蓄スルヿナシ○千八百六十三年五月二十日ノ特別法中、現行犯ノ裁判ニ附キ此制限シタル意味ヲ以テ「フラグランン、デリー」ノ語ヲ採用セリ

日本草案ニ用フル所ノ語ハ其義太タ廣クシテ尤モ宜シトス即チ「ジウザイ」トモ「クイザイ」トモ又「イケイザイ」トモ言ハスシテ唯〻「ハンザイ」ト言ヘルカ故ナリ

日本ノ現行犯罪ノ字義ハ之ヲ佛蘭西ニ比スレハ一層ノ正確ヲ覺フ何トナレハ我草案ハ佛蘭西治罪法典第四十一條ニ載スルカ如ク現

行犯トハ「現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル」所ノ犯罪ナリト言ハサレハナリ○現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル所ノ犯罪ナリト言フ時ハ何レノ犯罪ト雖モ皆ナ之ヲ現行犯ト言ハサル可カラス何トナレハ幾歳月ヲ經ルモ必ス現ニ罪ヲ犯シタルノ時アリ又之ヲ犯シ終リタルノ時アラサルヿ無ケレハナリ

現行犯ノ者タル犯罪ト其發覺又ハ其檢證トノ間ニ虛日ナキヲ謂フ即チ兩者相待ツヲ謂フナリ○是ヲ以テ現行犯ノ刑罰上ニハ普通法ニ反スルヿ有ラサルモ現行ニ係ル所ノ犯罪ノ搜索及ヒ檢證ニ附テハ普通法ニ例外ナルヿ有ルヲ了知ス可シ即チ此場合ニ於テハ證據ヲ集攬(ヤーシール)シ犯人ノ誰タルヲ確知スルニ速カニ而シテ時日及ヒ費用ヲ省キ錯誤ノ危難(ダンゼー)ヲ減少スルナリ

法律ハ此例外ヲ以テ尋常ノ場合即チ現ニ行フタル時ニ發露シタル犯罪ノ場合ノミニ之ヲ限ルナリ猶ホ擴メテ之ヲ現ニ罪ヲ行ヒ終リタル場合ニ及ホセルヿ猶ホ佛蘭西ノ法ニ於ケルカコトシ○是ヲ以テ立法上時間ノ長短ヲ確定スルニ困難アリ因テ之ヲ司法官吏ノ考定ニ委ヲタリ

固ヨリ一日又ハ一日以上ニ遡リ以テ「現ニ行ヒ終リタル犯罪アリト云フヲ得スト雖モ數時間前ニ遡リ以テ行ヒ終リタル犯罪アリトハ理之ヲ云フヲ得可キナリ

犯罪ノ性質愈〻重劇ナレハ則チ其行ヒ終リタル犯罪ヲ以テ現行ノ者ナリト考定スルヿヲ許容スル所ノ時間ヲ彌久スルヿ亦愈〻長キハ正理ニシテ且ツ有益ナル者ナリ

第百十五條

〔第百九十八號〕第百十四條ニ解釋セル所ノ眞現行犯ノ外之ト同一

ナル事實ノ危險證據集攬ノ急遽及ヒ其訴訟手續ノ特別ヲ要スルコトニ遭遇スル場合アリ

是等ノ場合ヲ稱シテ現行犯罪ニ準スル（アッシミレイー）場合ト曰フ而シテ此準現行犯ハ本條ノ目的ヲ組成ス

第一ノ場合ハ佛蘭西ニ於テハ之ヲ「公ケノ喧嘩（ピュブリック、クラムール）」ノ訴、告發ト名ク（佛治第十六條、第四十一條、第百六條）

此語タルヤ佛蘭西ニ於テハ常ニ之ヲ解スル其義一ナラスト雖モ日本草案ニ於テハ之ニ付與スルニ正明（プレシイー）ニシテ且ツ制限アル意義（即チ字）ヲ以テセリ此場合ニ於テハ例之ハ一箇ノ人逃走スルニ方リ一人又ハ數人カ通行人若クハ比隣者ノ助力ヲ乞ヒ喧々嘩々（クリーダラルム）叫テ以テ之ヲ追フ者ナリト想像ス可シ（看附言）○茲ニハ其逃走スル者ニ對シテ罪犯ノ景狀ニ二箇ノ推測アリ其一ハ逃走其二ハ他人ノ號叫（アッペール）是ナリ」

（附言）叫フトハ佛蘭西ニ於テハ「チー、スクール」「チー、ポリヨール」「アー、ラッサッサン」「アレテイール」ト云フノ類猶ホ日本ニ於テ「タスケテクレー」「ドロボー」「ヒトゴロシー」「ツカマイテクレー」ト謂フカコトシ

逃ル者ヲ捕獲スルハ其害僅少ナリ何トナレハ若シ果シテ無罪ナレハ則チ直ニ其眞實ヲ知ルヲ得可ケレハナリ若シ之ニ反シテ棄テ逃走セシムルハ是レ大ナル危險ト謂フ可シ

右ハ其性質上重罪又ハ輕罪ノ眞ノ現行犯即チ「現ニ行ヒ終リタル」場合ヲ謂フ者ナリト信ス可ケレトモ反テ其重罪、輕罪ヲ犯シタルハ數日前ニ在テ其後、犯人ノ潜伏セルヲ人之ヲ發覺シ即チ犯人ハ逃走シ人之ヲ追蹤シ又ハ通行人等ノ助力ヲ乞フノ場合モ有ル可シ斯ノ如キハ是レ現行犯ニ準スル者ナリ

第二ノ場合ハ即チ人アリ重罪又ハ輕罪ノ犯人ト推測セラル可キ性質ノ物件ヲ携帶シ又ハ所持セルト認メラレタル者是ナリ此物件タルヤ或ハ武器ノ如キ犯罪ヲ遂クルノ器械ナルヿアリ或ハ其錯雜紛亂セル等盜品ト見ユル物件ノ如キ即チ犯罪ヨリ生シタル物ナルヿアリ

然レトモ此物件ノ外猶ホ他ニ事實ノ推測ヲ堅固完全ナラシムル所ノ景狀アルヲ要ス何トナレハ重罪、輕罪ヲ行フタルカ故ニ非スシテ唯ヽ護身ノ爲メニ火器又ハ刀劍ヲ携帶スルヿ有ル可ケレハナリ然レトモ其刀劍ニ鮮血ヲ染メ又ハ忽然銃丸ノ下ニ斃レタル者アリテ而シテ其距離未タ遠カラサルニ一箇ノ人火器長銃短銃等ヲ云フヲ携帶スル者アラハ則チ此者ハ是レ重罪ヲ犯シタル者ナリト充分ナル推測ヲ下スヿヲ得可シ

又人アリ夜中若クハ日中衆人ノ見ンヿヲ厭ヒ始終隱サントスル所ノ荷物ヲ所持スルニ因リ査官ノ訊問ヲ受ケ曖昧疑似ノ答辯ヲ爲シタル時ハ則チ盜罪ヲ犯シタル者ト推測スルヲ得可シ

玆ニ草案ハ佛蘭西法典ノ如ク「犯罪ノ時ヨリ間モナク」發覺セルヿヲ述ヘス(第四十一條)何トナレハ唯ヽ其大ナル推測而已ニシテ未タ以テ其犯罪ノ事確乎タラサレハナリ、又犯人ノ知レスシテ唯ヽ盜罪ノ確乎タルヿ有リ例之ハ盜人其盜品ヲ所持セスシテ多少長キ時間何處ニカ之ヲ隱藏セルカ如キ是ナリ此時ニ方リ盜人又之ヲ他所ニ運ハントスルノ際、人其盜人ニ嫌疑ヲ懷キ尋ヒテ其盜品ノ全部又ハ一部ヲ認ムルヿ有ル可シ是等ノ場合ハ之ヲ現行犯罪ニ准スルハ尤モ有益ノヿタリ

第三ノ場合ハ人ノ家宅内ニテ犯シタル重罪又ハ輕罪ハ假令ヒ現行

犯ニ非スト雖モ之ヲ檢證スル爲メ若クハ其家宅内ニテ犯人ト認ムル者ヲ捕獲センカ爲メ其家長ヨリ或ハ司法警察官或ハ政府ノ目代又ハ豫審判事ニ其臨檢ヲ請求シタル場合是ナリ

此場合ニ於テハ家長ノ請求ヨリシテ急速ヲ要スルノ事生セリ蓋シ其家長ハ重罪、輕罪ノ存在即チ其示ス所ノ人ニ罪アル可シト信スル充分ナル理由ノ在ルヿ無ク忽卒ニ其請求ヲ爲シタル者トノ推測ハ之ヲ下ス可カラサレハナリ

第百十六條

〔第百九十九號〕犯罪ノ景狀現行ナリトテ其刑ヲ變更スルヿ無キハ業ニ已ニ人ノ知ル所ナリ即チ此景狀ハ唯〻搜索及ヒ檢證ノ權利ニ影響アルト豫審ニ急速ノ性質ヲ與フルノミ

本條ニ定ムル所ノ即刻捕獲ノ權利及ヒ本務ハ蓋シ右ノ原則ヨリ生スル所ナリ

法律ハ先ツ其犯罪ハ眞現行犯ニシテ其事實ノ性質ハ禁錮ノ刑又ハ重罪ノ刑ニ該ル可キ者ヲ想像シ而シテ此ノ如キ犯人ノ或ハ公力者又ハ其下役或ハ直接ノ命令ニ據リ公力ヲ指揮スルヿヲ得可キ陸軍若クハ警察ノ官吏或ハ公力ヲ請求スルヿヲ得可キ行政若クハ司法ノ官吏ノ各〻其職務執行中ニ目擊セラルヽヿヲ謂フ此場合ニ於テノ逮捕ハ啻ニ許可セラルヽ而已ナラス法律ヨリ之ヲ命スル者ナリ

此場合ニ於テ特別ナル事アリ即チ通常ノ場合ノ如ク豫審判事ヨリ出ル通常ノ逮捕令狀ヲ要セサル是ナリ

若シ官吏職務執行中ニ非サル時ハ捕獲ノ本務ナシト雖モ尙ホ且ツ第百十九條ニ記スルカ如ク常人ト同シク逮捕ノ權利アリ

法律上公力者ノ現行犯人ヲ目擊スルヿヲ想像セリト云フハ唯〻其公

力者ノ躬一人ニテカ若クハ最初ニ其犯罪事件ヲ發覺シタル場合ノミノ謂ヒニハ非ス事實ノ證人ヨリ告知ヲ受ケタル場合モ亦之ヲ含蓄スル者ト知ル可シ即チ是レ「現ニ行ヒ終リタル」ト云フ現行犯罪ノ釋義タリ

法律上公力者ニ被告人ヲ捕獲スルノ本務アリト定ムト雖モ其レヲシテ豫メ事實ノ查定ヲ免カレシムルヿナシ○故ニ公力者ハ先ツ其事實ノ性質ヲ檢シ以テ自由ヲ停止ス可キ刑ニ該ルヤ否ヲ認知スルヲ要ス○況ンヤ其目スル所法律ノ禁スル所ニ非サル歟、被告人ハ其遵フ可キ法律上ノ要件ニ背カサル歟、若クハ是非ヲ辨別シ自由ニ且ツ故意ヲ以テ犯シタルニ非サル歟等總テ現行ノ事實ハ犯罪ノ性質ヲ帶フルヿナキヤ否ヲ查定スルニ於テオヤ○若シ此一應ノ查定ニ由テ反對ノ心證(コンヒクシヨン)ヲ懷ク時ハ公力者ハ逮捕ヲ爲スニ及ハサルナリ○

故ニ法律ニ於テ現行ノ重罪、輕罪ノ被告人ヲ捕獲スルヲ以テ公力者ノ本務ト爲スト雖モ是レ犯罪ヲ構造ス可キ要件ノ具備シ且ツ公力者ニ於テ之ヲ確認シタル場合ニ限ル者トス

〔第二百號〕 眞現行犯ノ場合ニ非スシテ准現行犯ノ三箇ノ場合ノ一ニ於テハ捕獲ヲ以テ官吏ノ本務ト爲サス唯其官吏ノ權能(ファキユルテイ)行フヿヲ得可キ義ナリト爲ス○此場合ニ於テハ事實查定ノ必要ナルヿ最モ明瞭ニシテ且ツ此查定ノ困難ナルヿ又最モ大ナリ○斯ノ如キ場合ニ於テハ外觀上概ヲ事實ヲ重大トナス者ナリ

准現行犯ノ第一ノ場合ニ於テハ多少責罰ス可キノ所爲ヲ目擊シタル者ハ爲メニ怒氣ヲ發ス可ク又憤懲ヲ懷ク可シ而シテ被告人ニ在テハ立會人ノ粗暴ヲ恐レテ逃走シ因テ人ニ追躡セラルヽヿアル可シ然レトモ公ケノ官吏ハ此時ニ際シ簡略ノ取調ヲ爲シタル後其事實

ノ甚タ重劇ナラサルヿヲ知ルヲ得可シ

又第百十五條ノ第二ノ場合ニ於テハ逮捕ノ前被告人ト官吏トノ間ニ於テ詰問辯明スルヲ必要トス而シテ逮捕ハ官吏ノ義務ニ非スシテ唯權能ニ歸スル而已

是ニ由テ推考スレハ准現行犯第三ノ場合ニ於テモ亦同シ○家長ニ於テ或ハ其家ニ入リタル人或ハ雇人、職工其他血族親等ヲ逮捕スル(アプリユー、プチルト、レーゾン)ヿヲ求ムルハ必シモ其犯罪事件ノ性質若クハ其斥ス所ノ人ニ誤ル(サヒユセー)ヿナシトセス是ヲ以テ法官ハ鄭重ナル取調ヲ爲シタル後ニ非サレハ其請求ニ應スルノ義務アルヿナシ

右三箇ノ場合中殊ニ第一、第二ノ場合ニ於テ事ノ疑ハシキ者有ル時ハ概シテ捕獲ヲ認許スルヿヲ得可シ但其逮捕ノ基礎(即チ罪)ナクハ其逮捕ハ暫時ノ間タル可シ而シテ其錯誤ハ管轄官吏速カニ之ヲ認メ即チ被告人ハ釋放セラル(ルラクセー)可シ

第百十七條

〔第二百一號〕被告人ノ逮捕ハ概ヲ下等官吏急速ニ犯所ニ臨ミ若クハ人民ノ告知ヲ受ケテ直ニ其場所ニ至リ以テ之ヲ爲ス者ナルカ故ニ此官吏ハ猶豫ナク豫審處分ヲ相與ニ擔任セル二種ノ法官ノ一ニ被告人ヲ引致ス可シ○其被告人ヲ豫審判事ノ面前ニ引致スルハ尤モ至當ノ手續ナリト雖モ政府目代ノ輔佐官ハ之ヲ其所屬長官ノ面前ニ引致スルヿヲ許サル、者トス○公力ヲ有スル下等官吏モ亦其被告人ヲ自己ヨリ上位ノ輔佐官ニ引致スルヿヲ得可シ、上位ノ者トハ例之ハ警部(コンミセール、デ、ポリス)ノ如キ者ヲ謂フナリ

被告人ノ引致ヲ受ケタル法官ハ其逮捕ヲ檢證シ並ニ公力者ノ告發ヲ受ク可シ但シ其告發ハ獨リ此特別ナル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ

之ヲ爲スヿヲ得又其事實ノ主タル景狀ハ皆ナ之ヲ錄記ス

第百十八條

〔第二百二號〕若シ純然タル公力者ニ非スシテ警部ノ如キ司法警察官ノ一人逮捕ヲ行ヒシ時ハ該官吏ハ被告人ヲ豫審判事又ハ檢事ニ引致スルノ前自カラ其概略ノ訊問ヲ爲シ且ツ其調書ヲ作ル可シ○斯ノ如ク爲ス時ハ該官吏ハ即時ノ白狀ヲ得ルヿ屢〻之レ有リ而シテ其白狀ハ後日ニ至ラハ恐ラク被告人ノ爲サヽル所ノ者ナリ

右ノ外現行犯豫審ノ特別ナル場合ハ法律上之ヲ第三章第四款(第二百十八條以下)ニ讓リ玆ニハ唯〻現行犯中搜索ノ特別ナル場合ヲ出セルノミ

第百十九條

〔第二百三號〕本條ハ前ニ記載セル所ニ照應シ常人ト公ケノ官吏トノ間ニ在ル告發ニ關スル差異ヲ復說スル者ナリ

抑〻常人及ヒ官吏ノ其職務執行外ニ於テハ現行犯ト雖モ其犯人ヲ捕獲シ又ハ捕獲セシムルノ本務アルニ非ス而シテ之ヲ捕獲シ又ハ捕獲セシムルノ權利ヲ有スル者ナリ故ニ(法文ニ)此權利ヲ明言スルハ固ヨリ須要ノ事トス何トナレハ捕獲ハ是レ各人ノ自由ニ損害ヲ致ス者ナレハナリ

他又是等官吏ハ本ト越權ノ懼レ有ルヿナシト雖モ反テ輕忽ナル告發ヲ爲シ以テ其責任ヲ受ケンヤナト逡巡スルノ懼ナキニシモアラス

被告人逮捕ノ事ニ就テ常人ト同視スル者ハ獨リ其職務外ニ在ル公力者ノミニ非ス凡テ其他ノ官吏ハ職務執行中ニ在ル者ト雖モ亦同シ○故ニ公力者又ハ公力ヲ指揮シ若クハ之ヲ請求スルノ權アル者

ニ非サルヨリハ官吏ト雖モ實際捕獲ヲ爲シ又ハ捕獲ヲ爲サシムル
ノ處置ヲ有セサル者ナリ故ニ又之ヲ捕獲スルノ本務アルニ非ス即
チ唯是レ權能ニ過キサルナリ○然レ𪜈准現行犯第三ノ場合即チ家
長ヨリ請求スルノ場合ニ於テハ常人及ヒ公力者ニ非サル官吏ノ有
スル捕獲ノ權利（本務ハト雖モ全ク斷絶スルヿヲ注目ス可シ勿論）

第百二十條

〔第二百四號〕時日ト場所ノ景狀ニ由リ若シハ充分ナル力ヲ缺ク等
ニテ捕獲ノ本人即チ官吏又ハ常人其被告人ヲ豫審判事、政府目代又
ハ其輔佐官ニ引致スルヲ得サルヿヲ有ル可シ○此場合ニ於テハ被告
人ヲ最近ノ警察署（ポストドポリス）ニ引致シ茲ニ之ヲ拘留ス即チ該署ノ官吏受ケテ
之ヲ管轄法官ノ面前ニ引致スルナリ
其捕獲ヲ爲シタル者ハ斯ク被告人ヲ交付シタル警察署ニ自己ノ氏
名ヲ告知シ然ル後チ通常ノ法式ヲ履ミ其告發ヲ爲ス可シ○但シ法
律上其告發ヲ爲スノ本務ヲ怠リタルカ爲メニ刑ヲ科スルノ明文ヲ
掲ケスト茲ニ所謂ル告發ハ義務タラサルヲ得サル者ナリ
後日若シ被告人カ其罪ナキヿヲ證明セルニ方リ捕獲者其所爲ヲ正
當ノ者ト爲スカ爲メニ法律ニ記載セル事柄ヲ履行セサル時ハ只此
履行セサルノ一點ニ因リ隨意（恣擅）ノ逮捕ノ罪ヲ免カルヽヲ得サル者
トス（ボロンデール）
又常ニ其逮捕ノ正當ナランカ爲メノ利益ト各人自由ノ保障（ガランチー）トノ爲
メニ法律上被告人ト公力者トニ許スニ其捕獲者ヲ直ニ管轄法官ノ
面前ニ伴ハンヿヲ求ムルヿヲ以テセリ
若シ公力者ノ長官ノ視テ以テ正當トスルノ理由ナク管轄法官ノ面
前ニ至ランヿヲ拒ムノ捕獲者ハ公力ヲ以テ强テ之ヲ誘フヲ得可シ

是レ法律ニ記載セサル所ト雖モ所謂ル法律ノ命令シタル條例ハ常ニ公力ヲ以テ之ヲ執行スルヲ得可シト云フ彼ノ原則ノ自然ノ結果ナリ○又斯ク捕獲者ノ強テ同行ヲ拒ミタル時ハ是レ之ヲ隨意ニ逮捕ヲ爲シタル現行犯罪人トモ謂フ可ク又現ニ其他ノ現行犯罪即チ法律ノ命令シタル條例ト正當權ノ命令トニ服從スルヿヲ拒ム(テートリデー アンジョンクション)ノ現行犯ノ罪人ナリト謂フヲ得可シ

第百二十一條

〔第二百五號〕本款ヲ終ラントスルニ當リ法律ハ獨リ搜索ニ關スル現行犯罪ノミヲ記載スルヿヲ記念シ併テ後ニ至リ檢證ニ關スル豫審ノ部ニ於テ更ニ現行犯罪ヲ說クヿ有ルヲ述フルナリ

第二章　犯罪ノ起訴(ブールシュイット、デ、ザン、フラクション)

要旨

第二百六號　起訴ノ二種○分テ二款トスル事

〔第二百六號〕犯罪ノ起訴トハ或ハ豫審判事或ハ刑事裁判所ニ受理ヲ乞フノ所爲ヲ謂フ其豫審判事ニ訴フルハ其ヲシテ吟味ヲ爲シ被告人ヲ確カニシ及ヒ有罪、無罪ノ證據ヲ聚集スルノ處分ヲ爲サシメンカ爲メナリ

其裁判所ニ訴フルハ公廷ノ辯論ノ外、他ニ豫審ヲ要セスシテ審判ヲ爲サシメンカ爲メナリ蓋シ事件ノ繁雜ナラス且ツ重劇ナラサル輕罪ノ時ニ限レリ何トナレハ犯罪ノ性質重劇ナルカ又ハ集合ノ性質ナルカ若クハ又重罪ナル時ハ常ニ豫審ヲ要スレハナリ

起訴ハ之ヲ爲ス者二アリ一ハ社會ニシテ檢察官代リテ之ヲ爲シ一ハ直接ニ損害ヲ蒙リタル者之ヲ行フ是ナリ

是ヲ以テ本章ヲ分テ二款トス

搜索ノ結果ノ五箇ノ

第百二十二條　現行ノ重罪又ハ輕罪ノ外、政府ノ目代其搜索ヲ終リタル時ハ左ノ如ク手續ヲ爲ス可シ

其一　第一　若シ其事件重罪ヲ構成スル者ト見ユル時ハ次章ニ記シタル如ク豫審判事ニ吟味及ヒ豫審ヲ請求ス可シ

其二　第二　若シ其事件輕罪ヲ構成スル者ト見ユル時ハ其事件ノ重劇、困難、又ハ容易ナルニ從ヒ或ハ豫審判事ニ吟味及ヒ豫審ヲ請求シ或ハ直ニ輕罪裁判所ニ訴フルヿヲ得可シ

其三　第三　若シ其事件違警罪ニ非サレハ構成スルヿナシト見ユル時ハ書類及ヒ事實參考物ニ自己ノ意見書ヲ添ヘテ之ヲ違警罪裁判所附政府ノ目代ニ送ル可シ

其四　第四　若シ其事件犯罪ノ性質ヲ顯出スル者ト見ヘサルカ又若シ公訴ハ消滅シ若クハ受理ス可カラサル者ト見ユル時ハ毫モ起訴ノ手續ヲ爲サス

其五　第五　若シ其事件犯罪ノ場所ノ理由ニ因リ若クハ其性質又ハ被告人ノ身分ノ原由ニ因リ他ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル者ト見ユル時ハ該裁判所附政府ノ目代ニ其事件ヲ送ル可シ（治、第百七條○草、第二百四十五條○佛治、第八條、第二十二條以下、第四十七條）

民事原告人ニ付與シタル意見

第百二十三條　凡テ前條ノ場合中政府ノ目代被害人ノ告訴ヲ受ルニ係ル者ハ政府ノ目代己レノ爲シタル決意ヲ告訴人ニ通知ス可シ（治、第百八條）

豫審判事ニ附シタル意見

若シ其告訴又ハ告發ヲ豫審判事ヨリ政府ノ目代ニ送致シタル時ハ政府ノ目代ハ理由ヲ附シタル自己ノ決意ヲ該法官（豫審判事ヲ云フ）ニ通知シ該法官（同上）之ヲ告訴人ニ通知ス可シ（治、零）

書類及ヒ事實參考物ノ送致

第百二十四條　政府ノ目代ヨリ犯罪ノ吟味ヲ豫審判事ニ請求シタル時ハ自己ノ聚集スル(ルキユイール)ヿヲ得タリシ書類及ヒ事實參考物ヲ該判事ニ送致シ並ニ臨檢ニ有益ナル可キ場所、捕獲必要ナリト思料シタル人及ヒ負責直譯ナリ翻譯シテ有罪(ユチール)(シヤルジユ)ト曰フ以下之ニ倣ヘ又ハ免責(デシヤルジユ)是亦直譯以下有罪ト翻譯ス)ニ證人トシテ呼出シ得可キ人ヲ知ラシム可シ(治、第百九條○草、第百三十三條以下、第百六十一條、第百六十三條以下、第百七十三條以下、第百八十三條以下○佛治、第四十七條、第六十條)

第二款　民事原告人ノ起訴

民事原告人トナル事

第百二十五條　重罪又ハ輕罪ニ因テ害セラレタル者公訴ニ附帶シテ(バルチー、シビール)己レニ受ケタル損害ノ賠償ヲ訴ヘント欲スル時ハ或ハ告訴狀或ハ告訴ノ後、豫審判事ニ宛テタル書及ヒ被告人ニ送達シタル書面中ニ明瞭ニ之ヲ陳述スルヲ要ス

若シ公訴ノ未タ起ラサル時民事原告人トナルニハ二箇ノ訴(即チ公訴ト私訴ト)ヲ云フヲ豫審判事ニ爲ス可シ

何レノ場合ニ於テモ豫審判事ハ政府ノ目代ニ民事原告人ノ在ルヿヲ知ラシム可シ(治、第百十條○草、第二條以下、第百九十七條、第二百七十五條、第二百八十二條、第二百九十六條、第三百八十六條、第三百九十六條、第四百五條、第四百二十四條、第四百三十條、第四百七十四條、第五百七條、第五百十七條、第五百二十六條、第五百三十八條、第五百三十九條○佛治、第二條、第三條、第六十三條、第六十四條第二項、第六十六條、第六十七條、第百三十五條第二項、第百四十五條、第百八十二條、第百九十條、第二百二條、第二百二十三條、第三百十五條、第三百三十五條、第三百六十八條、第三百七十三條、第四百十二條、第四百十九條、第四百二十二條、第四百二十九條第六項、第四百三十六條、第四百七十條)

住所ヲ撰フ事

第百二十六條　若シ民事原告人其管轄裁判所ノ區域(ルッソール)内ニ己レノ眞ノ住所ヲ有セサル時ハ裁判所所在ノ市街ニ於テ特別(フペシアール)ナル住所ヲ撰ミ之ヲ民事原告人トナル可キノ書面ニ記シ而シテ其旨ヲ書記局(グレーフ)ニ告述スルヲ要ス

制裁

檢察官及ヒ被告人ヨリ民事原告人ニ爲ス可キ送達ハ即チ此住所ニ宛テ之ヲ行フ可シ

是等ノ住所ノ一モ無キ時ハ民事原告人ハ己レニ關スル訴訟書類ノ送達無キヿニ就キ愁訴スルヲ得ス

住所ヲ移轉シタル場合ニ於テハ民事原告人ハ書記局ヲ經テ其趣キヲ檢察官(パール、ラ、ポアー)ニモ亦被告人ニモ通知スルヲ要ス若シ否ラサル時ハ舊住所ニ送達スルモ其効アリトス(治、第二十一條○草、第二百九十七條○佛治、第六十八條)

民事原告人トナル事ノ期限

第百二十七條　被害人ハ確定判決(デシジヨン、デヒニチーブ)ニ至ルマテハ公訴ニ附從(アクセソアールマン)シテ民事原告人トナルヲ得或ハ訴訟中ハ訟廷又ハ控訴裁判所ヲ論セス自己ノ存慮ヲ變更スルヿヲ得可シ

被害人自己ノ權利ヲ抛棄スルヿナクハ訴ヲ願下ルト雖モ自己ノ最初ノ存慮ヲ復シ又ハ之ヲ變更スルヿヲ得可シ(治、第百十一條○草、第六條○佛治、第六十六條、第六十七條、第三百五十九條第二項)

民事原告人ノ名代人

第百二十八條　民事原告人ノ請願(ドマンド)及ヒ其願下ハ其代理人(フチンデ)ニ依リ履行セラルヽヿヲ得可シ

若シ被害人法律上ノ無能力ノ場合ニ於テハ請求及ヒ願下ハ其者ノ通常ノ代人之ヲ行フ可シ(治、第百十二條○草、第百十二條○佛治、第三十一條)

要旨
第一款
第百二十二條
第二百七號　檢察官ノ起訴ノ異別ナル五箇ノ結果ノ生スル事
第百二十三條
第二百八號　告訴人及ヒ豫審判事ニ告知スル事○理由ノ事
第百二十四條
第二百九號　書類及ヒ事實參考物送達ノ事
第二款
第百二十五條
第二百十號　民事原告人トナル事、其法式
第二百十一號　其効力

第二百十二號　佛蘭西法中直接召喚ノ事、其危險アル事（シタシヨン、ヂレクト）
第二百十三號　民事原告人刑事訴訟ニ干與スル事ノ利益（パルチシパシヨン）
第百二十六條
第二百十四號　豫審ヲ行フ土地ニ住所ヲ撰フハ民事原告人ノ爲メニ必要ナル事○制裁ノ事
第百二十七條
第二百十五號　訴訟ノ願下ケ後ニ至リ回復ノ事（ルブリーズ）
第百二十八條
第二百十六號　起訴及ヒ願下ノ爲メ部理代人（スペシアール）ノ事及ヒ總理代人（ゼネラール）ノ事
第一款　檢察官ノ起訴
第百二十二條

〔第二百七號〕法律ハ檢察官ノ職務最モ廣大ナル場合即チ現行ノ重罪又ハ輕罪ノ場合ヲ除去シ以テ本條ヲ起セリ

尋テ法律ハ檢察官カ其捜索ヲ爲シ終リタルヿヲ想像シ次ニ檢察官ノ處分ス可キ數種ノ條件即チ所謂ル五個ノ條件ヲ示セリ

第一、第二、第三ノ條件ハ皆ナ同性質ヲ有ス即チ檢察官カ犯罪アリタルノ心證ヲ得若シハ犯罪アリトスル太シキ嫌疑ヲ懷キ又ハ犯罪人ハ多分誰某トノ證憑ヲ得又ハ證據ヲ得ルニ有益ナル可キ人即チ證人ヲ認知シ然ル後チ公訴ヲ提起シ起訴ノ手續ヲ爲スナリ(第一條註解第十二號ヲ比較セヨ)○斯ノ如ク手續ヲ爲シタル以上ハ其犯罪事件ハ法廳ノ管轄ニ屬シ復タ檢察官ハ之ヲ引取ル(ルヲレイー)ヿヲ得ス若シ其事件重罪ニ關スル時ハ檢察官ハ斯々ノ確定事實アルヲ以テ斯々ノ人ニ對シ豫審アラン事又ハ最初ノ捜索ニテ未タ被告人ヲ認知セサル時ハ其被告人ヲ指名セスシテ唯斯々ノ事件ニ附キ豫審ヲ求ムル等凡テ請求書ヲ以テ豫審判事ニ之ヲ求ム可シ其請求書ニハ第百二十四條ニ記スルカ如ク訊問ス可キ證人、臨檢ス可キ場所又ハ差押ユ可キ物件ヲ指示ス可シ

此場合ニ於テモ亦佛蘭西法律ハ正確ヲ失ヘリ即チ同法律ハ司法警察官ハ「被告人ヲ法廷ニ引渡ス可シ」ト(前記ノ第八條及ヒ第十條)云ヘリ夫レ法廷ニ引渡スカ爲メニハ先ツ其被告人ヲ捕獲セサル可カラス然ルニ司法警察官ハ現行犯ノ場合ニ非サレハ被告人ヲ捕獲シ得サル者ナリ

若シ犯罪事件輕罪ニ過キサル時ハ政府ノ目代ハ自己ノ履行ス可キ二箇ノ處分アリ即チ一ハ重罪ノ場合ノ如ク豫審判事ニ豫審ヲ請求シ一ハ直ニ輕罪裁判所ニ訴ヲ爲ス是ナリ然ル時ハ該裁判所ハ自カ

ラ其公廷ニ於テ其事件ヲ審理シ併テ其裁判言渡ヲ爲ス可キナリ

右第一ノ處分ヲ以テ最モ優レリトス蓋シ犯罪事件ノ重劇ナル時又ハ犯人數多ナルニ因リ若クハ集合シタル數多ノ犯罪アルニ因リ犯罪事件ノ繁難ナル時ハ則チ是レ第一ノ處分ヲ行フ可シト正條ニ指示シタリ（コンプリケイー）

之ニ反シテ若シ其事件重劇ノ者ニ非ス且ツ繁難ナル者ニモ非サル時ハ直ニ裁判所ヘ出訴スルヲ以テ最モ速カニシテ且ツ充分ナル者トス

若シ其事件違警罪ノ性質ヲ帶フルニ過キサル時ハ輕罪裁判所附政府目代ノ所管ニ非ス即チ政府ノ目代ハ自己ト同樣ノ職務ヲ執行スル所ノ違警罪裁判所附檢察官ニ之ヲ送付ス可シ○輕罪裁判所ノ檢察官ハ其事件ヲ送付スルト同時ニ自己ノ意見ヲモ通知ス可シ蓋シ是レ既ニ獲ル所ノ事實參考物ヲ利用セシムルカ爲メニシテ且ツ違警罪裁判所附檢察官ハ輕罪裁判所檢察官ノ下役タリ又裁判事務ニ就テハ熟練アルヿ少ナケレハナリ（シローズ、ド、ラ、シユスチース）

若シソレ事件ノ性質毫モ法律ニテ罰ス可キ所ナキ者アリ此場合ニ於テハ檢察官何等ノ起訴モ爲サヽル可シ

假令ヒ事件カ犯罪ノ性質ヲ有スト雖モ被告人ノ死去、期滿免除若クハ一タヒ裁判ヲ經タル事物ノ力ニ因テ公訴ノ消滅シ又ハ法律上告訴ヲ欲スル場合ニ於テ其告訴アラサル等ノ原由ニ因リ公訴ノ受理セラル可キ要件ニ至ラサル場合ニ於テモ亦同シ（エツフエー、ド、シローズシユセー）

檢察官或ハ自己ノ關スル裁判所ノ管轄違ナルヿヲ知リ從テ又其爲ス所ノ起訴己レカ管轄ニ非サルヿヲ認知スルヿ有ル可シ然ル時ハ管轄裁判所附ノ檢察官ニ其事件ヲ送付ス可キナリ

第百二十三條

〔第二百八號〕告訴若シ被害人ヨリ政府ノ目代ニ爲ス所ニ係ラハ此法官ノ爲セル決意ハ其奈何ニ拘ハラス必ス之ヲ其被害人ニ通知スルヲ要ス

前條第一、第二、第三ノ場合ニ於テ被害人、民事原告人トナリテ公訴ニ附帶スルヿヲ望マハ檢察官其起訴ヲ爲スト云フ事及ヒ何レノ法官ニ之ヲ爲スト云フ事ヲ凡テ被害人ニ通知セサル可カラス

政府ノ目代管轄違ノ故ヲ以テ事件ヲ他ノ檢察官ニ送致セル場合ニ於テモ被害人ハ亦同シク通知ノ利益ヲ受ク可キナリ

若シ政府ノ目代己レノ方ヨリ起訴ヲ爲ス可カラサル事件ナリト査定スル時ハ亦其旨ヲ被害人ニ通知ス可シ蓋シ是レ被害人ヲシテ或ハ民事原告人トナリ其名ヲ以テ豫審判事ニ告訴ヲ爲シ或ハ民事上ノ損害賠償ノ請求ヲ爲サシメンカ爲メナリ

若シ本條第二項ニ豫定スル如ク豫審判事先ツ告訴又ハ告發ヲ受ケテ之ヲ政府ノ目代ニ移シタル時ハ政府ノ目代之ヲ査定シ重罪又ハ輕罪ノ豫審ヲ要スル者ト爲セハ則チ豫審判事ニ之ヲ請求ス可シ其他ノ場合ニ於テハ或ハ直ニ裁判所ニ召喚セント欲スル自己ノ思惟或ハ管轄裁判所ニ送付シタル旨或ハ其事件送付ス可キ者ニ非スト

ノ査定ヲ豫審判事ニ通知ス可シ

凡テ是等ノ變狀ハ些細ノ如シト雖モ亦重要ノ「ナリ○殊更豫審判事既ニ被害人ノ民事原告人トナリタル者ヨリ訴ヲ受ケタル場合ト其未タ受ケサル場合トヲ區別スルヿ緊要ナリ何トナレハ豫審判事其民事原告人ヨリ訴ヲ受ケタル場合ニ於テハ檢察官ハ自カラ訴ヲ棄テ判事ノ關係ヲ免カレシムルヿヲ得ス其民事原告人ノ訴ナキ場

合ニ於テハ檢察官其思料スル所ニ從ヒ或ハ判事ニ訴ヲ爲シ又ハ訴ヲ爲サヽルヿヲ得ルナリ

第百二十四條

〔第二百九號〕本條ハ其編纂甚タ簡單ニ其目的甚タ理ニ中レリ其充分ナル說明ハ既ニ之ヲ第百二十二條ノ條下ニ述ヘリ

第二款　民事原告人ノ起訴

第百二十五條

〔第二百十號〕既ニ記載シタル如ク獨リ被害人ノ告訴アルノミニテハ未タ豫審判事ノ掌管シタル者ニ非ス此點ニ就テハ他人ノ告發ト異ナルヿナシ何トナレハ公訴モ私訴モ未タ「提起」セサル者ナレハナリ

然レトモ被害人己レニ受ケタル損害賠償ヲ請求セントスル時ハ或ハ告訴ト共ニ之ヲ爲シ或ハ告訴ニ繼續シテ要償ノ訴ヲ爲ス可シ之ヲ「民事原告人トナル」(スー、コンスチチュエー、パルチー、シビール)ノ申立ト稱スルナリ

斯ル訴ヲ爲スニ就テハ法律上毫モ其法式ヲ確定セス是レ蓋シ法官ノ面前ニ於テ作ラサル願書ナルニ因リ告訴人ヲシテ其法式ヲ知ラサルカ爲メ無効ニ歸スル請願ヲ爲スニ至ラシム可カラサルヲ以テナリ

〔附言〕日本ノ官廳ハ殊更行政上ノ事ニ就キ書式ヲ熱望スルニ過キタル者ノ如シ然レトモ司法官吏ハ此例ヲ履ムヿ有ル可カラス何トナレハ不都合ナルヿナクシテ事ノ遲延セル時即チ官吏ニ於テ其證書中ニ不明、欠所若クハ眞實ノ不規則ナルヿヲ發見セル時ハ則チ其關係人ニ對シテ再ヒ之ヲ作爲セシムルヿヲ命ス可ケレハナリ然レトモ證書既ニ完結シテ改作ス可カラサルノ時ニ方テハ其

證書ヨリ理ニ於テ發生ス可キ効力ヲ拒絶スルヿヲ得サルハ勿論ナリ

最モ必要ノ事ナリト雖モ其必要ノ事而已ニテ足レリトスルヿ有リ何ソヤ請願ノ明瞭ナルヿ是ナリ故ニ民事原告人トナル者其權利上ノ事ニ就キ若干ノ貯存ヲ爲(盡サヽルノ意)スカ又ハ己レノ受ケタル損害ノミヲ記載シタルハ未タ以テ充分ナリトセス然レ𪜈亦己レノ受ケタル損害賠償ノ金額ヲ定ムルヲ以テ必要ノ事トセス是等ノ事ハ全ク裁判所ノ査定ニ委スルヲ得可シ但シ其後公廷ニ於テ右金額ノ事ヲ論スルハ此限ニ在ラス

習慣上被害人ハ必ス自カラ「民事原告人トナル事」ヲ陳述ス可キハ更ニ疑ヲ容レス是レ即チ法律ニ記スル所ニシテ實際亦之ヲ行ハシメリ

又民事原告人ハ自己ノ細密ノ決意ニ理由ヲ附シ以テ之ヲ述フルヿヲ得可シ事件ノ稍〻繁雜ニ涉ル者ハ之カ爲メ益ヲ得ルヿ少カラス

民事原告人トナリタル者ハ被告人ヲシテ民事ノ點ニ附キ辯護ノ處置ヲナサシメンカ爲メ豫メ其民事原告人トナリタルヿヲ報知セサル可カラス

〔第二百十一號〕 本條第一項ハ法律上被害人民事原告人トナリタル時ニ方リ既ニ檢察官ノ起訴ニ因リ公訴ノ起リタル場合ヲ想像セリ故ニ被害人ノ請願ハ私訴ヲ行フニ過キサルナリ○第二項ハ法律ノ想像スル所未タ檢察官公訴ヲ起サヽル場合ニ在リ○此場合ニ於テハ被害人ノ請願ハ惟〻純粹ノ民事上即チ私ノ効力ヲノミ有スル者ノ如ク信スル者有ル可ケレトモ決シテ然カルニ非ス又然カルヲ得サル者ナリ○若シ其レ果シテ其請願ハ純粹ノ民事上ノ効力ヲ有スル

ニ過キサル者トセハ豫審判事ハ之ヲ管掌スルニ與カラサル可シ○是ヲ以テ吾人ハ佛蘭西法律ニ倣ヒ尚ホ一層ノ明瞭ヲ加ヘ民事原告人トナル事ハ公訴ヲ提起シ併セテ私訴ヲ組成スル者ナリト決定セリ（看第一條註解及第十一號）

右ニ述フルカ如ク民事原告人トナルヿハ公訴ヲ提起シ併セテ私訴ヲ行フトノ問題ハ實際上大ナル利益アル者ナリ何トナレハ既ニ公訴ト私訴トヲ併セテ發生スルノ時ハ檢察官ノ起訴ヲ爲ストヽ爲サヽルトニ拘ハラス豫審判事ハ先ツ公訴ノ繼續ニ意見ヲ述ヘサル可カラサレハナリ○又檢察官ハ常ニ其公訴事件ニ附キ意見ヲ述フルノ催促ヲ受クルヿ有ル可シ蓋シ豫審ノ主タル所爲ニ至テハ檢察官ノ論結ヲ聞カスシテハ毫モ之ヲ行フヿヲ得ス又其事件豫審判事ノ命ニ因リ公廷ニ付セラレタル以上ハ檢察官ハ必ス出席ヲ爲シ且ツ自己ノ論結ヲ述ヘサル可カラス此論結タル或ハ被告人ノ利トナルヿ有ル可シ即チ公訴ヲ否トスルノ場合是ナリ然レトモ法廳ニ於テハ斯ク否トスル論結アルモ決シテ其論結ニ管束セラルヽヿ無カル可シ」（第二百十二號）右民事原告人ニ付與シタル公訴ヲ提起スルノ權利ヲ以テ佛蘭西治罪法第百八十二條ニ所謂ル直チニ召喚スルト云フ名稱ヲ附シタル權利ト同一ノ者ト見ル可カラス

佛蘭西ニ於テハ被害人ハ啻ニ豫審判事ニ訴ヲ爲ス而已ナラス輕罪裁判所ヘモ亦訴ヲ爲スノ權利アリ即ナ最モ名譽アル人、犯罪アリト申立ラレタル時ハ豫審ヲ爲スヿナクシテ公然刑事裁判所ニ呼出サルヽヿヲ得ルナリ○然レトモ其弊害懼ル可ク又厭フ可シ（弊害ノ生スル希有ノ事ニ非ス）即チ慾心、惡心、重劇ナル錯誤等ヲ以テ方正ナル人ヲ刑事裁判所ニ呼出スヿアリ固ヨリ其冤ヲ訴ヘ遂ニ無罪ニ歸ス可

キヤ知ル可シト雖モ或ハ誤テ耻辱ヲ蒙リ時トシテハ公ケノ悪評ニテ名譽ヲ汚スヿ亦多カル可キナリ

是ヲ以テ佛蘭西國ノ人此犯罪ニ因リ害セラレタリト主張スル者ノ直ニ公訴ヲ爲スノ權利ヲ廢止センヿヲ論スル者年ヲ經テ稍〻多シ惟フニ此法ノ廢滅セラルヽヤ蓋シ遠キニ非サル可シ

千八百六十六年ニ於テ佛蘭西ノ立法者ハ右ノ廢止說ニ傾向スルノ景狀ヲ顯ハセリ○佛治第五條、第六條、第七條ニ於テハ外國ニ在ル佛人ノ犯罪及ヒ佛人ニ對スル犯罪ニ關スル條例ハ重罪ノミヲ豫定セリト雖モ千八百六十六年六月二十七日ノ法律(即チ治罪法ニ編入シテ右數條ニ代ハル者)ヲ以テ之ニ輕罪ヲ附加シ遂ニ直接召喚ノ法ヲ遠ケタリ其言ニ曰ク「起訴ハ檢察官ノ請求ニ非サレハ能ハス」ト即チ被害人ハ斥ケラレタリ然レトモ被害人カ豫審判事ノ面前ニ出テ民事原告人トナルノ權利ハ猶ホ之ヲ奪却セラレサルヤ明カナリ但シ檢察官既ニ起訴ヲ爲シタル後ニ非サレハ其權利生セサルノミ此場合ニ於テモ仍ホ佛蘭西法律ハ其編纂ニ於テ法ニ背シ者ト謂フ可シ

〔第二百十三號〕 直接ニ召喚スルノ權利ハ重罪ノ件ニ就テハ固ヨリ有ルヿ無シ○唯違警罪ノ事項ニ於テハ之ヲ存シテ不都合ナカル可シ○即チ日本草案ニ定ムル所以ナリ

然レトモ以上述フル所ノ理由ヲ以テ害セラレタルト稱スル者ノ豫審判事ニ訴ヲ爲スヿヲ禁スルヿナシ○此法官(豫審判事ヲ云フ)ニ訴フルハ素ト是レ公行ニ非ス故ニ又其目的トスル所ノ人ノ名譽ヲ毀損スルヿナキナリ○若シ錯誤又ハ惡意ニ原因スル告訴アレハ判事輙チ之ヲ察シ以テ訴フ可カラサルノ命ヲ下スヤ明カナリ(第二百四十三條)若

シ又之ニ反シテ告訴、起訴ノ事實確然タレハ被告人ヲ刑事裁判所ニ送致シ此所ニ於テ更ニ證明確實タル者トスルナリ

本條ノ末項ニハ檢察官既ニ起訴ヲ爲シタルト否トヲ問ハス何レノ場合ニ於テモ豫審判事ハ民事原告人ノ在ル旨ヲ通知スルヿヲ云ヘリ○檢察官ノ之ヲ知ルハ實ニ利益アルヿナリ何トナレハ檢察官ハ捜索及ヒ有罪ヲ定ムルニ有益ナル輔佐人ヲ得タルヿナレハナリ

第百二十六條

〔第二百十四號〕 民事原告人遠隔ノ地ニ住居スル時ハ其者ノ干與ハ豫審ノ處分及ヒ口頭ヲ以テスル手續ヲ延滯ス可キカ故ニ其干與ヲシテ豫審處分等ヲ延滯セシメサルカ爲メニ法律上管轄判事所在ノ市街ニ民事原告人ノ住居ヲ撰フヿヲ命シタル者ナリ○住居ヲ撰ヒタル時ハ之ヲ書記局ニ申告ス可シ

斯ク民事原告人ヲシテ事件ノ裁判セラル可キ地内ニ其住所ヲ撰定セシムルノ要件ハ即チ民事訴訟ノ規則ニ類似スル者ナリ民事ノ訴訟ニ於テハ概シテ被告人住居ノ地ヲ以テ管轄ト定メタリ因テ原告人ハ送知ヲ受ルノ速カナルカ爲メ亦其同一ノ地ニ一箇ノ住所ヲ撰定セサル可カラス(佛訴訟法第六十一條第一項)○本條ノ目的ハ第二項ニ指示スルカ如ク佛蘭西訴訟法ニ定ムル所ノ目的ト異ナルヿナシ則チ被告人即チ犯人ハ犯罪ノ地ニ眞住所ヲ有スルヿ稀ナリト雖モ既ニ其地ニ於テ裁判セラル可キ以上ハ民事原告人亦必ス其地ニ自己ノ住所ヲ撰フヿノ必要タルハ常ニ異ナルヿナシ

然レトモ「住所ヲ撰マサル」ノ制裁ハ甚タ簡易ニシテ且ツ極テ寛ナリ即チ民事原告人法律ニ循ヒ特別ノ住所ヲ撰マサル時ハ自己ニ關係アル送達ヲ受ルヿナシト雖モ之ヲ愁訴スルヿヲ得サルノミ

末項住所ノ移轉ノ事ハ更ニ説明ヲ用フル所ナシ

第百二十七條

〔第二百十五號〕 本條ハ被害人、民事原告人トナリ又ハ既ニ爲セル論決ヲ變更增減スル等凡テ其權利ノ廣狹ヲ指示スル者ナリ檢察官ノ起訴未タ曾テ有ラサル時ニ於テハ被害人カ告訴ヲ爲シ併テ民事原告人トナルノ權利ハ總則ニ記載セル期滿免除ニ因ルニ非サレハ制限セラルヽヿナキヤ明カナリ

然レ𪜈若シ一旦刑事法廳ノ所管トナリタル時ハ被害人ノ權利タル他日其法廳ノ管轄ヲ免カルヽニ由リ從テ其權利モ亦消滅ニ歸スル有ル可シ此場合ニ於テハ被害人ハ惟民事法廳ニ訴フルノ一途アル而已

法律ハ被害人ヲ待ツニ成ル丈ケ寛大ヲ旨トセリ故ニ裁判言渡アルニ至ルマテハ假令ヒ公廷ニ於ケルモ其論決ヲ陳述スルヲ許シタリ又檢察官若クハ被告人ヨリ控訴シタル時ハ控訴裁判所ニ於テモ亦其論決ヲ陳ルヿヲ許セリ

終ニ法律ハ總則第六條ノ旨趣ヲ擴張シ被害人ノ一旦民事原告人トナリタル後或ハ證據缺乏ノ爲メ或ハ凡テ其他ノ理由ノ爲メ其嘗テ爲セル所ノ請願ヲ願下ケ得ルヿヲ想像セリ蓋シ一旦爲セル訴ヲ願下ル事ハ訴訟ノ權利ヲ拋棄セルニハ非ス唯其既ニ始メタル訴訟ヲ願下ルニ過キサルノミ故ニ被害人ハ前同一ノ期限內ニ在ラハ或ハ最初ノ論決ヲ變更シ或ハ之ヲ變更スルヿナク更ニ復タ之ヲ請願スルヲ得可シ

第百二十八條

〔第二百十六號〕 民事ニシテ且ツ金錢上ノ請求ハ必シモ自カラ其訴

訟ヲ爲スニ及ハス即チ特別ノ代理人ヲ用ヒ之ニ委ネテ以テ訴訟ヲ爲サシムルモ猶ホ其効ヲ有スヘシ○願下ヲ爲スニモ亦同シク特別代理人ヲ用フルヿヲ得可キナリ○又法律ニハ記スルヿナシト雖モ總理代人ノ管理スル財産上ニ損害ヲ蒙ル時ハ其代人ヨリ訴訟ヲ爲シ得可キヿヲ認許スルヤ勿論ナリ何トナレハ是レ此代人ノ總理タルヨリ生スル自然ノ効力ナレハナリ且ツ此理ヲ推サハ此代人ハ訴訟ヲ爲スト否トノ判者ニシテ又願下ヲ爲スト否トノ判者タリ

右ト同一ノ原則ニ因リ父又ハ後見人ハ被害幼者ノ爲メニ訴ヲ爲シ夫ハ婦ノ爲メニ訴ヲ爲スヲ得可シ又其訴訟ヲ爲シタル後ニ於テ願下ヲ爲スヿヲ得可シ何トナレハ是等ノ人ハ皆ナ法律上ノ名代人ニシテ其名代ノ權利ハ此二箇ノ權利ヲ有スルカ爲メ充分廣大ナル者ナリ

第三章　豫審（アンストリュクション、プレパラトワール）

前置條例（ヂスポジシヨン、プレリミネール）

要旨

第二百十七號　豫審ノ二箇ノ有益（ユチリテイ）即チ社會ノ利益（アンテレイ）及ヒ被告人ノ利益

第二百十八號　證憑（シヤルジュ）ノ裁判、豫審終結ノ言渡

〔第二百十七號〕　重罪及ヒ重劇ナル輕罪ニ豫審ヲ行フニハ抑二箇ノ目的アリ

第一　法律ニ於テハ重ナル證據ノ聚集セラレサル前ニ被告人ヲ公判廳ニ附スヲ望マス即チ證據不備ノ故ヲ以テ有罪者ヲシテ無罪ノ言渡ヲ受ケシムルニ至ルヲ恐ルヽナリ

第二　又法律ハ重罪又ハ重劇ナル輕罪ナル可シトノ慢然タル嫌

疑ノ爲メニ無罪人ヲ公然刑事法廳ニ引致スルヲ欲セス、則チ調査ノ後必ス無罪ノ言渡ヲ受ルヤ明カナリト雖モ既ニ刑事法廳ニ引致セラレタル以上ハ其者ノ名譽ト利益上トニ著大ナル損害ヲ被ラシムルヿ少々ナラサルカ故ナリ

〔第二百十八號〕 是ヲ以テ豫審判事ハ有罪又ハ無罪ノ證據ヲ收攬スルヲ以テ職ト爲ス而シテ豫審判事ニ判事ノ名稱ヲ附シタル所以ノ者ハ蓋シ「證憑ヲ判決スル」ニ因ルナリ(第二百三十八條以下)後チ吾人ノ說ク所アリト雖モ豫審判事豫審ヲ完結シタル時ハ則チ豫審「終結」ト稱スル言渡ヲ爲ス而シテ此終結ノ言渡ハ其目的ノ何タルヲ問ハス實ニ「裁判」ノ性質ヲ有スル者ナリ○然レトモ斯ノ「證憑」ノ裁判ト「本案」(フチン)ノ裁判ト混同スルヲ避ケンカ爲メ特ニ法律ハ常ニ公判ト稱スル眞ノ裁判言渡ニ對シテ「豫審終結」(デシジヨン)ノ言渡ナル語ヲ用ヒタル者

トス

茲ニ其最モ著シキ豫審終結言渡ノ二例ヲ記ス可シ

其一 豫審判事ニ於テ被告人ノ無罪タルヲ認メ或ハ證據ノ不充分ナルヿヲ認定セシ時ハ「汝ニ對シテ繼續ス可キ莫シ」ト明言シ自由ノ身ト爲スト(即チ訴フル所無シトノ言渡)ノ言渡ヲ爲ス可シ但シ後日更ニ證據ノ擧ルニ方リ再ヒ起訴ノ起ル場合ハ此限ニ在ラス(第三百條)

其二 豫審判事或ハ重罪或ハ輕罪ニ關シ「被告人ニ對シテ充分ナル證憑アルヿヲ」認定セシ時ハ之ヲ裁判スル爲メ管轄法廳ニ被告人ヲ送付スルノ言渡ヲ爲ス(此ヲ送付(ランボアー)ノ言渡ト謂フ)

豫審判事ノ業

第百二十九條 現行ノ重罪又ハ現行ノ輕罪ノ場合ノ外、豫審判事ハ前章ニ述ヘタルカ如ク政府ノ目代又ハ規則ニ遵フテ民事原告人トナリタル者ノ請求ヲ受ケタル後ニ非サレハ豫審ヲ初ムルヿヲ得ス此請求

又ハ民事原告人トナリタル事ノ以前ニ係ル手續ハ無効タル可シ(治、第百十三條○草、第二百十八條以下○佛治、第六十一條第一項)

告訴又ハ告發召喚狀

第百三十條　然レトモ豫審判事ニ宛テ告訴又ハ告發ヲ爲シタル場合ニ於テハ豫審判事常ニ重罪又ハ輕罪ノ嫌疑ヲ受ケタル人ニ對シ召喚狀ヲ發シ且ツ訊問ノ手續ヲナスヿヲ得然ル後ヲ繼續ス可キ者ナリト査定シタル時ハ己レノ固有ノ名ヲ以テ之ヲ政府ノ目代ニ申告シ併テ己レノ受取リタル告訴又ハ告發ヲ此目代ニ送達ス可シ(治、第百十四條○草、第百七條、第百十一條○佛治、第七十條)

急速ヲ要スル場合拘留狀

第百三十一條　又豫審判事ハ急速ヲ要スル場合ニ於テハ勾引狀又ハ拘留狀ヲ發スルヿヲ得但シ其領收セル事實參考物ヲ添ヘ直ニ其趣ヲ政府ノ目代ニ通知スルノ責メ有リ若シ此場合ニ於テ政府ノ目代己レニ通知ヲ受ケタル次ノ日起訴ヲ請求セサル時ハ被告人ハ直ニ自由ノ身トナル可シ但シ後ノ起訴ヲ要スル場合アル時ハ其起訴ヲ爲スノ妨害トナルヿ無カル可シ(治、第百十五條○草、第百三十三條以下○佛治、第六十一條第二項)

被告人所在ノ地ノ判事

第百三十二條　第百七條及ヒ第百十一條ノ法文ニ遵ヒ告訴又ハ告發ヲ豫審判事ニ爲シ又ハ送致セル場合ニ於テハ此判事ハ訊問及ヒ急速ノ檢證ノ處分ヲ爲スヿヲ得、然ル後ヲ若シ其事件禁錮又ハ一層重劇ナル刑(即チ禁錮以上ノ刑ヲ云フ)ヲ惹起スル者ト見ユル時ハ拘留狀ニ依リ被告人ヲ犯罪ノ地ノ豫審判事ニ送ル可シ若シ又拘留狀ヲ發セサル時ハ其事件ヲ犯罪ノ地ノ政府ノ目代ニ送ル可シ(治、第百十六條○草、零○佛治、第六十九條)

第百二十九條

第二百十九號　豫審判事ハ現行犯ノ場合ノ外「職權」ヲ以テ處分ヲ爲サス

第百三十條

第二百二十號　豫審判事ニ宛テ告訴又ハ告發ヲ爲シタル場合ニ於ケル召喚狀ノ事、要領ノ訊問○其訊問後ニ生スル三箇ノ事柄

第百三十一條

第二百二十一號　急速ヲ要スル事、逃遁ノ危險、拘留狀○檢察官ニ通知スル事

第百三十二條

第二百二十二號　犯人ノ所在ノ地ノ豫審判事○此ヨリ生スル二箇ノ事柄

第百二十九條

〔第二百十九號〕　判事其「職權」ヲ以テ事件ヲ認知シ之カ審理ヲ下シ得サルヿハ法律及ヒ訴訟手續ノ一大原則ナリ故ニ其審理ヲ爲シ得ルカ爲メニハ他ヨリ其判決ヲ求ムル者無カル可カラス(佛訴訟法第四百八十條第三項、第千二十八條第五項)

斯ク法律上豫審ノ爲メニ此原則ヲ設ケタルカ故ニ判事豫審ヲ始ムルヿヲ得ルカ爲メニハ檢察官若クハ規則ニ遵ヒ民事原告人トナリタル者ノ起訴ヲ受ルヿ無クンハ非ス之ニ背ク時ハ豫審ハ無効トナル可キナリ若シ其レ判事未タ訴ノ起ラサルニ既ニ豫審ヲ始メ然ル後チ起訴アリタルカ如キハ其起訴以前ニ行ヒシ所ノ者ハ凡テ皆ナ無効トナリ更ニ又處分ヲ始ムルヲ要ス

然レトモ此原則ニハ著ルシキ例外アリ則チ法律上直ニ記載スル所ニ

シテ現行ノ重罪又ハ輕罪ノ場合是ナリ

此場合ニ於テハ後ニ記載スルカ如ク判事ハ毫モ請求ヲ俟タス直ニ職權ヲ以テ檢證ヲ始ムルヲ得可シ惟其旨ヲ直ニ政府ノ目代ニ通知スルノ責任アリ

時トシテハ此現行犯ノ事項ニ就キ二三ノ論者或ハ曰ク判事ハ「犯罪ノ事實自カラニ依リ」訴ヲ受理スル者ナリト又他ノ論者ノ曰ク判事ハ「法律ニ據リ」受理スル者ナリト然レトモ此二說ハ共ニ不正確タリ何トナレハ斯ル論說ニ因レハ判事ハ自己ノ知ラサル時即チ事實ノ有無ヲ了知セサル時ト雖モ猶ホ且ツ訴ヲ受理スル者ト思量スルニ至ル可ケレハナリ是レ即チ保持シ難キ論ト謂フ可シ、故ニ犯罪事實ノ認知ヲ爲シタルノミニテハ訴ヲ受理スルヿナキナリ其訴ヲ受理スルカ爲メニハ判事先ツ豫審ノ處分ヲ爲サヽル可カラス其處分ヲ爲シ

テ後チ始テ判事ハ「親カラ訴ヲ受理スル」者ト謂フ可シ「親カラ訴ヲ受理スル」ノ語ハ既ニ(第一條註解、第十二號第三)之ヲ用ユ○以上說ク所則チ是レ例外ナリ

通常ノ場合ニ於テ豫審判事カ若クハ檢察官若クハ民事原告人ヨリ一旦起訴ヲ受理シタル時ハ豫審處分ノ手續ヲ爲スカ爲メ起訴人ノ請求ヲ待ツヲ以テ必要トセス反テ其職權ヲ以テ豫審ノ繼續ヲ爲スヿヲ得可ク又之ヲ爲サヽルヲ得サルナリ但下ニ說ク所ノ如ク或ル處分ニ就テ檢察官ノ論結ヲ要求スルハ此限ニ在ラス○右ニ述フル所ノ規則ハ獨リ豫審判事ニ而已適用スルニ非ス本案判事ニモ亦之ヲ適用ス可キ者ナリ

第百三十條

〔第二百二十號〕犯人逃亡ノ危險常ニ存スルヲ以テ法律ハ之ヲ防カ

ンカ爲メ前條ノ規則ニ全ク例外ヲ設ケサルモ亦其稍〻特別ニ渉ル者ヲ記入シタリ

乃チ告訴、告發ヲ受ケタル判事ハ未タ以テ訴ヲ受理シタル者ニ非スト雖モ被告人ヲシテ自己ノ面前ニ出頭セシムルヿヲ令シ(マンデイー)且ツ其被告事件ヲ訊問スルヿヲ得可シト爲セリ

法律ハ以下ノ法文ニ於テ豫審判事ノ發ス可キ數種ノ命令、令狀ニ就キ許多ノ詳說ヲ記載ス可シ○然リト雖モ茲ニハ唯〻召喚狀ヲ發スルニハ强制ヲ用ヒス被告人ヲシテ出頭セシムルニ在ルヿヲ注目スル(コントレント)ニ止マル可シ而シテ假令ヒ此召喚狀ノ法式ハ稍〻命令ノ意義ヲ含蓄スト雖モ之ヲ受ケタル人ハ常ニ其自由ノ意思ヲ以テ之ニ服從スル者ナリ

被告人召喚狀ニ服從セサルヿヨリ生スル事柄ハ後ニ至テ說ク所アリ

豫審判事ハ被告人ヲ訊問シタルノ後チ其事實充分眞實ニ且ツ充分重劇ニシテ檢察官ノ起訴ノ目的タルニ足ルト信スル時ハ夫ノ職務執行ノ際、重罪、輕罪ヲ認知若クハ嫌疑シタル官吏ト同シク通常ノ法式ニ從ヒ檢察官ニ告發ス可シ(第百十一條)是レ判事自カラ政府ノ目代ニ起訴ス可キヿヲ請求スルヲ得サルニ因ル何トナレハ若シ之ヲ請求スル時ハ職務ノ顚倒ヲ生スルカ故ナリ(ランバルズマン)○判事告發ヲ爲ス時ハ既ニ受取リタル告訴狀又ハ告發狀ヲ添ユ可キナリ

斯ク告發ヲ爲シタル時ハ檢察官亦必ス起訴ヲ爲ス可キヿハ是レ敢テ疑フ可キ者ニ非ス

豫審判事疑ニ又疑ヒヲ起シ眞實ノ嫌疑ニタモ至ラスト信スルヿ有ル可シ此場合ニ於テハ自己固有ノ名ヲ以テ告發セスシテ唯〻其受取

リタル告訴狀、告發狀ヲ政府ノ目代ニ移ス可シ是レ則チ政府ノ目代ヲシテ自由ニ其欲スル所ノ方法ヲ行ハシメンカ爲メナリ

判事若シ告訴人若クハ告發人ノ方ニ錯誤又ハ惡意アルヿヲ充分認メシ時ハ毫モ政府ノ目代ニ通知ヲ爲サヽル可シ則チ政府ノ目代ニ於テモ斯ノ如キ場合ニ於テハ第百七條ニ記載セシカ如ク豫審判事ニ通知ヲ爲サヽルト一般ナリ

佛蘭西法典ハ斯クノ如キ區別ヲ爲サス只政府ノ目代ニ通知スルヿヲ廣漠ニ記載セリ然レトモ實際ニ於テ豫審判事カ奇妙若クハ忽卒ナ(テヌレール)リト思料シタル告訴ハ之ヲ豫審判事ニ通知スルヲ怠リタルヿ屢〻之レ有リ蓋シ民事原告人ノ設定アル時ハ別段ナリトス

第百三十一條

〔第二百二十一號〕 假令ヒ判事ハ告訴又ハ告發ニ因リ犯罪事件ヲ受理シタルニ非スト雖モ法律ニ於テハ至急ヲ要スル場合又ハ被告人逃亡ノ危險アル時ハ召喚狀ノ他ニ尙ホ二箇ノ令狀ヲ發スルヿヲ許シタリ其一ヲ勾引狀ト稱シテ即チ被告人召喚狀ニ服從セサル時ハ公力ヲ用ヒルモ猶ホ判事ノ面前ニ至ラシムルヿヲ强ユル所ノ者ナリ又其一ヲ拘留狀ト名ケテ即チ訊問ノ後、被告人ヲ法廳ニ拘留スル者ヲ云フナリ

判事是等ノ令狀ヲ發シタル時ハ其旨ヲ政府ノ目代ニ通知シ且ツ自己カ訊問又ハ其他ノ方法ニテ得タル所ノ事實參考物ヲ添ユ可シ

然レトモ豫審判事ヲシテ斯ノ如キ例外ナル豫防ノ處置ヲ下サシメサルヿヲ得ストノ決定即チ重劇ナル嫌疑アルニ拘ハラス政府ノ目代ハ必シモ起訴ヲ爲ス可キ者ナリトノ意見ヲ有セサルヿ有ルヿヲ得可シ此場合ニ於テハ政府ノ目代ハ其起訴ヲ爲サヽル旨ヲ判事ニ回答ス

ルヲ得其回答アリタル時ハ判事ハ直ニ被告人ヲ解放ス可シ又政府ノ目代ニ於テ一日以上起訴ヲ怠リタル時モ亦同シ○右何レノ場合ニ於テモ判事ハ未タ訴ヲ受理シタルニ非サルヲ以テ引續テ被告人ヲ抑留スルヲ得ス此規則ニ背ク時ハ擅ニ人ヲ監禁スルノ罪アリトス

斯ク一旦被告人ヲ解放スルト雖モ後日更ニ起訴ヲ爲スノ妨害トナルヿナシ又更ニ起訴ヲ爲スニ新タニ證憑ヲ發見スルヿヲ要セス何トナレハ未タ曾テ豫審決定即チ終結ヲ云フノ在リシヿ無ケレハナリ

第百三十二條

〔第二百二十二號〕既ニ第百七條及ヒ第百十一條ニ於テ告訴又ハ告發ハ被告人所在ノ地ノ豫審判事ニ之ヲ爲シ又ハ之ヲ其判事ニ移スヿヲ得可シトノ例外ヲ記セリ○此場合ニ於テハ右ノ判事ハ既ニ說明セル如ク被告人ノ訊問ニ取掛リ又證人訊問、家宅臨檢、證據物件ノ差押(ピエース、ア、コンビクション)等急速ヲ要スル檢證ヲ行フヿヲ得然ル後チ其事件ハ自由ヲ剝奪スルニ充分ナル重劇ノ者ナリト思料シタル時ハ拘留狀ヲ發シテ被告人ヲ犯罪ノ地ノ豫審判事ニ送ル可シ然ル時ハ犯罪ノ地ノ豫審判事ハ其令狀ヲ檢シタル後チ又ハ自己ノ名ヲ以テ更ニ令狀ヲ發シタル後チ通常ノ法式ニ從テ處分ヲ爲ス可シ

然レ𪜈若シ拘留狀ヲ發セサリシ時ハ被告人ヲ犯罪ノ地ニ送ルヿ決シテ之レ無シ其送付ス可キ者ハ則チ事件即チ告訴狀ノミ而シテ其告訴狀ハ犯罪ノ地ノ政府ノ目代ニ之ヲ送ル可シ○右ニ記スル所ノ變態(ニュアンス)ハ細密ニ涉ル者ノ如シト雖モ是レ即チ原則ノ遵守ヨリ生スル者ナリ即チ政府ノ目代ハ告訴狀ヲ受クルヿアルモ親カラ被告人ヲ受取テ之ヲ監禁セシムル者ニ非サルナリ

召喚狀

第百三十三條　豫審判事ハ檢察官又ハ民事原告人ニ依リ規則ニ從ヒ訴ヲ受理シタル時ハ重罪又ハ輕罪ノ嫌疑ヲ受ケタル人ニ對シテ召喚狀ヲ發ス可シ但シ召喚狀ヲ發スル時ト出廷ニ就キ定メラレタル時トノ間ニハ少クトモ二十四時ノ期限（デレー）ヲ設置スルヲ要ス

訊問

出廷ノ命ヲ受ケタル者ハ直ニ又ハ遲クトモ其同日內ニ之ヲ訊問ス可シ（治、第百十八條○草、第百三十六條○佛治、第九十三條）

囑託

第百三十四條　若シ出廷ス可キ者召喚狀ヲ發シタル判事ノ區域內ニ住所ヲ有セサル時ハ該判事ハ其者所在ノ地ノ豫審判事ニ囑託（コンミシヨンロガトワール）シテ同樣ナル令狀ヲ發セシムルヿヲ得可シ

豫審判事ハ其照査（エクレルシール）ス可キ點ト其點ニ就キ出廷人ノ說明ヲ要スルヿトノ囑託ヲ受ケタル判事ニ指示ス可シ（治、第百十九條○草、第七十三條、第百三十八條、第百三十九條）

勾引狀

第百三十五條　左ノ場合ニ於テハ豫審判事直ニ勾引狀ヲ發スルヿヲ得

第一　出廷ノ命ヲ受ケタル者其定メラレタル日ニ出頭セサル時（マンダー、アー、コンパレートル）

第二　出廷ノ命ヲ受ケタル者定リタル住所ヲ有セサル時

第三　出廷ノ命ヲ受ケタル者既ニ禁錮一年又ハ其以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル時

第四　豫審判事出廷ノ命ヲ受ケタル者ノ逃亡又ハ其有罪ノ事ニ就キ現存スル證據ヲ滅盡（ザスパレートル）センヿヲ恐ルヽ時

第五　豫審判事其命令ヲ受ケタル者ノ罪トナル可キ未遂犯（デリクチユエー）又ハ脅迫罪（ダンダチーブ）ヲ遂ケントスルヲ恐ルヽ時（治、第百二十條、第百二十一條○草

命令（ムナ）

零○佛治、第九十一條、第九十四條)

續キ

第百三十六條　勾引狀ノ發行ヲ受ケタル被告人ハ公力ノ爲メニ其狀ヲ渡シタル法官ノ面前ニ引致セラル可シ

訊問

其引致セラレタル被告人ハ四十八時內ニ訊問セラル可シ其後若シ拘留狀ヲ受ルヿナキ時ハ當然自由ニ置カル可シ(治、第百二十二條○草、第百三十三條○佛治、第九十三條、第九十八條)

被告人ノ遠隔、例外ノ事

第百三十七條　勾引狀ヲ發スル時豫審判事ノ管轄地外ニ在ル被告人ハ其令狀ヲ示ス時ニ於テ自己ノ所在ノ地ノ豫審判事ノ面前ニ引致セラレンヿヲ願フヲ得可シ其地ノ豫審判事ハ假リニ之ニ拘留狀ヲ發シ且ツ其理由ヲ言聞カセ而シテ該事件ニ如何ナル繼續爲ス可ヲヤヲ知ランカ爲メ直ニ其旨ヲ原判事(發令判事ニ通知ス可シ(治、第百二十三條○草、第百條以下)

續キ

第百三十八條　前條ノ場合ニ於テ勾引狀ヲ發シタル判事ハ其令狀ヲ即時ニ執行セシムルトモ若シハ被告人ヲ拘留シタル判事ニ己レヨリ指示スル所ノ事件ノ訊問ヲ囑託スルトモ何レニモ猶豫ナク處分ス可シ

此訊問ノ後ニ囑託ヲ受ケタル判事ハ保證ナク若シハ保證ヲ命シテ被告人ニ自由ヲ與フル(即チ釋放)カ又ハ勾引若シハ拘留ノ命令ヲ下シテ之ヲ原判事ノ面前ニ送ル旨ヲ命スルヲ得可シ(治、第百二十四條○草、第七十三條、第百三十四條○佛治、第百三十條)

判事ノ出張

第百三十九條　召喚狀又ハ拘引狀ノ目的タル人、疾病又ハ其他適正ニシテ且ツ證明セラレタル原由ニ因リ己レヲ動カスヿ能ハサル時ニ方リ此人若シ令狀ヲ渡シタル豫審判事ノ區域內ニ在レハ其判事訊問ヲ爲スカ爲メ自カラ此人ノ在所ニ出張スルヿヲ得此反對ノ場合ニ在テハ

命令

住所、所在ノ地ノ豫審判事ニ此事柄（即チ訊問ノ爲メ所在ニ出張スルヿヲ云フ）ヲ囑託ス可シ」

右何レノ場合ニ於テモ若シ其事件太タ重劇ナルニ非サレハ囑託ハ之ヲ被告人住所ノ地ノ治安判事ニ爲スヲ得可シ（治、第百二十五條○草、第七十三條、第百八十三條）

拘留狀

第百四十條　拘留狀ハ第百三十七條ニ豫定シタル場合及ヒ現行犯又ハ被告人逃亡ノ場合ノ外、犯罪ノ地ノ豫審判事ニ依リ若シクハ囑託アリシ場合ナレハ逮捕シタル場所ノ豫審判事ニ依リ犯罪カ重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ場合ノミニ於テ被告人ノ訊問ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ發スルヿヲ得ス（治、第百二十六條○草、第百三十三條、第百三十六條、第百三十七條○佛治、第九十四條）

拘留狀ノ期限

第百四十一條　拘留狀ノ執行ヨリ十日ノ後ハ豫審判事必ス此令狀ヲ收監狀（アンダーゲレイー）ニ換フルカ又ハ保證ヲ命シ或ハ之ヲ命セス假ニ被告人ヲ自由ニ置クヲ要ス

何レノ場合ニ於テモ被告人ハ總テ訴訟ノ事件ニ附キ呼出ヲ受ル時ハ毎ニ出廷ス可キノ盟約（アンガージュマン）ヲ爲ス可シ

然レトモ政府ノ目代ハ更ニ十日間自由ヲ附スルヿノ停止ヲ豫審判事ニ請求スルヿヲ得可シ

右十日間ノ延期（プロロンガシヨン）ハ上ノ盟約ヲ拒絶ス可キ被告人又ハ其盟約ヲ爲シタル後其約ニ背キタル被告人ニ對シテ之ヲ行フヿヲ得可シ（治、第百二十七條○草、第二百三十條以下）

收監狀

第百四十二條　收監狀ハ政府ノ目代其既ニ始マリタル手續ノ通知ヲ受ケ且ツ此令狀ヲ渡スヿニ就キ自己ノ論結ヲ付與スルノ求メヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ發スルヿヲ得ス（治、第百二十八條○草、第三十四條）

續キ開載ス可キ事

第百四十三條　收監狀ニハ犯罪ノ事實ト犯罪ノ輕重ヲ多少變更スルヿヲ得ル所ノ既ニ知リ得タル景狀（シルコンスタンス）トヲ簡略ニ開載（エンスラー）ス可シ

其罪ヲ罰ス可キ法律ノ箇條ハ其全文ヲ收監狀ニ登記（トランスクリー）ス可シ

政府ノ目代此令狀ヲ渡スヿニ附キ意見ヲ附シタルヿモ亦之ニ記載（マンシヨン）ス可シ（治、第百二十九條○草、第四百三十三條）

令狀ノ普通ノ法式

第百四十四條　凡テノ令狀ニハ成ル可ク丈ケ之ヲ受ケタル人ノ氏名、職業、身分及ヒ住所ヲ記ス可シ若シ其名或ハ氏ノ知レサル時ハ第百四十七條ニ從ヒ公力者ニ附屬セラル可キ令狀中ニ容貌（シギヤールマン、フイジツク）ヲ書シテ其者ヲ指示ス可シ

令狀ニハ年月日ヲ記ス可シ

令狀ニハ之ヲ渡シタル豫審判事及ヒ書記ノ署名ト捺印ヲ爲ス可シ（治、第百三十條○草、第二百四十七條○佛治、第九十五條）

制裁

第百四十五條　第百四十三條及ヒ前條二項ノ規則ニ於テ拘留狀及ヒ收監狀發行ノ爲メニ定メタル要件ハ之ヲ遵奉ス可シ背ク時ハ該令狀無効トナル可シ（治、零○草、第五百三十二條第六項○佛治、第百十二條）

召喚狀ノ交付

第百四十六條　召喚狀ハ之ヲ受ク可キ人ノ所在ノ如何ニ拘ハラス通常ノ法式ヲ用ヒ書記局員之ヲ其本人若シハ其住所ニ送達（ノチフイエー）ス可シ（治、第百三十一條○草、第二十四條○佛治、第九十五條、第百五條）

其他ノ令狀ノ交付

第百四十七條　勾引、拘留及ヒ收監ノ令狀ニハ其執行ヲ堅固ナラシムル爲メ公力ヲ要スル時ハ之ヲ請求スルヿヲ記入（コンチアンドロン）ス可シ

是等ノ令狀ハ帝國全土ニ於テ執行セラル可シ

是等ノ令狀ハ公力者ノ一人又ハ數人ニ必要丈ケノ正本（オリジーイー）ヲ交付ス可シ

其執行ノ時ニハ一箇ノ正本ヲ被告人ニ示ス可シ而シテ被告人若シ其命令

令狀ノ交付ヲ請求スル時ハ第二十五條第二項ニ記シタル法式ニ遵ヒ其謄本ヲ下付ス可シ(治、第百三十二條○草、第二十四條○佛治、第九十七條、第九十八條、第百八條)

家宅搜索

第百四十八條　若シ令狀執行ノ任ヲ受ケタル者被告人ノ其住所若クハ其他凡テ私ノ場所ニ潛伏(カツシエー)シタルヤノ嫌疑アル時ハ此事ニ就テ請求セラレタル戶長(ブリベー)府ニ於テハ區長(メール)ヲ云フ又ハ其補員(シュブレアン)ヲ云フ書記等ノ面前ニ於テ家宅搜索(ペルキゼシヨン)ニ取掛ル可シ戶長又ハ補員ノ差支或ハ不在ノ場合ニ於テハ比隣者二名(ボアハザン)ノ面前ニ於テ之ヲ爲ス可シ

被告人ノ發見セラレタルト否トヲ問ハス家宅搜索ノ調書(アクト)ヲ作ル可シ戶長又ハ比隣者二名ハ此調書ニ手署ス可シ

家宅搜索ハ日出前(ルベー)、日沒後(ダーシエー)ハ之ヲ爲スヿヲ得ス(治、第百三十三條、第百三十四條、第百三十五條○草、第百七十七條以下)

士官及ヒ兵卒特別ノ法式

第百四十九條　若シ召喚狀ヲ發セラレタル被告人現ニ陸軍又ハ海軍服役ノ兵卒若クハ士官ナル時ハ其令狀ハ其營ノ長官ニ示サル可シ長官ハ完全ノ差支アルニ非サレハ本人ヲシテ判事ノ面前ニ至ラシムルヿヲ許ス可シ

假令ヒ服役外ノ兵卒(ソルダー)若クハ士官(オフヒシエー)ニ對シテ發シタル勾引狀、拘留狀又ハ收監狀ニ關スル時ト雖モ是等ノ令狀ハ要塞司令官(コンマンダン、ド、プフース)又ハ隊長(シエーフ、ザユ、コール)ニ示サル可シ其司令官又ハ隊長其執行ヲ許可シ若クハ軍事法廳ノ管轄ス可キ事件ナル時ハ被告人ヲ取押(サツシユラン)テ之ヲ其法廳ニ訴フ可シ(治、第百三十六條○草、第百九十一條)

譯者曰ク本條ニハ召喚狀ヲ受ク可キ被告人ノ士官タル時モ亦之ヲ其營ノ長官ニ示ス可シト記シ而シテ其註解ニハ自カラ令狀ヲ受取ルヿヲ記載セリ即チ正條ト註解ト抵觸ヲ免カレサレハ著者ニ就テ之ヲ質問セシニ左ノ答言ヲ得タリ因テ之ヲ玆ニ揭ク

〔答言〕本條第一項ニ召喚狀ヲ受ケタル被告人ハ兵卒又ハ士官云々

ト記シタル「又ハ士官」ノ文字ハ一時ノ誤謬ニ出タル者ナレハ宜シ之ヲ削ルヘシ

監禁

第百五十條　拘留狀又ハ收監狀ニ據リ取押ラレ又ハ拘留セラレタル被告人ハ即時ノ送致ヲ爲ス能ハサルノ外其令狀ニ指示シタル監獄(プリソン)ニ引致セラル可シ即時ノ送致ヲ爲シ難キ場合ニ於テハ假リニ最近ノ監獄ノ一ニ引致セラル可シ

何レノ場合ニ於テモ監獄ノ看守長(ガルヂアン、シエーフ)ハ令狀ヲ檢閲シテ被告人ヲ受取リ而シテ其受取證書(レセプセー)ヲ渡ス可シ(治、第百三十七條○草、第百四條、第百七條、第百十條、第百十一條)

執行ノ旨ヲ明記スル事

第百五十一條　令狀ノ執行ヲ任セラレタル官吏ハ其令狀ノ執行セラレタルヿヲ正本ニ明記ス可シ反對ノ場合ニ於テハ如何ナル原由ニ因テ執行セラレサリシカヲ明記ス可シ

拘留セラレタル者ニ令狀ヲ交付スル事

然ル後ヲ該官吏ハ右ノ書類ヲ裁判所ノ書記局ニ交付シ書記局ハ之ニ解任ノ證書ヲ付與ス可シ(治、第百三十八條○草、第二十五條第七項○佛治、第百九條)

第百五十二條　若シ拘留狀又ハ收監狀ヲ發セラレタル被告人既ニ拘留セラレタル時ハ書記令狀ノ謄本ヲ本人ニ交付シ其趣ヲ正本及ヒ謄本ニ記載ス可シ(治、第百三十九條)

拘留セラレタル者ニ音問(ゼシツトー)ヲ爲スヿ及ヒ之ト交通スル事

第百五十三條　後ニ豫定シタル密室監禁ノ場合ノ外、被告人ハ監獄ノ規則ニ從ヒ其近キ血屬親又ハ姻屬親(アッエー)、朋友(アミー)或ハ代言人(アッチカー)ノ音問(ゼシツトー)ヲ受ルヿヲ許サル可シ

書翰、書籍及ヒ其他ノ書類ハ豫審判事ニ通達シタル後ニ非サレハ外人ト被告人トノ間ニ交換セラルヽヲ得ス、豫審判事ハ假ニ之ヲ留置スルヿヲ得可シ

命令

其他ノ物件ハ之ヲ檢閲(エグザミネー)シ及ヒ審査(コントローレー)ス可キ監獄長ノ手ヲ經テ交換セラル可シ

之ヲ許容スルヿニ附テ遲疑又ハ異議アル場合ニ於テハ豫審判事此物件ノ交付ヲ許可又ハ拒絶スルヲ得可シ(治、第百四十條○草、第百五十六條以下)

令狀ノ差免

第百五十四條　豫審中ニ於テ若シ判事證憑ニ從ヒ犯罪ハ禁錮又ハ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ニ非スト査定シタル時ハ判事ハ被告人又ハ檢察官ノ請願ニ依リ若クハ職權ヲ以テ拘留狀又ハ收監狀ノ單純ノ差免(メン)ルシ(ルベー)ヲ付與スルヿヲ得可シ

然レトモ收監狀ノ差免ルシニ關シテ檢察官ノ請願ナキ時ハ豫審判事豫メ檢察官ノ論結ヲ請願スルヲ要ス(治、第百四十一條○草、零○佛治、第九十四條)

被告人ノ用ニ備ヘタル法典ノ事

第百五十五條　豫審中及ヒ確定ノ判決ニ至ルマテ被告人ノ拘留セラレタル凡テノ監獄内ニハ二箇ノ刑典(コード、クリミナール)各、一部ヲ備ヘ以テ其用ニ充ツ可(ザスポジション)シ(治、第百四十二條)

要旨

第百三十三條

第二百二十三號　令狀ノ四類(ソルト)ノ事

第二百二十四號　召喚狀

第百三十四條

第二百二十五號　囑託

第百三十五條

第二百二十六號　勾引狀

命令　要旨

第百三十六條

第二百二十七號　其續キ

第百三十七條

第二百二十八號　其續キ、特別ノ場合即チ被告人遠隔ノ事

第百三十八條

第二百二十九號　其續キ、勾引狀ノ場合ニ於テ其狀ヨリ生スル數種ノ結果

第二百三十號　勾引狀ノ場合ニ於テ草案ト佛蘭西法典トノ間ニアル二箇ノ差異

第百三十九條

第二百三十一號　判事ノ出張及ヒ囑託

第百四十條

第二百三十二號　拘留狀○前以テ訊問スル事○例外ナル二箇ノ場合

第百四十一條

第二百三十三號　拘留狀ノ期限○延期ノ二箇ノ場合

第百四十二條及第百四十三條

第二百三十四號及第二百三十五號　收監狀○三箇ノ要件○是等要件ノ有益

第百四十四條

第二百三十六號　四箇ノ令狀ニ普通ノ法式ノ要件○各有益ナル事

第百四十五條

第二百三十七號　法式ノ無効○制裁

第百四十六條及第百四十七條

第二百三十八號　召喚狀ノ送達

第二百三十九號　三箇ノ令狀ハ帝國全土ニ於テ執行力アル事（フォルス、エキゼキュトリール）

第百四十八條

第二百四十號　被告人發見ノ爲メ家宅搜索ノ事

第百四十九條

第二百四十一號　國ノ海陸軍人ニ對スル令狀

第百五十條

第二百四十二號　被告人監禁

第百五十一條

第二百四十三號　令狀ノ執行及ヒ執行ナキ事

第百五十二條

第二百四十四號　令狀ノ目的タル被告人既ニ拘留セラレタル場合

第百五十三條

第二百四十五號　被告人ト交通スル事（コンミュニケーション）

第百五十四條

第二百四十六號　拘留狀及ヒ勾引狀ノ差免シ

第百五十五條

第二百四十七號　被告人ノ新タナル保障（ガランター）、二箇刑典ノ備置（コンミュニカシヨン）

第百三十三條

〔第二百二十三號〕　佛蘭西語「マンダー」（命令）狀ハ本義「命令、委託」（ラルドル、コンミッション）ナリ故ニ民法上ニハ「名代即チ代理」ヲ「マンダー、プロキュラション」ト云ヒ商法上又ハ公ケノ會計上ニハ「辨濟ノ依賴」ヲ「マンダー、ド、ペイマン」ト云フ○

治罪法ニハ豫審及ヒ訴訟ノ繼續ノ爲メ自己ノ下ニ被告人ヲ出廷セシメ若クハ之ヲ看守スルヿヲ堅固ナラシメントスルノ所爲ヲ指示スルニ而已此字ヲ用ヒタリ

佛蘭西法典ノ如ク我草案ニモ四箇ノ令狀ヲ記シタリ其中ノ二箇ハ(召喚狀及ヒ勾引狀)一時被告人ノ出廷ヲ求メントスルニ用ヒ其他ノ二箇ハ(拘留狀及ヒ收監狀)之ヲ獄舍ニ拘留セントスルニ用フルナリ」

第一ノ令狀即チ召喚狀ハ隨意ニ係リ第二ノ令狀即チ勾引狀ニ至テハ被告人ヲ强制ス○拘留狀、收監狀ハ共ニ被告人ノ自由ヲ剝奪スル者ナリ是ヲ以テ法律ニ於テ其過度ノ使用即チ濫用ノ所爲ニ出テンヿノ豫防ヲ設ケタリ

極論スレハ勾引狀モ亦「自由ヲ剝奪スル」者ナリト謂フ可シ何トナレハ其强制執行ノ外訊問ヲ遂ルカ爲メ四十八時ノ禁錮ヲ來タス可ケレハナリ然レトモ此事タル本ト勾引狀ノ緊要ノ効力ニ非サルカ故ニ此形容(即チ自由ノ剝奪ヲ云フカリヒカシヨン)ハ之ヲ終リノ二箇ノ令狀即チ拘留狀、收監狀ニ附スルヲ以テ尤モ良シトス

(第二百二十四號) 本款及ヒ次款以下豫審判事既ニ訴ヲ受理シタル場合ヲ想像スル者ナリ

犯罪事件重劇ナラサル時又ハ重劇若クハ重罪ニ係ルト雖モ被告人ニ對シ未タ充分確實ナル嫌疑アラサル時ハ豫審判事ハ唯召喚狀而已ヲ發スルニ過キサルヿ有リ

隨意ノ召喚ヲシテ行ヒ易カラシメンカ爲メ豫審判事ハ令狀出發ノ時ト被告人出廷ノ時トノ間ニ二十四時間ヲ置カサル可カラス○故ニ令狀ニハ啻ニ其出發ノ日附而已ヲ記スルニ止マラス之ヲ出發シタル時刻ヲモ亦記セサル可カラス但シ判事翌々日ニ出廷セシメン

トスル時ハ令狀ニ時刻ヲ記スルモ其利益アルヿナシ○凡テ何レノ場合ト雖モ令狀ニハ被告人出廷ス可キノ時日ト場所ハ必ス之ヲ記セサル可カラス

右ノ二十四時間ヲ起算スルハ豫審判事令狀ヲ發シタル時ヨリセスシテ被告人若クハ其住所ニ令狀ヲ交付シタル時ヨリスルヲ以テ最モ理ニ合(カナ)ヘル者トス○然レ𪜈斯ノ如ク起算ヲ爲スハ實際爲シ難キヿトス何トナレハ判事ハ令狀ヲ交付シタルハ慥カニ何時タルヤハ之ヲ知ルヿ能ハス而シテ一方ニ於テハ必ス出廷ノ時刻ヲ定メサルヲ得サレハナリ○故ニ豫審判事ハ其至急ヲ要セサル場合ニ於テハ二日目ニ呼出スノ權能ヲ有セリ

召喚狀ノ故ニ些少嫌疑ノ者ヲシテ困苦(ウエキサシヨン)セシメサルカ爲メ其出頭スルヤ直ニ之ヲ訊問スルヲ要ス○然レ𪜈其日或ハ他ニ訊問ス可キ事件ノ存スルヿ有リ故ニ凡テ被告人ノ出頭シタル日内ニ之ヲ訊問スレハ則チ不可ナルヿナシ

判事訊問ヲ爲スニ定メタル時刻マテハ去來被告人ノ自由ニ任ス但シ判事ニ於テ直ニ勾引狀ニ署名シ以テ之ヲ拘留スルヲ要スト信スル時ハ特別ナリトス

第百三十四條

〔第二百二十五號〕 僅カニ嫌疑アル而已ニテ未タ眞ニ犯人タルヤ否ヤヲ確知セサル者ヲ遠地ヨリ召喚ス可カラス○故ニ法律ハ豫審判事ヲシテ被告人住所ノ地ノ豫審判事ヲ囑託シテ召喚狀ヲ發シ以テ被告人ヲ訊問セシムルノ權能ヲ許セリ

假令ヒ法律ニ明文ナシト雖モ其囑託ヲ受ケタル判事ハ若シ第一ノ令狀其効力ヲ失ヘル時又ハ被告人逃亡ノ恐レ有ル時ハ更ニ勾引狀

ヲ發スルヿヲ得可シ

囑託ヲ受ケタル判事ハ囑託ヲ爲シタル判事ヨリ被告人ニ訊問ス可キ點ノ報知ヲ受ケサル可カラサルハ固ヨリナリ

囑託ヲ受ケタル判事ハ訊問ノ後他ノ令狀即チ勾引狀又ハ拘留狀ヲ出發スルニ就テハ原判事ト同一ノ權ヲ有ス可シ但シ其以後ノ處分ニ就テハ直ニ被告人ヲ原判事ニ送致シテ其措置ニ任ス可シ(看第百三十八條)

何レノ場合ニ於テモ囑託ヲ受ケタル判事ハ自己ノ訊問セル所ノ結果ヲ原判事ニ移ス可シ

又假令ヒ法律ニハ明言セスト雖モ被告人住所ノ地ノ豫審判事ハ囑託ヲ受ル而已ニシテ後ニ記スル所ノ權能即チ事件ノ重劇ナラサル時被告人訊問ノ事ヲ治安判事ニ委ヌルノ權能ナキ者ナリト思考ス可カラス此權能ハ訴ヲ受理セル豫審判事ニ附屬スル者ナリ(第百三十九條)

第百三十五條

(第二百二十六號) 召喚狀ヲ發スルハ屢〻危險ニ涉ルヿ有ルナリ

若シ其レ嫌疑ノ根據確乎タル時ニ方リ召喚狀ヲ發スルハ却テ此被告人ニ報知スルニ其身ニ迫ルノ起訴アル旨ヲ以テスルニ異ナラサルカ故ニ即チ其ヲシテ逃亡セシムルハ殆ント確定セル者ノ如シ是ヲ以テ法律上定ムル所ノ五箇ノ場合ニ於テハ豫審判事ニ許スニ直ニ勾引狀ヲ發スルヿヲ以テセリ

是等各個ノ場合ヲ證明スルハ容易ナル者ナリ

第一ノ場合ハ被告人既ニ判事ノ命令ニ服從セサル時是ナリ此時ニ方テ被告人ハ既ニ前同樣ノ處分ヲ受ルノ權利ヲ失フタル者ナリ又

更ニ召喚狀ヲ發スルモ却テ弄事ニ屬ス可ケレハナリ

第二ノ場合ハ被告人定マリタル住所ナク多分召喚狀ヲ受ケサル可キ時是ナリ此時ニ方テハ假令ヒ召喚狀ヲ發スルモ空シク時間ヲ費ヤスノミニテ遂ニ勾引狀ヲ發スルニ至ラン然ラハ直ニ勾引狀ヲ發シ以テ被告人ヲ探求シ之ヲ判事ノ面前ニ至ラシムルノ優レルニ若ク莫キナリ

第三ノ場合ハ被告人既ニ充分重劇ナル刑ニ處セラレタル者ニシテ又新タニ犯罪ノ嫌疑ヲ受ル時是ナリ此場合ノ嫌疑ハ最モ確カナル者ニシテ且ツ新タニ起訴アリタルニ因リ其者遂ニ逃亡ス可キヤノ推測ヲ下サヽル可カラサレハナリ

第四ノ場合ハ前後ノ景狀ヨリ被告人逃亡ノ恐レヲ生シ又ハ犯罪證據ノ湮滅スルヤノ恐レヲ生スル時是ナリ○此場合ハ即チ判事ノ權ヲ張大ニシ且ツ凡テ眞實ニ制限アル性質ヲ法律ニ列記スルノ煩ヲ省クナリ（レヌルヤウ、リミタナーフ）

第五ノ場合ハ判事ニ於テ被告人其決心シタル事件又ハ未遂ノ事ヲ遂ケテ其罪犯サシテ重劇ナラシムルノ恐レ有ル時是ナリ實ニ判事タル者被告人ヲ訊問シタル後尚ホ且ツ同上ノ恐レヲ懷ク時ハ拘留狀ヲ發スルニ非サレハ慥ニ其目的ヲ遂ルヿヲ得サルナリ

第百三十六條

〔第二百二十七號〕召喚狀ハ被告人ニ宛テ其本人又ハ其住所ニ交付スト雖モ勾引狀ハ之ト異ナリテ拘留、收監ノ二狀ノ如ク公力者又ハ公力者ヲ指揮スル官吏ニ宛テ（官吏ニ「宛ツル」トハ官吏ノ氏名ヲ記スルニ非ス官名ヲ記スルヲ云フ）特別ナル有權者ニ交付スル者トス、特別ナル有權者ハ之ヲ示シテ以テ公力者又ハ公力者ヲ指揮スル官吏ノ助力ヲ請求スルノ權アル人是

ナリ

豫審判事ハ被告人ノ出廷セハ速カニ之ヲ訊問スルヲ要ス遲延シテ四十八時ヲ過クス可カラス○故ニ速カニ訊問ヲ行フヲ得サル場合ニ於テハ裁判所接近ノ拘留場ニ之ヲ留置ス可シ

判事有益ナル果効ヲ得ルヿヲ希望シタル時ハ引續テ二回或ハ數回ノ訊問ヲ爲シテ少シモ妨ケ有ルヿ無シト雖モ四十八時ノ期限ヲ超ユルヲ得ス

第百三十七條

〔第二百二十八號〕本條ニ於テモ亦法律ハ未タ明晰ナル證憑アラサル被告人ニ對シ多少ノ困難アル旅行ノ勞ヲ省キ以テ之カ處分ノ法ヲ定メタリ

若シ被告人「勾引狀ヲ出發ノ時ニ」方リ之ヲ發シタル判事ノ管轄地内ニ在ラサル時ハ是レ其令狀ノ出發ヲ知リタルニ由リ他轄ニ出テタルニ非サルヿハ明白ナルカ故ニ此令狀ヲ見テ以テ逃亡セル者ト謂フ可カラス

是ヲ以テ此被告人ハ其所在ノ地ノ豫審判事ノ面前ニ引致セラレンヿヲ求ムルヲ得可シ○此豫審判事ハ囑託ヲ受ケサルヲ以テ未タ其被告事件ノ何タルヲ知ルニ由ナシ隨テ被告人ヲ訊問スルヿヲ得スト雖モ唯被告人ハ某氏ナリトノ事ハ之ヲ確然タラシメサルヲ得ス故ニ被告人ノ求メ有ルヲ原由トシテ之ニ拘留狀ヲ發シ並ニ速カニ其旨ヲ原判事ニ通知シ以テ被告人ヲ訊問ス可キヤ否ヤノ事ト被告人ヲ該判事ニ引致ス可キヤ否ヤノ事トヲ問フ可シ

法律上拘留狀ヲ發シタル判事ハ次條ニ從ヒ訊問ヲ爲シタル後ニ非サレハ假釋ヲ行ヒ令狀ノ執行ヲ停止スルヿヲ許サス斯ク訊問ノ後

ニ非サレハ令狀執行ノ停止ヲ許サヽルハ蓋シ該判事ニ於テハ原判事ノ爲シタル處置ヲ弱ムルノ權ナキカ故ナリ又假釋ヲ行ヒ以テ執行ヲ停止セル拘留狀ハ被告人出頭ノ信憑保障ニ就キ却テ被告人ヲ强制スル勾引狀ノ下ニ出ツ可シ是レ假釋ヲ行フヿヲ許サヽル所以ナリ

本條ニ許ス所ノ處分ハ「被告人之ヲ請求スル」ニ非サレハ用フルヿナシ然ルニ被告人此權利アルヲ知ラス又公力者モ此處分ニ服從ス可キ者タルヲ知ラサルヿ往々之レ有リ○是ヲ以テ實際上勾引狀執行ノ任アル者勾引狀ヲ渡シタル判事ノ管轄地外ニ於テ被告人ヲ見出シタル時ハ右ニ記スル所ノ權利ノ被告人ニ在ルヿヲ豫知シ之ニ服從スルノ任アル而已ナラス尙ホ其權利アル旨ヲ被告人ニ告知セサル可カラス○勾引狀ノ裏面ニ第百三十七條ノ文面ヲ印刷スルヿモ

可ナリ

第百三十八條

〔第二百二十九號〕原豫審判事前條ノ通知ヲ受ケタル時ハ被告人所在ノ地ノ豫審判事ニ囑託ヲ爲スカ又ハ其嘗テ發シタル勾引狀ニ依リ被告人ヲ自己ノ方ヘ送ラシム可シ

囑託ノ事既ニ成ラハ之ヲ受ケタル判事ハ自カラ原豫審判事ト同樣ノ權ヲ有ス故ニ被告人ニ對シ有罪ノ證憑毫モ之レ無シト思料セハ則チ之ニ釋放ノ言渡ヲ爲シ若シ之ニ反シテ有無ノ證アリト思料セハ己レカ發シタル拘留狀ヲ保持シテ之ヲ原判事ニ送ル可シ又此判事ハ原判事ノ發シタル勾引狀ヲ單純ニ執行ス可キ旨ヲ言渡スヿヲモ得ルナリ

何レノ場合ニ於テモ被告人所在ノ地ノ豫審判事ハ己レカ必要ト信

シタル處分ハ之ヲ原判事ニ通知シ併セテ已レカ訊問シタル調書ノ謄本ヲ送付ス可シ

囑託ヲ受ケタル判事釋放ノ言渡ヲ爲スニ附テハ或ハ保證ヲ爲サシメ或ハ之ヲ爲サシメサルヿヲ得可シ○斯ク保證ヲ爲サシムルト爲サシメサルトノ區別即チ假釋ニ關スル區別ハ後文(第五款第二百三十條以下)ニ之ヲ述フ

固ヨリ豫審中假釋ヲ爲スニハ訴訟ノ繼續ニ附キ被告人召喚セラルル時之ニ應シ出頭スルヿヲ擔保スル保證ナクンハ有ル可カラス○凡テ通常ノ場合ニ於テハ假釋ハ充分重キ罪責アリト想像スル所ノ拘留狀又ハ收監狀出發ノ後ニ非サレハ之レ有ルヿナシ○然ルニ本條ノ場合ニ於テハ拘留狀ハ罪責ニ基テ之ヲ發シタルニ非ス即チ被告人已レカ住所ヨリ遠隔シタル土地ニ於テ勾引狀ノ執行ヲ受ケンヨリハ寧ロ此拘留狀ノ執行ヲ受ルヲ便レリト思料シタルニ出ツル情願ニ由ルナリ

〔第二百三十號〕 此例外ノ條例ニ於テハ日本草案ハ佛蘭西法典ト全ク異ナレリ佛蘭西治罪法第百條ニ於テモ亦同シク被告人ニ恩惠(ファブール)ヲ與フト雖モ其場合全ク相反セリ即チ被告人勾引狀ニ服從セスシテ其所在ノ地ノ判事ノ面前ニ引致セラレンヿヲ求ムルヲ得可キ場合ハ令狀出發ヨリ二日(アッブレイー、ドウジコール)ノ後原判事所在ノ地ヨリ五「ミリヤメートル」(日本ノ里數ニ算スレハ殆ント十二里ナリ)以外ノ地ニ在ル者是ナリ此二日ノ光陰ハ此ヲ以テ被告人カ旅行ノ勞ヲ避ケントスルノ望ミヲ證明スルニ非スシテ却テ其望ヲ斥ケルノ理由トナルナリ○(斯ノ如キハ是レ)被告人ヲシテ其令狀ノ出發ヲ知リ而シテ其執行ヲ避ケシムル者ト謂フ可シ○日本草案ニ於テハ之ニ反シ決シテ斯ル疑

國ノ生スルヿナシ即チ法律ハ被告人ノ遠キニ在ルト令狀出發ノ時ト同時ナルヲ要ストセリ○佛蘭西法典ニ記スル二日後ハ宜シク改テ二日前ト爲スヘキナリ

又佛蘭西法典ハ其第百條ニ他ノ條例ヲ揭ケタリ即チ被告人若シ重罪又ハ輕罪ノ犯人タリト推測セラル可キ物件ヲ携帶シタル時ハ右ニ記スル所ノ利益ヲ失ハシメタル是ナリ此場合ニ於テハ常ニ勾引狀ヲ執行セリ

日本草案ハ此條例ヲ許容セス何トナレハ斯ノ如キ條例ハ間〻事理ニ明カナラサル者アル公力者ニ委ヌルニ此重劇ナル景狀ノ査定ヲ以テスルノ不都合アル可ケレハナリ斯ル査定ハ被告人所在ノ地ノ豫審判事ニ委ヌルヲ以テ最モ宜シキヲ得タル者ノ如シ判事ハ則チ被告人ヲ拘留シ同時ニ其者ノ所持セシ物件ヲモ原判事ニ通知スル者ナリ

第百三十九條

〔第二百三十一號〕本條ニモ亦召喚狀若クハ勾引狀ノ執行ニ附キ寛大ノ處置ヲ揭ケタリ

被告人躬疾病ニ罹ルカ若クハ血屬近親ノ重病ニ因テ側ニ侍セサルヲ得サルカ又若クハ一般ノ利益ニ重劇ナル損害ヲ加フルニ非サレハ數時一日モ己レカ不在ヲ許サル所ノ公務ニ因ル等凡テ是等ノ事柄ニテ判事ノ命ニ應スル能ハサルヿ有ル可シ例之ハ、夫ノ鐵道、電信、燈臺、郵便等ニ從事スルカ如キ輙チ直ニ代人ヲ得ル能ハサル事務ニ服スル者是ナリ

又之ヲ極言スレハ私務ト雖モ亦公務ニ關スル時ト同視ス可キ者アリ例之ハ海運會社ノ船長ノ發日ヲ以テ出帆セサルヲ得サル時公益

工事ヲ私ニ起セル大事業ノ主長ノ寸時モ其地ヲ離ル可カラサル景狀ニ在ル時ノ如キ即チ是ナリ

是等ノ場合ニ於テハ豫審判事訊問ヲ爲スカ爲メニ書記立會ニテ被告人ノ居住ニ親臨スルヲ得可シ

然レトモ判事ハ其管區外ニ出張スルヿナシ故ニ若シ被告人ノ住所右判事ノ管區外ニ在ル時ハ其住所所在ノ地ノ豫審判事ニ囑託ヲ爲ス可シ若シ其事件重劇ナラサル時ハ右住所所在ノ地ノ治安判事ニ囑託ヲ爲ス可シ

斯ク犯罪事件ノ重劇ナラサル者ト見ヘタル時ハ豫審判事ノ管區內ト雖モ亦治安判事ニ囑託スルヲ得可シ(第百八十三條)

固ヨリ本條ニ記スルカ如ク被告人差支ノ場合ニ於テハ唯其旨ヲ申立ルノミヲ以テ足レリトセス必ス之ヲ證明セサルヲ得サルヤ明カナリ○故ニ召喚狀ヲ受ケタル場合ニ於テ疾病ニ罹レル時ハ醫師ノ證書(診斷書ヲ云フ)若クハ比隣人ノ證據ヲ以テ之カ證明ヲ爲ス可ク公務若クハ私務ニ因リ召喚ニ應シ難キ時ハ所屬主長ノ申立ヲ用フ可シ若シ被告人即時ニ證據ヲ供スルヿ能ハサル場合ニ於テハ豫審判事唯其者ノ申立書而已ニテ可トスルヿモ有ル可シ

勾引狀ヲ發シタル場合ニ於テハ該狀執行ノ任ヲ受ケタル者自カラ被告人ノ差支ノ正當ナルヿヲ證明シ其旨ヲ判事ニ具申スルヿヲ得」

第百四十條

〔第二百三十二號〕拘留狀ハ元ト是レ多少ノ時間自由ヲ剝奪スル者ナルニ由テ法律ニ於テハ判事親カラ最初ノ訊問ヲ爲シ以テ被告人ノ責ニ歸ス可キ重劇ナル罪證ヲ查定セサル前ニハ之ヲ發スルヲ許サヽルヲ以テ原則ト爲セリ

若シ其訊問ハ囑託ヲ受ケタル判事之ヲ行ヒシ時ハ原判事其訊問アリタルヿヲ認知シタル後ニ非サレハ拘留狀ヲ發スルヲ得ス

法律ハ此各人ノ自由ヲ保護スル所ノ原則ニ二箇ノ例外ヲ設ケタリ」

其一　第百三十七條ニ豫定シタル場合即チ被告人困難苦勞ナル旅行ヲ避ルカ爲メ自己ノ住所ノ地ニ於テ拘留狀ヲ受ルヿヲ自カラ撰擇シタル時是ナリ

其二　被告人ノ逃亡シタル場合即チ眞ニ逃亡セル時是ナリ若シ唯逃亡ノ恐レ有ルニ過キサル時ハ則チ勾引狀ヲ發スルニ止マル者トス(第百三十五條)

譯者曰ク本條ノ正條ニハ三箇ノ例外即チ第百三十七條ノ場合、現行犯ノ場合及ヒ被告人逃亡ノ場合ヲ掲ケ而シテ註解ニハ唯其二箇ヲ記載セリ、起草者ボアソナード氏ニ就テ之ヲ質スニ左ノ言ヲ以テ答ヘラル即チ玆ニ之ヲ記シテ以テ疏ト爲ス

(答言)　正條ニハ豫審判事カ被告人ヲ訊問スル前ニ拘留狀ヲ發スルヿヲ得ル三箇例外ノ場合ヲ記シ而シテ玆ニ唯其二箇ノミヲ掲ケタルハ則チ是レ不注意ノ致ス所ナリ

初メ正條ニ唯此二箇ノ例外ノ場合ノミヲ記載シタルカ故ニ隨テ註解ニモ亦此二箇ノ場合ノミヲ掲ケ以テ之ヲ編輯セリ然ルニ後チ第二百二十三條ニ據リ現行犯ノ場合モ亦等シク例外ナルヿヲ示スノ緊要タルヲ認メ即チ之ヲ正條ニ記入セルノ際併テ註解ニモ亦斯ノ如ク完全ナラシム可キヲ偶之ヲ失シタルナリ○左レトモ現行犯ノ場合ノ例外ナルヿハ固ヨリ當然ノ事ニシテ更ニ證明ヲ用フルニ及ハサル程ノヿナリ

法律ノ遵奉ヲ堅固ナラシムル爲メ訊問濟ノ旨又ハ被告人逃亡ノ旨ヲ拘留狀ニ記載スルヲ以テ良トス(附言參觀)○既ニ第百三十七條ニハ豫審判事拘留狀ヲ發ス可キヿヲ豫定シタルニ於テハ則チ

拘留狀發付ニ附テノ例外ノ原由ヲ指示スルヿヲ以テ該判事ノ義務ト爲セリ

〔附言〕草案ニハ此記載ノヿヲ言ハサレトモ更ニ正條（既ニ修正ヲ經テ實施スル所ノ治罪法ノ正條ヲ云フ）ニ加フルモ可ナリ又官省論達（シルキユレール、ミニステリエール）ヲ以テ之ヲ定ムルモ可ナリ

拘留狀ヲ發スルハ必ス被告事件ノ性質或ハ禁錮ノ刑或ハ重罪ノ刑ニ當ル者タルヲ要ス○此要件ハ被告人逃亡ノ場合ニ於テモ亦遵守セラルヽヲ要ス然レトモ若シ之ニ反スル場合即チ第百三十七條ノ特別場合ニ於テハ之ヲ遵守スルニ及ハス何トナレハ此場合ニ於テハ被告人ノ願ニ據リ勾引狀ニ代ルニ拘留狀ヲ以テスレハナリ

然レトモ豫審判事ハ被告事件ノ性質自由剝奪ノ刑ニ當ル者ナリト思料スルモ之ヲ拘留狀ニ記載スルヲ要セス○既ニ此令狀ヲ發スレハ則チ判事ハ其事件ノ性質ヲ量定セシ者タルヲ證ス可シ（記セスシテ知ルヽノ意）○若シ其レ之ヲ證明スルニ禁錮ノ刑ニ當ル可カラサル者ニ拘留狀ヲ發シタル時ハ則チ判事ノ方ニ越權（エキセー、ド、プーボアール）アル可シ故ニ被告人ノ方ニハ己レノ利益ノ爲メニ直ニ故障ヲ述フルノ權利アル者トス（看第二百五十八條）

第百四十一條

〔第二百三十三號〕拘留狀出發ニ就テハ檢察官ノ特別ナル論結ヲ聞カサルノミナラス又其令狀中ニ犯罪事件並ニ法律ノ正條ヲ揭ケサルヲ以テ被告人ニ對シ保障ノ効收監狀ヨリ尠ナキ者タリ此事ハ以下二條ニ於テ之ヲ見ル可シ

是ヲ以テ拘留狀ヲ收監狀ニ代ユルニハ其時間ヲ無限トナス可カラ

ス○故ニ法律上拘留狀ノ期限ヲ十日ニ制限シ之ヲ原則トセリ○此期限ヲ過キ豫審判事ニ於テ收監狀ヲ發スルニ被告事件ノ性質又ハ其罪證未タ以テ充分ナラスト思惟スル時ハ被告人ヲ假釋セサル可カラス

此假釋ハ既ニ前ニモ記載シ又第二百三十條以下ニモ敷衍スル所ノ保證ノ事ニ或ハ服從シ或ハ服從セサル「有ル可シ

被告人保證ヲ爲スニ及ハサル時ト雖モ呼出アラハ則チ必ス出頭ス可キノ約束書ヲ書記局ニ差出ス可シ○若シ此約束ヲ爲サヽル時ハ拘留狀ノ執行ハ更ニ十日間ノ延期タル可シ

アンガーシュマン、エグリイー

十日間ノ延期ハ政府目代ヨリ之ヲ求ムル「ヲ得可シ蓋シ最初十日ノ期限ニテハ未タ以テ其搜索ヲ爲スニ充分ナラスト爲ス時ニ限レリ此場合ニ於テハ豫審判事ハ政府目代ノ求メニ應セサル可カラス而シテ此猶豫期限ノ過キタル時ハ速ニ收監狀ヲ發スルカ若クハ假釋ヲ言渡ス可シ

被告人保證ヲ爲スヿヲ拒絶シ又ハ保證ヲ爲スモ呼出ニ應シ出頭セサル等ノ故ヲ以テ拘留狀ノ期限ヲ延フルヲ許サス直ニ收監狀ヲ發ス可シ何トナレハ更ニ十日間ノ拘留期限ヲ經過シタル時ハ豫審判事ニ於テ充分確乎タル證憑ヲ得可ク假令ヒ之ヲ得サルモ亦既ニ犯罪事件ノ性質ヲ確定シ及ヒ收監狀ノ法式ト要件トヲ盡クス爲メニ充分ナル時間ヲ有スル者ト推測セラルレハナリ

第百四十二條及第百四十三條

〔第二百三十四號及第二百三十五號〕自由剝奪ノ點ヨリ見レハ收監狀ハ拘留狀ヨリ一層其期ノ永キ者ニテ又一層重劇ナル者ナリ即チ法律上之カ限度ヲ定ムル「ナキナリ○是ヲ以テ收監狀ヲシテ新タ

ナル要件（以下ニ記スル所ニ從ハシメサルヲ得サルナリノ要件ヲ云フ）

收監狀ヲ發スルニハ拘留狀ノ如ク豫メ被告人ノ訊問ヲ爲シ且ツ自由ヲ剝奪ス可キ刑ニ該ル所ノ充分重キ罪證ヲ得タルヿヲ要スルヤ固ヨリ論ヲ俟タス○加之收監狀ニハ左ノ要件ヲ記載ス可シ、第一、犯罪事件及ヒ共犯罪トナル可キ主タル景狀、第二、其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正文（トノール）、第三、該令狀ニ關シテ檢察官其論結ヲ與ヘタル事

第一、第二ノ要件ノ目的及ヒ其効力タルヤ總テ專恣拘留ノ嫌疑ヲ避ケンカ爲メト被告人ニ抗辯ヲ許ストニ在リ第三ノ要件ハ社會ノ爲メノ擔保ト又被告人ノ爲メノ擔保トヲ兼ヌル者ナリ○他又豫審判事收監狀ヲ發スルニハ必シモ檢察官ノ論結ヲ聞カサル可カラス然レトモ亦必ス其論結ト同樣（コンフヲルム）ノ意見ヲ以テスルニ非サレハ判事該令狀ヲ發スルヲ得サル者ト信ス可カラス即チ茲ニハ他ノ事項ニ於ケル

カ如ク原告人ノ請求スル所ニ反シテ裁斷ヲ下スヲ得可シ唯檢察官ノ意見ヲ聽キ以テ事實ヲ審明スルヲ要スル耳○豫審判事必ス政府目代ノ意見ニ從ハサルヲ得サル塲合ハ寔ニ僅少ニシテ被告人ノ權利ニ關セサル手續キノ時ニ限ル第百七十三條ニ就テ其例ヲ見ル可シ

第一、第二ノ要件具備シタル證據ハ則チ其令狀ノ箇條上自カラ判然タリ第三ノ要件即チ檢察官ノ論結ヲ付與シタル事ハ之ヲ令狀ニ明瞭ニ記載セサル可カラス但シ其如何ナル意ニ出テタルヤハ之ヲ記スルニ及ハス

是ヲ以テ收監狀ハ殆ント「證憑ノ裁判」ノ性質ヲ提出スル者ト謂フ可シ又該狀ハ故障ヲ申立ルノ目的トスルヲ得可シ即チ第四章（第二百五十八條第二項）ニ至テ之ヲ說ク可シ

命令

第百四十四條

〔第二百三十六號〕本條ハ凡テノ令狀ニ普通ノ者ニシテ唯法式ヲ定ムルニ過サレハ之カ義ヲ演フルヲ要セス○此法式ノ有益ナル亦敢テ辯ヲ俟タス即チ第一ハ被告人ノ氏名等ヲ成ル可ク明確ニ指示スルハ是レ或ハ被告人ニ非サル者ヲ捕獲シ或ハ被告人ヲシテ天網ヲ免カレシムルノ錯誤等凡テ其身上ノ錯誤ヲ避ケンカ爲メナリ、第二ハ諸般ノ公證書ト同シク亦明確ノ日附ヲ揭ルナリ、第三ハ該令狀出所ノ確カナルカ爲メ之ニ干與スル所ノ兩官吏即チ判事ト書記トノ捺印手署ヲ表示スルナリ(第二十七條ヲ比較セヨ)

被告人ノ氏名ヲ了知スルニ難キヿ有リ然レトモ其了知セラレサルヿヲ以テ令狀出發ノ妨害トナラサルヿヲ注目ス可シ但シ召喚狀ハ此限ニ在ラス○召喚狀ハ之ヲ本人ニ交付スルヲ得サル時ハ(第百四十六條)必ス其住所ニ送達ス可キ者ナルニ因リ明カニ被告人ノ誰タルヲ指示スルヲ要ス

其他三箇ノ令狀ハ被告人ノ身體ニ對シテ執行スル爲メ公力者ニ交付スル者ナレハ(第百四十七條)若シ其氏名ノ知レサル時ハ其容貌體格等ヲ指示スルヲ以テ足レリトス○又身上ノ錯誤ヲ避ルカ爲メ事宜ニ依リ被告人ノ氏名ノ外ニ其容貌體格ヲ添附スルハ一層有益ナルヿ有リ

寫眞術ノ發明アリシ以來被告人ノ寫眞ヲ得ル時ハ之ヲ令狀ニ添フヿ間〻アリ被告事件ノ重劇ナル時ニ於テハ殊ニ此方(シカタ)ヲ用フ若シ又被告人ヲ指示スルニ其氏名容貌ヲ以テスルヿ能ハサル時ハ暫ク令狀ノ出發ヲ止メ而シテ引續キ搜索ヲ爲ス可シ然ラサレハ甚タシキ專恣捕獲ノ危險ト遺憾ナル錯誤トヲ來ス可ケレハナリ

第百四十五條

〔第二百三十七號〕法律ハ人身ノ自由ニ付與スルニ數多ノ保障ヲ以テシタルモ若シ之ヲ遵奉セサル者アルニ方テハ嚴正ナル制裁ノ在ルニ非サレハ到底其保障ハ無効ニ歸ス可シ是レ前述ノ要件ニ背テ發シタル拘留狀又ハ收監狀ハ無効トナル所以ナリ

然レ𪜈被告人ハ己レ固有ノ權ヲ以テ其令狀執行ヲ免カレ得ル者ナリト信ス可カラス故ニ被告人ハ先ツ其令狀ニ抵拒スルノ權アリト思料シタル時ハ則チ之ヲ申立テ而シテ先ツ其執行ニ服從ス可シ但シ令狀ヲ示シタル官吏ニ對シテ自カラ犯罪トナル可キ抵抗ヲ爲ス可カラス○斯ク令狀ヲ無効トスルニハ故障ノ申立ヲ爲ス可シ是レ既ニ指示セル方法ニシテ又第二百五十八條第二項ニ說ク所ナリ

又判事ニ對シテ刑法草案第三百十一條及ヒ第三百十二條ニ循ヒ不適法又ハ專恣ノ捕獲監禁ノ罪アリトシテ訴ヲ起スヿヲ得可シ然レ𪜈此訴ヲ爲スニ附テハ判事ノ過失アルヲ以テ足レリトセス尙ホ一般ノ原則ニ循ヒ惡意アルヲ要ス

法律ハ召喚狀ノ無効ノ事ヲ記セス蓋シ該狀ハ被告人ニ之ニ從ハサレハ則チ其從ハサルヲ以テ無効トスルニ足レリトスレハナリ勾引狀ヲ無効トスル事モ亦之ヲ記ルサス蓋シ勾引狀ヨリ生スル所ノ自由剝奪ハ其時間甚タ短フシテ故障ヲ述フルモ決シテ其益アルヿ無ケレハナリ○然レ𪜈法式上無効ノ勾引狀及ヒ召喚狀ヲ以テ期滿免除ヲ中斷スル者ナリト申告セラレシ時ハ亦無効ノ原則ヲ適用ス可キ者トス〔第十五條〕

第百四十六條及第百四十七條

〔第二百三十八號〕召喚狀ノ性質ハ前既ニ屢示セルカ如クナルニ因

リ被告人ニ宛テ之ヲ發スル可シ即チ被告人又ハ其住所ニ之ヲ交付スルヲ要ス故ニ通常ノ送達ト同シク書記局ノ手ヲ以テ交付セラルヽナリ

佛蘭西ニ於テハ召喚狀ヲ被告人ニ宛テ發セスシテ一般ノ方法ニ由リ其他三箇ノ令狀ノ如ク「法」ニ適シテ被告人ヲ呼出スノ任アル凡テノ使吏又ハ凡テノ公力者」ニ宛テ之ヲ發セリ

此方法ハ最モ速カナル者ニ非ス何トナレハ更ニ又判事若クハ政府ノ目代ヨリ特ニ令狀ヲ帶行ス可キ使吏若クハ公力者ヲ指示セサルヲ得サルヲ以テ單一ノ所爲ニ代ルニ重複ノ所爲ヲ以テスル者ナレハナリ

〔第二百三十九號〕 其他三箇ノ令狀ハ必ス公力者ニ宛テ之ヲ發スル者ニシテ公力者ハ之ヲ帶行スルノ人タル事實ノミヲ以テ既ニ之ヲ執行スルノ身分アルニ足レリトス故ニ其令狀ヲ帶行スル者ハ之ヲ示シ以テ其執行ノ爲メニ補助ヲ受ルヿヲ得ルナリ

公力者ニ屬シタル令狀ノ威力ハ敢テ之ヲ發シタル判事ノ管轄地內ヲ以テ制限トセラルヽニ非ス通常裁判權ヨリ出ル處分ト同一ノ力ヲ有ス即チ帝國全部ニ於テ執行セラルヽ者ナリ

判事ノ管轄制限タル該判事ヲシテ其區域外ニ於テ住所ノ臨檢又ハ豫審處分ヲ行フヿヲ得サラシム故ニ判事ノ作リタル書類中其區域內ニ在ラサル地名及ヒ日附ヲ記スルヿヲ得ス然レトモ一旦有効(判事ノ管轄內ニテ爲シタルヲ云フ)ニ爲シタル書類ハ裁判言渡ノ如ク其効力ヲ帝國全部ニ及ホスヿヲ得可シ何トナレハ凡ソ裁判ハ天皇陛下ノ御名ヲ以テスル者ニシテ即チ此書類モ亦自然御名ヲ以テセラルヽカ故ナリ

法律上召喚狀ハ帝國全部ニ執行セラルヽ者ト說カス何トナレハ該

令狀ハ强令ニ出テサルヲ以テ決シテ眞實ニ執行力アル者ト謂フ可カラサレハナリ（エキゼキユトワール）

原則上豫審判事ハ其管轄地內ニ眞ノ住所又ハ假リノ住所アル被告人ニ非サレハ之ヲ召喚スルヲ許サス○其管轄地外ニ住スル被告人ニ就テハ其住所ノ地ノ判事ニ囑託ヲ爲シ以テ之ヲ訊問セシメ又其地ノ書記ヲシテ被告人ニ令狀ヲ送達セシムルノ囑託ヲ爲ス可シ

召喚狀ヲ除クノ外令狀ヲ執行スルニ公力者數人ヲシテ諸方ニ派出セシムルヲ必要トスルヿ屢〻之レ有リ此場合ニ於テハ公力者ハ各〻判事ト書記トノ捺印手署シタル令狀ノ原本ヲ携帶スルヲ要ス

被告人ヲ捕獲スル時ニ方テハ令狀ノ原本ヲ指示ス可シ若シ被告人其謄本ヲ求ムル時ハ則チ之ヲ渡ス可シ

第百四十八條

〔第二百四十號〕若シ公力者ニシテ被告人ノ潛伏シタリト疑ヘル諸般ノ場所ニ於テ家宅搜索ノ權利ヲ有セサル時ハ勾引狀、拘留狀又ハ收監狀ノ執行ハ殆ント常ニ爲シ難キ者トナル可シ○家宅搜索ハ被告人ノ住所ニ限ルヲ得ス何トナレハ被告人ハ四方ニ潛伏スルヲ怠ラサレハナリ

家宅搜索ヲ爲ス時ハ一時各人ニ妨害ヲ來スヿ固ヨリナリト雖モ其妨害ハ決シテ之ヲ重罪、輕罪ノ犯人ヲ不問ニ措クノ公害ニ比較ス可キニ非サルナリ○他又戶長又ハ比隣者二名ノ立會ハ公力者カ住居ノ者ヲ敬重シテ其搜索ヲ爲スノ保障タリ

此妨害ヲ減少センカ爲メ法律ハ夜間ノ家宅搜索ヲ禁スルノミナラス此夜間ナル字義ノ猶ホ曖昧ニ屬センヿヲ恐レ夜間ニ代ユルニ大陽ノ地平線上ニ在ラサルノ時ノ意ヲ以テセリ

家宅捜索ハ非常ノ處置ナルヲ以テ之ヲ行フノ官吏ハ其調書即チ檢證書ヲ作リ戸長又ハ立會證人二名ノ手署捺印ヲ要ス斯ノ如クシテ以テ官吏其本務ヲ盡シタリト謂フ可シ

收監狀ヲ發シタル時ニ於テ家宅捜索ヲ爲スハ勾引狀若クハ拘留狀ヲ發シタル時ニ比スレハ其場合少ナカラン何トナレハ收監狀ヲ發スルハ概子他ノ二令狀ヲ發シタルノ後ニ在ル可ケレハナリ然リトヽ雖モ被告人最初召喚狀ニ因リ隨意ニ出廷シ又ハ勾引狀ニ因リ餘義ナク出廷シ而シテ未タ拘留狀ノ執行ヲ受ケサルカ又ハ假釋ヲ受ケタル時ニ方リ續テ收監狀ヲ受ルノ場合ナシトセス

第百四十九條

〔第二百四十一號〕若シ被告人海陸軍ノ兵卒ナル時ハ召喚狀ノ交付及ヒ其他三令狀ノ執行ニ附キ法律上特別ノ注意ヲ爲スヲ以テ必要トス蓋シ海陸軍ノ兵卒ハ其長官ニ於テ令狀出發ノ事ヲ知リ且ツ故障ノ有無ヲ定メタル後ニ非サレハ假令ヒ暫時タリトモ職役ヲ離ルルヿヲ得サレハナリ

兵卒ニ對シテ召喚狀ヲ發シタル場合ニ於テハ必ス兵卒所屬ノ營所（ポスト）長ノ許可アルヲ要ス而レヒ其營所長ハ完全（アブソリュ）ノ差支アルニ非サレハ敢テ許可ヲ拒ムヿヲ得ス其完全ノ差支トハ例之ハ服役ノ兵卒甚タ少數ニシテ缺員ス可カラサルカ如キ是ナリ

若シ服役中ノ士官召喚狀ヲ受ル時ハ其士官獨リ營所ヲ守衛スルニ非サレハ自カラ令狀ニ應スルヲ得ルヤ否ヤヲ量定ス可シ若シ彼レカ職務上其召喚狀ヲ受ケタルヿヲ長官ニ上申セシ時ハ書記局ノ使吏ハ別ニ令狀ヲ此長官ニ示スニ及ハス

若シ之ニ反シテ其他ノ三令狀ノ一ヲ出發スル時ハ被告人ハ兵卒ナ

ルト士官ナルト又其服役中ト服役外トヲ問ハス其隊長若クハ要塞シエーフ、ザ、コール コンマンダン、ノ司令官ニ之ヲ示シ以テ被告人ヲシテ本所ヲ離レシムルノ請求及ヒ此請求ノ性質ト理由トヲ告知ス可シ

右ノ場合ニ於テハ兩官廳ノ管轄爭ヒ無シトセス何トナレハ軍人ノ重罪又ハ輕罪ヲ犯シタル時ハ軍事法廳ニ於テ其管轄ナリト主張スルヲ得可シ故ニ長官ハ令狀ノ執行ヲ許可シ又ハ之ヲ拒絶スルヲ得

○然レトモ其令狀ノ執行ヲ拒絶スル時ハ先ツ被告人ヲ拘留、囚禁シ其逃亡ヲ防キ然ル後ヲ速カニ軍事法廳ニ其旨ヲ訴フ可シ

軍人ニ關スル法典中往々通常裁判所ニ於テ軍人ヲ裁判スルヲ管轄スルヿヲ記シタリ殊ニ軍人ノ軍人タラサル被告人ノ從犯ナル場合是ナリ

本條ノ區別ハ陸軍ノ爲メニ文ヲ立タリト雖モ名稱ヲ變更スレハ陸軍何々官陸軍何々兵ト言ハスシテ海軍何々官何々兵ト記スルヲ言フ海軍ニモ適用スルヿ明カナリ

第百五十條

〔第二百四十二號〕 最初ノ令狀ニ據リ被告人隨意ニ出廷シ又ハ勾引狀ニ據リ强テ出廷セシメタル後其事件確實ニシテ證憑モ亦充分ナルヲ以テ拘留狀又ハ收監狀ヲ發スル時ハ被告人ハ其令狀ニ示シタル獄舍ニ引致セラル可シ

然レトモ其時刻已ニ晩ク若クハ現ニ送致ノ方法甚タ困難ナルカ或ハ其他ノ原由ニ因リ令狀ヲ執行シ得サル時ハ被告人ヲ最近ノ監獄ニ監禁スルモ亦其効アリ

監獄ノ看守人ハ何レノ場合ニ於テモ令狀ヲ檢閲シタル上ニテ被告人ヲ受取ル可シ假令ヒ法律ニ明文ナシト雖モ看守人ハ書類ノ正當ナルヤ否ヤノ點ニ疑ヲ懷ク時ハ令狀ノ謄本ヲ要ムルヿヲ得可シ何

トナレハ看守人ハ自己ノ責任ヲ全フスルノ權利アレハナリ

又看守人ハ令狀執行人ノ責任ヲ全フスルカ爲メ被告人ヲ受取リタル證書ヲ渡ス可シ

第百五十一條

〔第二百四十三號〕令狀ヲ執行シタル時ハ之ヲ執行シタル者曾テ己レニ下付セラレタル正本ニ其旨ヲ明記シ然ル後ヲ之ヲ裁判所ノ書記局ニ交付ス可シ

若シ令狀ノ執行アラサル時ハ其旨及ヒ其不執行ノ原由ヲ明記ス可シ○原由トハ搜索セシ場所ニ被告人ノ在ラサル事及ヒ家宅搜索ヲ爲セシモ其効ナカリシ等ヲ謂フ

令狀ヲ書記局ニ納メタル執行人ヲ解任スルカ爲メ書記ハ其請取リタル證書ヲ渡ス可シ

第百五十二條

〔第二百四十四號〕被告人既ニ拘留狀ニ據リ拘留ヲ受ケタルノ後收監狀ヲ發スル場合ニ於テハ其令狀ヲ公力者ニ交付スルヲ要セス書記ヨリ監獄ニ於テ之ヲ被告人ニ渡ス可シ

之ニ反シテ被告人ヲ訊問シタル後直ニ拘留狀ヲ以テ拘留ス可キ時ハ被告人ヲ監獄ニ引致スルカ爲メ猶ホ公力者ニ令狀ヲ交付ス可シ

何トナレハ此場合ニ於テハ抵抗アルヿ無シトセサレハナリ

第百五十三條

〔第二百四十五號〕被告人ヲシテ凡テ外人ト通接スルヲ禁スルノ理由如何ハ之ヲ後款ニ說ク可シト雖モ斯ノ如キ一時非常ノ禁ヲ行ハサル時若クハ之レ有ルモ一旦其禁ヲ解キタル時ハ被告人其血屬親又ハ朋友ト接見スルヲ得可シ況ンヤ其既ニ代言人ヲ撰ヒタル時之

ト接見スルヲ得ルヤ言ヲ俟タス被告人自カラ其代言人ヲ撰ヒ置ク
コトハ蓋シ豫審中ハ法廳ヨリ之ヲ附セサルニ由ルナリ
然レトモ斯ク接見ヲ許サルヽハ何レノ日何レノ時ニ於テモ然リト云
フニ非ス即チ獄舍ノ内規ニ循フヲ要スルナリ○接見ヲ爲スニハ監
獄所屬ノ官吏之ニ立會フヲ可シ則チ接見者ヨリ逃走ニ便ナル物件ヲ
被告人ニ交付シ若クハ法廳ノ搜索ヲ誤ラシムルノ補助ヲ付與スル
コト無カラシムルノ監督ナリ○該官吏ハ被告人ト接見者トノ言語ヲ
一々聽クヲ要セス然レトモ接見者ト被告人ト充分座席ヲ隔テ且ツ高
聲ニ非サレハ談話スルコトヲ得サラシムル爲メ獄舍内ニ應接所(パルロワール)ヲ設
ルヲ以テ良シトス○斯ノ如クスルハ是レ秘密ノコト無カラシムルノ方
法ナリ則チ被告人及ヒ其血族親等互ニ面談相慰ムルノ禁ヲ受ルコ
モ無ク又性質上法廳ヲ誤ラシムルノ交通ヲ容易ク行フコトヲ得サル

ナリ
豫審ノ害トナルコトヲ得可キ書翰、書籍或ハ書類ヲ被告人ニ通セシム
ルハ危險ナリト謂フ可シ故ニ是等ノ物件ハ先ツ豫審判事ニ差出ス
ヲ要ス判事ハ之ヲ留メ置キ又ハ被告人ニ交付スルヲ禁スルコトヲ得」
衣食藥餌又ハ被告人ノ無聊ヲ慰スルノ物件ハ監獄長ノ檢査ヲ經テ
之ヲ被告人ニ交付スルヲ許ス
若シ被告人ニ物件ヲ交付スルノコトニ就キ異議アル時ハ其決ハ豫審
判事ニ委ヌ可シ監獄長ニ委ヌ可カラス

第百五十四條

〔第二百四十六號〕既ニ記載セルカ如ク拘留狀又ハ收監狀ノ出發ハ
其犯罪ノ自由剝奪ノ刑ニ當ル可キ者ト見ヘタル時ニ限レリ然レトモ
判事豫審ノ繼續ニ因リ其罪重劇ナラス唯罰金ノミニ止マル可シト

命令

認メ又ハ推測スルヿ有ル可シ斯ノ如キ場合ニ於テハ豫審判事ハ速カニ豫審終結ノ言渡ヲ爲シ併セテ管轄判事ニ之ヲ送付シ因テ以テ己レカ曾テ發シタル所ノ拘留狀若クハ收監狀ヲ「差免ス」ハ是レ自然然ラサルヲ得サルヿトス

然レトモ豫審判事ハ右ノ被告人若クハ他ノ被告人又ハ被告人ニ非サル者ニ就キ尙ホ且ツ疑團ヲ解カント欲スルヿ有ル可シ此場合ニ於テハ豫審ヲ繼續スト雖モ既ニ不當ナリト思惟シタル未決拘留ヲ遷延セシム可カラス故ニ唯〻令狀ノ差免ルシヲ命ス可シ而シテ差免ルシヲ爲スニハ別ニ保證ヲ要スルヿナク又呼出ニ應シ出廷ス可キノ盟約ヲ被告人ニ爲サシムルヿナシ何トナレハ罰金ノミノ言渡ヲ受ク可キ犯罪ニハ被告人闕席（デフチー）スルノ權アレハナリ

此單純ニ自由ヲ與フル事（令狀ノ差免シト）後ヲ第五款ニ（第二百三十條以下）

說ク所ノ假釋（リベルテイー、プロビゾアール）トヲ混同ス可カラス假釋ハ則チ必ス保證ヲ立ツルヲ要シ且ツ被告人ヲシテ何時ニテモ呼出ニ應シ出廷スルノ盟約ヲ爲サシムル者ナリ○其他此二箇ノ釋放ヲ區別スル最モ著シキ者アリ即チ單純ノ自由ヲ附スルハ檢察官ノ請求ニ依リ若クハ判事ノ職權ヲ以テ之ヲ言渡スヿヲ得ルモ假釋ニ至テハ被告人ノ請願ニ依ルニ非サレハ之ヲ言渡スヿヲ得サル是ナリ

然レトモ此二箇ノ釋放ニ通用スル一ノ要件アリ收監狀ニ就テハ檢察官ノ論結ヲ聽クヿ是ナリ收監狀ハ之ヲ差免フ時ニ當テモ亦必ス檢察官ノ論結ヲ聽クヿ猶ホ之ヲ發スル時ニ於ケルカコトシ○檢察官ノ論結ハ論結ノ差免ルシヲ肯セサルヿヲ得ルハ固ヨリ言ヲ俟タスト雖モ其レカ爲メ判事ノ權利減少セラルヽヿナシ

第百五十五條

命令

〔第二百四十七號〕本條ノ條例ハ被告人辯護ノ爲メ最モ有益ナル者ナリ而モ佛蘭西ノ法ハ之ヲ缺如ス

被告人一旦自由ヲ失ヒタル以上ハ之カ爲メ辯護ヲ盡スノ方法ヲ思考スルノ權アリ又其暇アリ(故ニ之カ爲メニ法典ヲ備フルヲ要ス)然レ𪜈被告人若シ自カラ豫審及ヒ訴訟ノ繼續ニ關シ法律ノ條例ヲ熟知スルヿナクハ此權利モ遂ニ水泡ニ屬シ決シテ其効ナカル可シ○又凡テ被告人ハ豫審ノ爲メ辯護人ヲシテ公廷ニ出テシメンヿヲ請求スルヲ得ス

他又法律ニ於テ社會ノ爲メノ保障ヨリモ寧ロ被告人ノ保障トナル基礎ト法式ノ要件ヲ定メ以テ凡テノ令狀及ヒ一切ノ訴訟手續ヲ之ニ則トラシメ幷ニ各種ノ所爲ニ就キ遂次上訴ノ路ヲ開キタリト雖モ未タ之ヲ以テ充分ナリトス可カラス即チ被告人ヲシテ有利ノ時間内ニ是等ノ法式及ヒ要件ノ規則ニ違フタルヿヲ訴フルカ爲メ此法式要件ハ如何ナル者ナルヤヲ知ラシムルヲ要ス且ツ事實ニ於ケルモ又法律ニ於ケルモ辯護ノ方法ハ豫メ之ヲ準備セサル可カラサルナリ

右ノ目的ヲ以テ日本法律ハ被告人ヲ監禁シタルノ後ヲ直ニ刑法ト治罪法ト各〻一部ヲ被告人ニ貸與スルヿヲ命シタリ是レ一箇ノ新制ニシテ亦寛大ナル者ト謂フ可シ

第二款　密室監禁（ミーズ、ヂー、スクレイー）

密室監禁

第百五十六條　豫審判事ハ豫審中何時ニテモ事實發見ノ爲メ必要ナリト思フ時若シクハ其職權（ドンヒース）ヲ以テ若シクハ政府目代ノ論結ヲ以テ拘留狀又ハ收監狀ヲ受ケタル被告人ヲ密室ニ監禁スルヿヲ言渡スヲ得可シ

何レノ場合ニ於テモ其言渡ハ直ニ政府ノ目代ニ通知ス可シ(治、第百四十三條○草、零○佛治、第六百十三條)

密室監禁ノ効力

第百五十七條　密室監禁ハ獨居セシム(イソールマン)又人ト交通シ幷ニ書翰、紙類、貨幣及ヒ其他ノ物件ヲ受ケ又ハ送ル(コレスポンダンス、パピエー)ヿヲ禁止ス但シ豫審判事ノ特別ナル書面ノ許可アル時ハ此限ニ在ラス

食物及ヒ藥用其他ノ配慮物等假令ヒ監獄ヨリ供スル者ト雖モ監獄長(ゼレクトール、ド、ラ、エクリイー)ノ指示シタル人ニ依ルニ非サレハ之ヲ被告人ニ付與スルヿヲ得ス(治、ブリゾン)

第百四十四條○草、第百五十三條)

密室監禁ノ期限

第百五十八條　密室監禁ハ引續キ十日以上ニ至ルヲ得ス但シ十日毎ニ更改スルノ命令アル時ハ此限ニ在ラス(ルヌーブレイー)

保障

更改ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ裁判長ニ其理由ヲ付シタル具申ヲ爲ス可シ(ラッポール)

豫審判事ハ各十日ノ期内ニ少ナクモ二度被告人ヲ見且ツ訊問ヲ爲スヲ要ス而シテ以下ニ規定シタル如ク通常ノ法式ニ據リ訊問ノ調書ヲ作ル可シ(治、第百四十五條○草、第百六十六條以下○佛治、第六百十三條)

差免

第百五十九條　密室監禁ハ特別ノ言渡書ニ因リ又ハ密室監禁ノ言渡書ニ附記シタル言渡書ニ因リ之ヲ解ク可シ(治、零○草、第百五十四條)(ルーヴベー)

要旨

第百五十六條

第二百四十八號　被告人ト外人ト交通スルノ危險○密室監禁ノ有益(コンミュニッケ)

第二百四十九號　何レノ時ニ於テ密室監禁ヲ言渡スヤ

第百五十七條

第二百五十號　密室監禁ノ効力

第百五十八條

第二百五十一號　密室監禁ノ期限、其更改

第二百五十二號　屢次訊問○被告人ノ保障

第百五十九號

第二百五十二號ノ二　差免（メンベルウベー）

第二百五十三號　密室監禁ヲ用ヒス交通ノ特別禁止

第百五十六條

〔第二百四十八號〕拘留セラレタル被告人曾ニ第百五十三條ニ示シタル數箇ノ取締要件ノミニ據テ外人ト交通シ得可キ者トスル時ハ其血族親朋友又ハ共犯人ノ補助ヲ得テ己レノ犯罪ノ證據ヲ消滅シ又ハ無罪トナル可キ僞證ヲ豫備シ或ハ又血屬親朋友等ヨリ裁判所ノ搜索ヲ誤ラシメントスルノ方法ヲ被告人ニ指示教唆スル等大ニ恐ル可キ事件ノ之レ無シトモ定メ難シ、是ヲ以テ法律ハ被告人ヲシテ獨居セシムルヲ許シタリ之ヲ稱シテ被告人ヲ「密室ニ監禁スル」ト云フ

此事ヲ行フハ豫審判事ノ意見ニ據ルニ非サレハ能ハサルヿトス

法律ニ於テハ密室監禁ヲ設ルノ利益ヲ正條ニ示スヿナク唯「事實發見ノ爲メ必要ナリト見ユル時」ナル一語ニ之ヲ包含シ豫審判事ノ所見ニ任セテ之ヲ處分セシム○此事實發見ノ爲メ必要云々ノ語ハ屢〻法律中ニ記スル所ニシテ殊ニ豫審判事若クハ公判判事ニ付與スル訴訟繼續中特別ノ處分權ヲ以テスル時ハ毎ニ必ス此語ヲ用フルナリ

〔第二百四十九號〕凡ソ豫審判事ハ豫審ノ首メニ於テ密室監禁ノ處

分ヲ用フ可シ其後ニ至テ之ヲ用フル時ハ其處分ノ利益ヲ失フ可シ

○然レトモ豫審判事ニ於テ至重ナル利益アリト信シタル時ハ假令ヒ最初ニ監禁ノ處分ヲ怠ルト雖モ更ニ之ヲ用フルヿヲ得可シ例之ハ若シ被告人其血屬親又ハ朋友ニ接見セシ後ニ辯護ノ方法ヲ變更シ又ハ其曾テ爲シタル白狀ヲ引取リタル場合ニ於ケルノ類是ナリ

密室監禁ハ檢察官ノ論結ニ從ヒ又ハ判事ノ職權ヲ以テ之ヲ言渡ス可シ○尤モ檢察官ハ密室監禁ヲ拒絶スルヿ間〻之レ有ル可シ

檢察官ハ己レ密室監禁ヲ請求シタルト否トニ拘ハラス之カ言渡アリタル時ハ其告知ヲ受ク可シ○檢察官斯ク告知ヲ受ケサル可カラサル者ハ常ニ豫審ノ摸樣ト被告人ノ地位トヲ知ルヲ要スレハナリ、

密室監禁ノ言渡シ有リタル時ハ檢察官ハ其時間ヲ減縮セシムルカ爲メ己レカ爲ス所ノ搜索ニ一層ノ迅速ヲ加フルヲ要ス

民事原告人ハ曾ニ密室監禁ノヿヲ請願シ得サルノミナラス其他ノ豫審處分ノ一タモ之ヲ請求スルヲ得ス

然レトモ民事原告人若シ被告人ト斯々ノ人ト交通スルハ危險ナリト思ヒタル時ハ務メテ其旨ヲ豫審判事ニ指示スルヿヲ得而シテ豫審判事之ニ從フ可キ者ト思料スレハ則チ職權ヲ以テ其處分ヲ爲ス可シ

被告人ハ自カラ密室監禁ヲ請願スルヿナシト雖モ裁判ニ全ク關係ナキ人ノ音問ヲ受ルヿハ常ニ之ヲ拒絶スルヲ得ルナリ

第百五十七條

〔第二百五十號〕本條ハ僅々數語ヲ以テ密室監禁ノ効力ヲ記載ス

人ト物件トヲ問ハス凡テ被告人ト交通スルヲ禁止スルヿ之ヲ完全ノ禁止ト謂フ即チ代言人ト雖モ亦交通スルヲ許サス

法律上被告人ノ辯護ノ權ヲ鄭重ニスト雖モ之ヲ以テ搜索ノ障害トナスヿ能ハス

他又眞ノ辯護ノ權利ハ豫審終結ニ據リ被告人ノ摸樣即チ其犯罪人ナルヿ確定セル後ニ非サレハ發生スル者ニ非ス○故ニ此時マテ被告人ノ代言人ト交通スルヿヲ得ルハ是レ恩典ニ出ツル者ナルヲ以テ判事事實發見ノ爲メニ必要ト思量シタル處分ニ於テハ此交通ヲ禁止セサル可カラス

二三ノ外國法律ニハ被告人ニ對シ一層自由ヲ與ヘ即チ豫審中ト雖モ職權ヲ以テ又ハ被告人ノ請願ニ依リ代言人ヲ用フルヿヲ許ス者アリ然レ𪜈此法ハ歐洲ニ於テモ未タ其經驗ヲ充分ニ盡サヽルヲ以テ今日之ヲ日本ニ施スヿヲ得サル可シ

〔附言〕佛蘭西ニ於テ政府ヨリ會議局(シヤンブル)ニ下付シタル豫審處分改正ニ係ル法律ノ草案ハ豫審中職權ヲ以テ代言人ヲ命スルヿヲ揭ケタリ(千八百八十年一月十四日十五日官令日誌(ジユールナール、デヒシエール)ヲ見ヨ)○此問題ハ猶ホ未タ取調中ニシテ法司中若干ノ反對說アル者ノコトシ

第百五十八條

〔第二百五十一號〕抑〻密室監禁ハ例外ノ處分ニシテ且ツ被告人ノ爲メニ甚タ困苦ナル者ナレハ其時間ヲ無限ト爲ス可カラス則チ判事己レカ遺忘怠慢ニ因リ若クハ其務メヲ容易ナラシメンカ爲メ監禁ノ必要ナラサル時マテモ之ヲ遷延セシムルヿヲ得ス○故ニ法律ハ(ウリブリ、アンヂフエランス)其通常ノ期限ヲ十日間ト定メ之ニ累ヌルニ十日又十日ヲ以テスルヿヲ許容セリ○斯ク更改スルヿヲ必要トセルハ被告人ヲシテ遺忘ノ爲メ監禁時日ノ遷延ヲ被ムルヿ無カラシメントノ豫防ナリ加之ス判事ヲシテ各〻更改ノ事ト更改シタル理由トヲ裁判所長ニ告知セ

シムルヲ要スルハ是レ判事越權ノ爲メ被告人ノ保障(ガランチー)ヲ害スル無カラシムル所以ナリ

尤モ右ノ理由ニハ「眞實ヲ發見スルノ緊要」ナル語即チ一般ニ涉ル法律上ノ辭例(フナルミユール)ヲ用フ可シト雖モ判事ハ又之ニ「外人ノ誘惑(シユゼツション)ニ陷ルノ危險若クハ被告人共連類ト秘密ニ交通スルノ危險」ナル語ヲ附加スルヲ得可シ然レモ事繁冗ニ涉ル時ハ到底普通一般ノ理由トナル可ケレハ是等ノ事ハ豫審判事ニ於テ注意ス可キヿナリ又裁判所長ハ豫審判事ヲシテ成ル可ク速カニ通常ノ處分ニ從事セシム可キノ注意ヲ爲スヲ怠ラサル可シ

又後(第二百五十七條)ニ豫審判事其既ニ始メタル豫審中其處分ヲ裁判所長ニ告知スル事ノ義務ヲ記セリ此義務モ亦各人ノ自由ト善良ナル裁判事務トニ損害ヲ來ス可キ延滯ノ弊ヲ防カントスルニ原由スル者ナリ

(第二百五十二號) 法律上判事ニ命スルニ密室監禁各十日ノ期限內ニ少クモ二回ノ訊問ヲ爲ス可キヿヲ以テセリ是亦判事ヲシテ遲滯ナカラシメンカ爲メナリ判事被告人ノ訊問ヲ爲スヿ二回ノ外尙ホ數回ニ及フハ固ヨリ希望スル所ト雖モ法律上敢テ之ヲ判事ノ本務ナリトシテ望ムハ穩當ト謂フ可カラス

豫審ハ獨リ訊問ノミヲ以テ成立スル者ニ非ス繼續ノ許多ノ處分殊ニ重要ナル訟廷(シエージユ)ニ在テハ判事許多ノ時日ヲ費サヽルヲ得サル所ノ處分ニ成立スル者ナリ

訊問シタルヿヲ證明シタル時ハ則チ判事法律ヲ遵守シタル所ノ證據トナル可シ

若シ判事右ノ本務ヲ欠キタルニ於テハ場合ニ從ヒ或ハ呵責(レプリマン)ヲ受ケ

或ハ一層重劇ナル懲戒ノ處分(ヂシプリナール)ヲ受ルヿ有ル可シ○何レノ場合ニ於テモ被告人ハ密室監禁差免シノ求メヲ裁判所ニ爲スヿヲ得ルハ猶ホ後ニ第二百五十八條第四項ニ說ク所ノ不適法ノ令狀ニ對シ又ハ其他越權ニ對シテ取消ヲ求ムルヿヲ得ルカコトシ

第百五十九條

〔第二百五十二號ノ二〕密室監禁ハ判事ノ命令書ヲ以テ之ヲ命シ其更改ヲ要スル時モ亦同一ノ法式ヲ以テ更改スル者ナレハ之ヲ解クコハ更ニ一箇ノ命令書ヲ以テス可シ此命令書ハ或ハ別ニ之ヲ作リ或ハ最初密室監禁ヲ命シタル命令書ニ之ヲ附記ス○斯ノ如キ方法ヲ用フル時ハ密室監禁ノ爲メ法律ニ定ムル所ノ時期ヲ超過セサルノ證據ハ之ヲ事件ノ書類ニ就テ見ルヲ得可シ

若シ命令書ニ依ラス實際上密室監禁ヲ解キ現ニ被告人容易ク其血屬親又ハ朋友ト交通シタルノ證アル時ハ判事ノ過失ハ被告人ニ對シテ結果(コンセカンス)アル「無カル可シ(即チ被告人ノ妨碍トナラサルノ意)」○然レトモ判事ニ於テ法律ノ意ニ遵フヲ以テ最良ノ事トス若シ之ニ背キタル時ハ少クモ譴責(アウ(ルチツスマン))ヲ受ケシム可シ

〔第二百五十三號〕豫審判事被告人ヲ密室監禁ニ附セスシテ以テ其被告人ニ確定シタル一人又ハ數人ト交通スルヲ禁止シ得可キヤ否ヤノ事ハ之ヲ法律ニ記載セサルナリ

然レトモ豫審判事ハ斯ル禁止ヲ行ヒ得ルハ敢テ疑フ可キニ非ス蓋シ法律一般ニ涉ル格言ニ「多キヲ爲シ得ル者ハ亦少ナキヲ爲スヲ得可シ」トノ事アレハナリ○玆ニ一箇ノ問題アリ即チ右ニ述フルカ如ク密室監禁ヲ命セスシテ被告人ト一人又ハ數人トノ交通ヲ禁スル場合ニ於テハ特別ノ命令書ヲ緊要トスルヤ否ヤノ事是ナリ此場合ニ

於テハ特別命令書ヲ要セサル者ナリト答フ可シ○斯ル特別ノ禁止ハ被告人ヲシテ別居セシムルニ至重ナル難事ヲ提出セス是レ即チ豫審判事カ事實發見ノ爲メ常ニ用フル所ノ處分中ニ入ル可キ者トス

第三款　證據（プルーフ）

通則

有罪ノ單一ナル法律上ノ推測

第百六十條　法律ハ被告事件ノ景狀ニ因リ有罪タル可シトノ推測ヲ一モ定ムルヿナシ但シ裁判ヲ經タル事物ノ効力ノ事項ニ記シタルヿハ此限ニ在ラス（草、第八條第三項、第九條第三項、第四十九條第三項、第五百六十條第三項、第五百六十四條）

其他判事ノ査定シタル證據

被告人ノ自由ニシテ且ツ隨意ナル白狀（リーブル　エー　ウラロンテイール、アウー）、官吏ノ檢證調書、證據物件、證人ノ擧證、鑑定人（エキスペール）ノ具申、事實ノ推測及ヒ其他諸般ノ證憑ハ良心（ラツボール　ピエース、アコンヴイクシヨン　コンシヤンス）ノ命スル所及ヒ正理ノ照ス所ニ循ヒ心證ヲ組成スル所ノ判事ノ査定ニ委チラルル可シ（治、第百四十六條○草、第四百五十二條十六○佛治、第三百四十二條）

證據ヲ集取スル判事ノ本務

第百六十一條　一旦訴ヲ受ケタル豫審判事ハ或ハ其職權若クハ政府ノ目代ノ特別ナル請求ニ依リ或ハ民事原告人若クハ被告人ノ請願ニ依テ有罪、無罪ノ證據徵憑即チ事實發見ノ助ケトナル可キ證據又ハ徵憑ヲ集取スルヲ要ス（治、第百四十七條）

書記ノ立會制裁無効

第百六十二條　判事被告人ノ訊問、家宅搜索、臨檢、物件差押又ハ證人ノ尋問（ティーシヨン）ヲナス時ニハ裁判所ノ書記ノ立會（アツシスタンス）ヲ要ス若シ書記ノ立會ナキ時ハ無効（アベーメ、ド、ニユールディー）タル可シ書記ハ其所爲ノ景狀（オペラシヨン　シルコンスタンシエー）ヲ記シタル調書（アクト）ヲ作リ而シテ判事ト共ニ之ニ手署ス可シ

其所爲之ヲ裁判所外ニ於テ行ヒ急速ヲ要スル場合及ヒ書記ノ立會ヲ

得ルヿ能ハサル場合ニ於テハ判事ハ二名ノ證人ヲ立會セシムル可シ若シ監獄内ノ訊問ニ係ラハ該監獄長又ハ該監獄ノ書記ヲ立會セシムル可シ（ザレクトール）

是等ノ場合ニ於テハ判事親カラ檢證ノ調書ヲ作リ之ヲ朗讀シタル上ニテ其立會人ヲシテ之ニ手署セシムル可シ（治、第百四十八條○草、第三十七條○佛治、第六十二條）

要旨

第二百五十四號　刑事ノ訴訟手續ニハ證據論理（デチリー）ノ重要ナル事、民事ノ事項ト刑事ノ事項トハ證據ノ方法ニ差別アル事

第二百五十五號　民事ノ事項ニ在テハ眞ニ所謂ル證據即チ人證（プロブルマンザット　ブルーブ）及ヒ法律上若シクハ所爲上ノ推測（プレゾンプシヨン）

第二百五十六號　刑事ノ事項ニ在テハ宣誓（セルマン）

第二百五十七號　隨意及ヒ自由ノ白狀

第二百五十八號　被告人ノ通信書及ヒ證書類（コレスポンダンス　ドキユマン、エクリイー）

第二百五十九號　公正證書（チーメンチツク）

第二百六十號　常人ノ證據

第二百六十一號　鑑定（エキスペルチーズ）

第二百六十二號　事實ノ推測、徵憑、「エビダンス」（アンヂース）特ニ證據ヲ要セサル明白ノ義ナリ以下確證ト反譯ス

第二百六十三號　心證ニ係ル書類

第百六十條

第二百六十四號　裁判ヲ經タル事物ノ効力ハ獨リ犯罪人ノ不利ニノミ認許セラレタル法律上ノ推測ナル事、此効力ハ被告人ノ

保護ニモ亦認許セラルヽ事

第二百六十五號　其他被告人ノ保護トナル可キ法律上ノ推測

第二百六十六號　其他正理ト判事ノ良心トニ委ヲラレタル證據ノ力

第百六十一條

第二百六十七號　豫審判事カ有罪及ヒ無罪ノ證據ヲ集取スルノ權利及ヒ本務

第百六十二條

第二百六十八號　書記ノ立會ノ必要ナル事○其原由○制裁即チ無効タル事○代理スル事ノ特別ノ場合

第二百五十四號　凡ソ刑事訴訟手續ハ其目的ニ於テ證據理論ノ最モ重要ナルハ敢テ言ヲ俟タサルナリ○故ニ犯罪ノ證據ハ刑事ノ訴訟全體ヲ成スト謂フヲ得可シ何トナレハ凡テ罪責ヲ被ラシムルノ力及ヒ凡テ辯護ノ力ハ其基ク所一トシテ證據ニ非サルヿ無ケレハナリ○故ニ證據ナキ時ハ犯罪アリト云フヿ能ハス又證據ナキ時ハ處斷スルヿ能ハス

下ニ述フル所之ヲ證據ノ集合ト謂フ即チ證據ノ被告人ニ責ヲ歸ス可キ事實其物ノ眞正上ニ存在スル事刑罰ノ爲メ法律上希望スル所ノ證據トナル可キ性質ニ比較シテ即チ證據ノ設定セラル可キ性質上ニ存スル事、人ノ一身上又ハ其責任ニ存スル等即チ其人ニ責ヲ歸ス可キ事實タリト爲ス所ノ意思、自由、才能ニ係ル良心ノ要件ニ存スル事、其他心術ノ罪惡又ハ社會ノ害毒ノ重劇ヲ增減シ得可キ內外兩部ノ景狀ノ會萃ニ存スル事是ナリ其景狀ノ一ハ純粹ニ內部即チ人ノ意思ニ關スル者ニシテ夫ノ豫メ殺害ヲ謀リタルカ如キ是ナリ又

一ハ全ク外部ニ屬ス即チ時日、場所、方法、犯人ノ數多ナル等ノ如キ是ナリ是等ノ景狀ハ數多ノ重罪及ヒ輕罪ニ在テ證明スルニ最モ重要ナル者トス

何レノ場合ニ於テモ法律ノ適用ヲ爲スニ當リ凡テ犯罪ノ是等ノ元素アルヲ同時ニ證スルニ及ハス時トシテハ其元素モ被告人ノ辯論セサル者アリ又時トシテハ罪ヲ被ラシムルカ爲メ必要トセサル者アリ○然レトモ證據ノ事ニ於テハ常ニ爭論辯論ノ生スル者ナリ

證據ノ方法ハ刑事ト民事ト全ク相同シカラス又假令ヒ刑事、民事ニ相通スル證據ト雖モ常ニ同一ノ方法ヲ行ヒ同一ノ効力ヲ有スル者ニ非ス○又刑事上ニ於テハ民事上ニ於ケルヨリモ或ハ認許セラレタル證據多カル可ク又普通ノ證據ニ付與セラレタルヨリ一層効力多カル可シ然レトモ是等ノ差別ハ等シク被告人ノ不利トナル丈ケ亦被告人ノ利トモナル可キ者ナリ○刑事、民事ニ使用スル證據ノ大意ハ以テ其差別アルヿヲ明瞭ニ知ラシム可シ

〔第二百五十五號〕民事上ニ於テハ雙方ノ者ヨリ中立ル事實ヲ證明スルノ方法ヲ常ニ二級ニ區別シ其一ヲ眞ニ所謂證據（プルーブ）ト云ヒ其一ヲ推測（プレソンプシヨン）ト云フ

凡テ證據ハ直ニ問題ノ事實ニ關スル者ナレハ人ノ證據（ナツム・プルーブ）即チ人證ノ性質ヲ備フル者ナリ即チ公正證書ニ於テハ公ケノ官吏ノ爲シタル證據、特ニ「テスチモニアール」（人證）ト稱スル證據ニ於テハ常人ノ爲ス所ノ證據、又追認證書若クハ口頭ヲ以テスル白狀ニ於テハ雙方ノ中一方ノ者已レニ對シテ爲ス所ノ證據或ハ又其一方ノ者誓ヲ爲ス可キノ求メヲ受ケ又ハ反シ（レフエレイー）求メラレシ時（誓ヲ反シ求ムルトハ誓ノ求メヲ受ケシ者ヨリ反テ誓ヲ求メシ者ニ對シテ誓ヲセヨト求ムルヲ云フ）ニ爲シタル誓ニ於テハ、己レノ爲メニスル證據

即チ是ナリ鑑定人ノ申述モ亦人證ニ類似ノ者トス

推測ハ他ノ性質ヲ有スル者ニシテ毫モ人證ノ性質アルヿナシ

民事上ニ於テハ毫モ異議セラレサル事實即チ證據立テラレタル或ル事實アルヨリシテ法律ハ物ノ通常ノ景狀及ヒ可眞的上ニ基キタ(ウレーサンブランス)ル一種ノ推測論(コンジユクチユール)ニ因リ實ニ有テ未タ證セラレサル所ノ事實ヲ惹出スルノ場合太タ多シトス○故ニ妨碍ナク且ツ公示シテ以テ不動產ヲ占有(ポツセーション)スルヿ久ケレハ其占有者ハ則チ所有者ナリト云フヿヲ惹出ス又義務ノ請求期限ノ後歲月ノ久キヲ經ルモ權利者ノ請求ナキ時ハ則チ義務者其義務ヲ辨濟セリト云フヿヲ惹出ス或ハ又利息ヲ記スルヿナク唯元金ノミノ受取書アル時ハ此利息ハ既ニ拂フタリトノヿヲ惹出ス○是等ノ推論、想像ヲ稱シテ推測(プレゾンプシヨン)ト云フ(看附言)而シテ推測ノ法律ヨリ生スル時ハ之ヲ法律上(レガール)ノ推測ト云フ蓋シ事實ノ

推測又ハ人ノ推測ト云フニ對スルナリ事實ノ推測若クハ人ノ推測トハ法律ヨリ採ルニ非スシテ事實ヨリ採ル所ノ者即チ判事ノ明知ニ委ヲラルヽ者ヲ云フナリ

〔附言〕「プレゾンプシヨン」(推測)ノ語ハ羅甸ノ「プロエー」(前)及ヒ「ジユメレイー」(取)ヨリ來ル者ニシテ即チ「豫想(プレコンシユ)ノ說」又ハ「調查前ノ決斷」ト云フ義ナリ然シテ本ト善事(ボンヌ、ハール)ニ用ヒラレタル者ナリ

法律上ノ推測ハ時トシテハ他ニ證據立テラレサル或ル事實ノ心證ヲ判事ニ附屬ス○然レトモ法律上ノ推測ハ其勢力ニ差等アリ即チ一ハ反對ノ證據ヲ認許シ一ハ之ヲ認許セサルヿ是ナリ

現今日本ノ法律ニ於テハ未タ此點ニ附キ充分明確ナラスト雖モ他日民法ノ新編纂ニ方テハ歐洲ニ於ケルカ如ク法律上ノ推測ニ擴大ナル部分ヲ設ケラル可キヿト信セリ

眞ノ證據ノ中ニ於テモ亦勢力ニ差等アリ即チ一方ノ者ヨリ求メタル誓ハ訴訟裁決(デシソリール)ノ誓ト云フ蓋シ其之ヲ爲シタル一方ノ者ハ勝訴トナリ之ヲ拒ミタル者ハ敗訴トナルヲ以テナリ又裁判所ニ於テ爲シタル白狀ハ之ヲ爲セシ者ノ敗訴ヲ惹起ス又事實證明ノ任アル公ケノ官吏カ此事件ハ此人ノ爲シタル者ナリト其人ヲ認知シタル事實ニ關スル所ノ證據ハ虛無(フテー)ナリトノ訴ニ因ルニ非サレハ襲擊セラレサルナリ(此證據ハ虛無ナリト記入(アンスクリイー)セラルヽ迄ハ信用ス可キ者ナリ)終ニ常人ノ陳フル所ノ證據ハ甚タ制限セラレタル力ヲ有スル者ニテ而シテ餘リ至重ナラサル訴訟カ又ハ雙方ノ者ニ於テ記載シタル證據即チ證書ヲ得ルニ難キ時ニ非サレハ認許セラルヽヿナシ

〔第二百五十六號〕 刑事ノ事項ニ於テハ認許セラレタル證據ノ性質上及ヒ其證據力ノ度ニ於テ大ニ差別ノ在ル者ナリ

先ツ誓ハ犯罪事件ノ生存上ニモ亦有罪タルノ元素上ニモ之ヲ被告人ニ求ムルヿヲ得ス又被告人モ之ヲ求ムルヿヲ得ス何トナレハ被告人己レカ固有ノ訴訟ニ附キ判者タルヲ得ス又其判斷ヲ檢察官若クハ民事原告人即チ己レニ罪ヲ被ラシムル者ニ委ヌルヿヲ得サレハナリ第一ノ場合ハ其主意被告人僞證ニ因テ法網ヲ免カレントスルノ詐術ト誓ヲ拒テ處斷セラレントスルノ危險トノ中間ニ在リ第二ノ場合ハ被告人其相手方ノ決定ニ其身ヲ委ヲハ不慮ニ法律ト公平トノ恩惠ノ利益ヲ失フヿヲ有ルカ故ナリ

〔第二百五十七號〕 之ニ反シテ白狀ハ刑事ノ事項ニ認許セラルヽ者トス○固ヨリ白狀ハ證據中ニテモ判事ノ爲メニ最モ心證ヲ與フ可キ證據ノ一ナリ何トナレハ人タル者ハ己レカ爲サヽリシ善事ハ屢之ヲ公言スルノ僻アレトモ己レカ爲サヽル所ノ惡事ヲ言テ罪ヲ被

ラントスル者決シテ有ラサレハナリ

白狀ヲシテ證據力ヲ有セシメンカ爲メニハ必ス其白狀ノ隨意ニ出テ且ツ完全自由ナルヲ要スルハ言ヲ俟タスシテ明カナリ

諸國ノ歷史ヲ按スルニ多クハ拷問即チ罪ト罪タラサルヿヲ辨別スルヲ許サヽル苛刻不條理ナル問題ノ慣習ヲ載セタリ蓋シ刑法ノ最モ初歩ニ涉ル思意ニ反スル者ナリ何トナレハ被告人ハ己レヲ防禦スルノ本然ノ權利アルモ自カラ罪ヲ被ムルノ本務ナク又既ニ被告人ニ對シ其有罪又ハ無罪ニ附キ宣誓ヲ求ムルヿヲ原告人罪ヲ被ラシメントスル者ニ禁セサル可カラサル以上ハ又被告人ニ對シテモ苛酷ノ中ニ强テ白狀スルヿヲ禁ス可キ堅固ナル道理アルハ敢テ論スルニ及ハサル程ノヿナレハナリ

其白狀ノ自由ニ出テタル以上ハ隨テ生スル所ノ「プロバビリテイー」

推測、憶測、推察、忖度、測量、拓ノ義ナリ即チ推測モ亦正確タル可シ○然レトモ亦茲ニ全ク心證ニ涉ル所ノ證據ヲ見ルカ爲メニハ大ナル疑惑ナキヲ保セス○故ニ至重ノ罪責此語直譯ニ係ル以下死刑ト反譯スカピタール、アッキユザシヨン下ニ於テ自殺ノ悲ム可キ膽略ヲ保有セサル國ニ於テハ白狀ハ生命ノ嫌惡及ヒ其嫌惡ヨリシテ死刑ノ言渡ヲ受ケ因テ以テ其身ヲ終了シ去ラントスルノ希望ヲ生スルヿ有ル可シ○又至重ナラサル罪責ニ在テモ漂泊者若クハ惰弱人ノ爲ス白狀ハ獄舍ニ永ク住居ヲ占メ而シテ養料ヲ貪ラントスルノ方法ニ出ルヿ有ルハ亦以テ眞ス可キノ事ナリ○又或ハ多少重劇ナル數多ノ罪惡ノ本人其數多ノ罪惡ニ就テ未タ嫌疑ヲ受ケサルニ方リ其數多ノ罪惡中最モ輕キ犯罪ノミヲ白狀シ以テ其他己レカ犯セシ重罪、輕罪ノ嫌疑ヲ免カレンヿヲ希望スル者アル可シ○其僞リノ白狀中最モ恐ル可キ場合ハ即チ血屬親、配耦者又ハ朋友ニ存ス可キ正當

ノ嫌疑ヲ曲庇センカ爲メ被告人自己ノ釀サヽル犯罪ニ附キ其罪人ナリト白狀スル是ナリ而レ𪜈此場合ハ免罪ノ爲メ最モ有効ナリトス

是等ノ例ハ白狀モ判事ニ心證ヲ供スルノ證據即チ常ニ處斷ヲ惹起ス可キ證據ニ非サルハ明カナリ○尙ホ疑團ノ存スル有レハ玆ニ之ヲ氷解スルノ考察アリ即チ白狀ハ假令ヒ隨意ニ出テ且ツ自由ニ成レル時ト雖モ有形ノ事實上及ヒ犯罪ノ外部ノ景狀（即チ意思ニ關セサル者）ニ於ケルニ非サレハ理ニ於テ成立スルヿヲ得スス（故ニ有形ノ事實等ニ關スル白狀ヲ以テ證據トス）故ニ唯一白狀ノミニテハ未タ之ヲ以テ充分ニ被告人ノ意思其自由ニ出テタルヲ證スルヲ得ス又殊ニ罪犯ヲ釀シタル理由ノ景狀ヲ證明スルヲ得ス是等ノ事ヲ證スルヿ無ケレハ被告人ハ刑法上ノ責任ナシ、斯ノ如ク白狀ハ以テ意思等ヲ證明シ得サル者トスルハ即チ是レ人タル者ハ己レカ固有ノ精神ノ景狀ノ判者ト認メラルヽヿヲ得サルニ由ルナリ

之ニ反シテ外部ノ事實ニ就テハ判事ハ隨意ノ白狀ヲ大概信シ用フルヲ得ルナリ何トナレハ先ツ其白狀ノ僞リナル事少ナク且ツ多クハ他ノ證據ニ據テ確定セラル可キ者ナレハナリ

〔第二百五十八號〕 被告人ノ提出シタル通信書又ハ證書類ハ白狀ト同樣ノ者ニシテ或ハ白狀ニ等シキ力ヲ有シ或ハ白狀ニ勝レル力ヲ有ス何トナレハ是等ノ書類ハ搜索ニ因テ發覺セラルヽ者居多ニシテ欺計ヲ用テ豫メ之ヲ作リ置クヿ能ハサル可ケレハナリ○是等ノ事ハ被告人其書中ニ於テ自カラ犯罪人ナリト明言セサルヲ以テ眞ノ白狀ト稱ス可カラスト雖モ自然被告人ハ自カラ其惡事タルノ證據又ハ斯々ノ所爲ニ加ハリタリトノ證據ヲ具スル者ナリ